

《*短期大学の特色等》の記述について

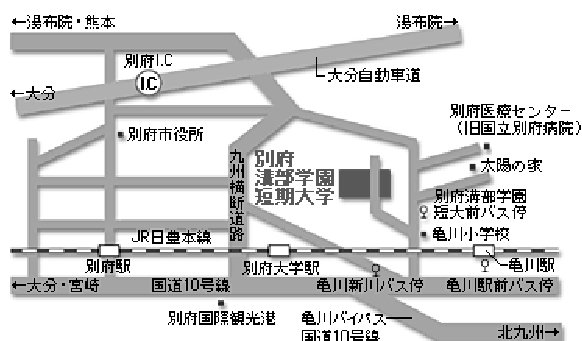
(1) 短期大学を設置する学校法人(以下「法人」という。)の沿革(概要)及び短期大学の沿革(概要)。

学校法人溝部学園は昭和 21 年 4 月に溝部ミツアによって創設された別府高等技藝学校を前身に、昭和 28 年学校法人溝部学園を設立、初代理事長に溝部ミツアが就任した。昭和 31 年、別府女子高等学校(家庭科・商業科)を設置し、その後、同校に専攻科を設置、より一層の技術の錬磨を目指し、昭和 39 年専攻科を短期大学に昇格させ、別府女子短期大学を設置した。同年 9 月に第二代理事長に相良範子が就任。昭和 40 年歯科衛生士学院、昭和 43 年別府女子短期大学付属ひめやま幼稚園、昭和 44 年大分県歯科技工士学院を設置した。別府女子短期大学は、平成 15 年 4 月に校名を変更、現在の別府溝部学園短期大学となる。昭和 51 年に歯科衛生士学院、大分県歯科技工士学院を大分県歯科技術専門学校として統合改称し、現在に至っている。別府女子高等学校は、昭和 61 年に名称を別府女子短期大学附属高等学校に変更し、男女共学校へと変わった。その後、平成 15 年 4 月に短期大学の校名変更にともない、現在の別府溝部学園高等学校へと変わった。上記の通り、現在、学校法人溝部学園は別府溝部学園短期大学に加え、大分県歯科技術専門学校、別府溝部学園高等学校、別府溝部学園短期大学付属ひめやま幼稚園を有し、部門間の連携を密にしながら、内容の充実に努めている。

別府溝部学園短期大学の前身は別府女子高等学校専攻科であり、昭和 39 年被服科(入学定員 40 名)を有する別府女子短期大学が設立され(初代学長 溝部ミツア)、昭和 41 年に食物科(入学定員 50 名、翌年 100 名に増員)、昭和 43 年には幼児教育科(入学定員 50 名)を設置した。昭和 61 年には各科の名称を変更し、被服科を服飾デザイン学科、食物科を食物学科、幼児教育科を幼児教育学科とした。平成 14 年 12 月には介護福祉学科の設置が認可され(入学定員 40 名)、平成 15 年 4 月に現在の別府溝部学園短期大学に校名を変更する。この間、初代学長溝部ミツアに続き、昭和 39 年第二代学長に相良好仁が就任、平成 10 年には第二代学長相良好仁が名誉学長となり、第三代学長に現学長の溝部仁が就任した。前身の別府女子短期大学は、女子教育に取り組んで来たが、昭和 55 年 4 月幼児教育学科に初めて男子学生の入学を認め、その後、全学科にも受入れるようになった。平成 19 年度は、服飾デザイン学科(ファッション造形コース・グラフィックデザインコース 入学定員 40 名)、食物学科(健康栄養コース・保育栄養コース・医療情報コース 入学定員 100 名)、幼児教育学科(入学定員 50 名)、介護福祉学科(入学定員 40 名)という構成であったが、平成 20 年度に、服飾デザイン学科を廃し、ライフデザイン総合学科(入学定員 60 名)を新学科として立ち上げた。また、食物学科は食物栄養学科(健康栄養コース・保育栄養コース・医事栄養コース 入学定員 60 名)へ名称変更し、幼児教育学科は入学定員を 70 名に増員した。介護福祉学科については変更は行われていない。

(2) 短期大学の所在地、位置（市・区・町・村の全体図）、周囲の状況（産業、人口等）等。

本学は大分県別府市の北部である亀川に位置している(所在地:大分県別府市大字野田字通山78番地)。北へ向かうと北九州市や仏の里で有名な国東半島がある。本学の周辺には別府医療センター（前国立別府病院）や太陽の家（身体障害者更生援護施設）があり、山手へ向かうと有名な”地獄めぐり”のコースとなっている。環境としては比較的閑静な場所といえる。別府市の人口は約13万人であるが、APU（立命館アジア太平洋大学）、別府大学、本学と大学が3校あり、留学生の多い都市としても全国的に有名である。本学の学生は約8割が県内出身者であり、県外出身者の大半が九州内である（平成20年5月1日現在）。キャンパス内には附属ひめやま幼稚園、別府溝部学園高等学校及び大分県歯科技術専門学校が設置されており、大分市には法人は別であるが寒田ひめやま保育園がある。



(3) 法人理事長、学長の氏名、連絡先及びその略歴、ALOの氏名、連絡先及びその略歴。なお、連絡先としては、TEL、FAX、E-Mail等を記載して下さい。

学校法人溝部学園 理事長

氏名	連絡先	略歴
相良 範子	〒874-8567 別府市大字野田字通山78番地 別府溝部学園短期大学 TEL 0977-66-0224 FAX 0977-67-8133 E-Mail n_sagara@mizobe.ac.jp	昭和31年3月 別府大学短期大学部生活科卒業 昭和31年4月 別府女子高等学校教諭 昭和38年9月 別府女子短期大学助手 昭和39年9月 学校法人溝部学園理事長 昭和40年4月 日本文化協会理事 昭和47年4月 別府女子短期大学助教授 昭和50年4月 同 教授 平成10年11月 勲四等宝冠章を受章 平成15年4月 別府溝部学園短期大学 校名変更

別府溝部学園短期大学 学長

氏名	連絡先	略歴
溝部 仁	〒874-8567 別府市大字野田字通山78番地 別府溝部学園短期大学 TEL 0977-66-0224 FAX 0977-67-8133 E-Mail h_mizobe@mizobe.ac.jp	昭和42年3月 日本大学商学部商学科卒業 昭和46年3月 福岡大学大学院商学研究科 経営学専攻修士課程修了 昭和48年4月 別府女子高等学校教諭 昭和50年4月 別府女子短期大学講師 昭和51年4月 同 助教授 昭和53年4月 溝部学園総務部長兼任 昭和60年6月 別府女子短期大学学生部次長 昭和61年4月 同 教授 平成4年4月 同 学生部長 平成5年4月 同 副学長 平成10年4月 同 学長 平成15年4月 別府溝部学園短期大学 校名変更

別府溝部学園短期大学 ALO

氏名	連絡先	略歴
土井 敏行	〒874-8567 別府市大字野田字通山78番地 別府溝部学園短期大学 TEL 0977-66-0224 FAX 0977-67-8133 E-Mail t_doi@mizobe.ac.jp	昭和45年3月 大分大学教育学部保健体育学科卒業 昭和49年4月 別府女子高等学校教諭 昭和54年4月 別府女子短期大学講師 昭和62年4月 同 助教授 平成 9年4月 同 教授 平成15年4月 別府溝部学園短期大学 校名変更

(4) 平成14年度から20年度までの学科・専攻ごとの入学定員、収容定員、在籍者数、定員充足率を次ページの表を例に作成して下さい。廃止、募集停止等の学科を含む該当する期間内に設置されたすべての学科について作成して下さい。なお、在籍者数は毎年度5月1日時点とします。

(平成20年5月1日現在)

学科・専攻名	14年度	15年度	16年度	17年度	18年度	19年度	20年度	備考
服飾デザイン学科	入学定員	40	40	40	40	40	40	[募集停止]
	収容定員	80	80	80	80	80	80	40
	在籍者数	79	71	72	79	71	59	25
	充足率(%)	99%	89%	90%	99%	89%	74%	63%
ライフデザイン総合学科	入学定員						[新設] 60	
	収容定員						60	
	在籍者数						61	
	充足率(%)						102%	
食物栄養学科 (食物学科)	入学定員	100	100	100	100	100	100	60
	収容定員	200	200	200	200	200	200	160
	在籍者数	159	170	185	168	141	144	118
	充足率(%)	80%	85%	93%	84%	71%	72%	74%
幼児教育学科	入学定員	50	50	50	50	50	50	70
	収容定員	100	100	100	100	100	100	120
	在籍者数	140	139	128	133	139	118	85
	充足率(%)	140%	139%	128%	133%	139%	118%	71%
介護福祉学科	入学定員		[新設] 40	40	40	40	40	40
	収容定員		40	80	80	80	80	80
	在籍者数		39	78	84	78	72	57
	充足率(%)		98%	98%	105%	98%	90%	71%

(5) 平成 17 年度～19 年度に入学した学生の出身地別人数及び割合（10 程度の区分）
を下表を例に毎年度 5 月 1 日時点で作成して下さい。なお、短期大学の実態に沿って地
域を区分して下さい。

年度 都道府県	平成17年度		平成18年度		平成19年度	
	人数	%	人数	%	人数	%
大分	176	79.6%	174	81.7%	154	79.0%
沖縄	5	2.3%	2	0.9%	4	2.1%
宮崎	7	3.2%	8	3.8%	10	5.1%
熊本	3	1.4%	4	1.9%	5	2.6%
鹿児島	2	0.9%	0	0.0%	2	1.0%
福岡	2	0.9%	6	2.8%	0	0.0%
長崎	2	0.9%	0	0.0%	2	1.0%
佐賀	0	0.0%	1	0.5%	1	0.5%
広島	1	0.5%	0	0.0%	0	0.0%
その他	23	10.4%	18	8.5%	17	8.7%
合 計	221	100%	213	100%	195	100%

(6) 法人が設置する他の教育機関の所在地、入学定員、収容定員及び在籍者数の表
をそれぞれ下表を例に平成 20 年 5 月 1 日時点で作成して下さい。

(平成 20 年 5 月 1 日現在)

教育機関名	所在地	入学定員	収容定員	在籍者数
大分県歯科技術専門学校	別府市大字野田字通山78番地	85	220	124
別府溝部学園高等学校	別府市大字野田字通山78番地	160	560	390
附属ひめやま幼稚園	別府市大字野田字通山78番地	70	175	139

(7) その他評価員が誤解しないように事前に知ってもらいたい事項や事情があれば、
記述して下さい。

特になし。

建学の精神・教育理念・教育目標

1. 建学の精神、教育理念について

(1) 建学の精神・教育理念を記述し、その意味するところ及び建学の精神・教育理念が生まれた事情や背景をできるだけ簡潔に記述してください。

本学は、昭和 21 年に別府高等技藝学校を創設した時に遡る。先代理事長の溝部ミツエ（以後「先代」）は、大分県立第一高等女学校（以下「第一高女」）の教諭として永らく勤務した。その後、京都府立女子専門学校教授の時に終戦を迎えた。戦後の混乱期のために、自宅待機をしていた。第一高女の教え子の多くが、戦争未亡人となっていた。明日の糧が欠乏しており数百名の教え子が先代を訪ねてきて、糧を得るための相談があったと聞いている。自らの未亡人としての苦悩と多くの教え子の困窮を目の当たりにした経験から、「女子に自立自活できる資格を与えよう」というのが建学の精神となった。昭和 28 年に学校法人を設立、昭和 31 年別府女子高等学校を設置した。その後、専攻科を設置し、より一層の技術の錬磨を目指していた。この専攻科を昭和 39 年、短期大学に昇格したのである。

この後、昭和 40 年歯科衛生士学院と昭和 43 年に幼稚園を設置した。昭和 44 年 4 月に大分県歯科技工士学院を設置し、男女共学にした。昭和 55 年より短期大学幼児教育科に男子学生の入学を認めた。この段階で、建学の精神を変革する必要があったが、男子学生が少数のために、建学の精神を変更することはなかった。昭和 61 年に約 30 年間親しまれた別府女子高等学校の名称を別府女子短期大学付属高等学校に変更し、男女共学の高校に生まれ変わった。

そこで短期大学の建学の精神としては、男女共学に対応するために、企画運営委員会で協議し、教授会、理事会にて「自立・自活できる人材の育成」を新しい建学の精神と決めたのである。

この経緯で理解できるように、約 40 年間にわたり女子教育中心であった学園の根本を変革しなければならなくなったのである。昭和 61 年は、まさに学園にとって、ターニングポイントとなったといえる。この時に、相良好仁学長（現在の名誉学長）は、「貴方はその資格の他に何ができますか」という新しい時代に即応した合言葉を提唱し、これが現在の教育理念と教育目標となっている。

平成 7 年に実施した創立 50 周年を終わる頃から、情報化・高齢化・少子化が声高に叫ばれはじめた。即ち、「コンピュータ社会」・「男女共同参画社会」と「高齢社会」の三点に収斂されるようになってきた。そこで、きたるべき高齢化社会を見据え、短期大学に介護福祉学科を設置した。この計画と同時並行で、「男女共同参画社会」のために、男女共学を決断し、校名の変更を計画し、現在の「別府溝部学園短期大学」と「別府溝部学園高等学校」に変え、現在に至っている。

(2)現在は建学の精神・教育理念をどのような形や方法で学生や教員に知らせているかを記述してください。

建学の精神・教育理念は入学式・卒業式では学長が説明し、入学後のオリエンテーションでの全学アセンブリを含め、年5回(4月、7月、12月、1月)の全学アセンブリで学生部長が学生、教職員に説明している。

また、6月に開催される統一進学説明会では県内の高等学校の教職員に説明している。

2. 教育目的、目標について

(1)多くの短期大学が複数の学科・専攻(専攻科を含む。以下「学科等」という。)を設置しています。その場合、それぞれの学科等では建学の精神や教育理念から導き出された、より具体的な教育目的や教育目標を掲げているものと思います(例えば、学科・専攻の設置認可の際に「設置の趣旨」等で示されたもの等)。ここではそれぞれの学科等が設置している具体的な教育目的や教育目標を記述してください。

本年度から実施する分掌等の自己点検において、全学共通の教育目標を設定した。

教育目標

自立的でかつ調和のとれた豊かな人間性を育成するとともに、生を慈しみ相互の人格と尊厳を尊ぶ社会性を培う。

真理の探究に努め、新時代に求められる教養を身につけ地域社会への貢献を果たすべく高い専門性の修得を図る。

心身の鍛錬に励み、進取の気概に溢れた明朗活発な心と自らの能力の最大限を發揮しうる優れた体力を養成する。

以下に、各学科の教育目的を示す。

1) 服飾デザイン学科

現代社会は急激なテンポで変動しており、経済優先から生活優先、物の豊かさから心の豊かさを目指した社会の実現が期待されている。服飾デザイン学科はこのような社会に対応し、専門職としてのニーズに応えられる学生の養成を目指し、センス豊かな色彩感覚と卓越した感性、デザイン力を高める教育に努めている。さらに、幅広い教養と専門的な知識を深く学び、優れたバランス感覚としなやかな感性を身につけた、時代の求める人材の養成をめざす。

2) 食物学科

21世紀社会で求められる「健康」について運動、栄養、休養の面から適切な指導のできる栄養士を養成する。飽食の時代、従来の成人病が生活習慣病と名称が変更され、健康増進と疾病予防のため生活習慣の重要性が見直されている。栄養学、調理学、食品学、その他の食関係学を学び、更にコンピュータ等の情報機器を駆使して給食管理及び正しい栄養指導ができる栄養士を目指す。また、社会情勢の急速な変化にも対応して生き抜いていくために、情報処理やビジネス処理等について重点的に学び、事務処理の分

野でも活躍できる人材の育成にも努める。

3) 幼児教育学科

幼児教育学科では、普遍的に求められる保育者の資質や能力の育成と、常に時代や社会の変化を見極め、その求めに対応しうる資質能力の育成を目指し、次の5項目にわたる教育目標を定めている。この教育目標の実現を目指すとともに、必要な資格を効果的に取得させるように教育課程を編成し実施している。

実践的指導力を有する保育者の養成

創造的資質能力と基礎的保育力の育成

豊かな心と個性や創造性の基礎を培う教育力の育成

家庭や地域社会の子育て支援力の育成

社会人としての豊かな教養と知識の習得

4) 介護福祉学科

「超高齢社会」を目前に、今その福祉を担う専門職としての介護福祉士の役割が大きくなっている。こうした時代の要請に応えるべく、介護福祉学科は短期大学としては大分県で唯一の介護福祉士を養成する学科として平成15年度に発足した。学科のコンセプト「元気よく生活支援ができ、人の気持ちに寄り添える、礼儀正しい介護福祉士」の養成を目指し、高度な介護技術と共に高齢者の心を理解し円滑なコミュニケーション力を養うことを教育目標とし、その達成を目指した教育課程を編成し実施している。さらに、高齢者の生活をトータルに支えるために、栄養・調理などの知識や技術、併せて衣服や住居などの家事援助について学ぶとともに視・聴覚障害者ともコミュニケーションがとれるよう「点字」や「手話」の講座を開講している。

(2)それぞれの学科等の教育目的や教育目標を、現在はどのような方法で学生や教職員に周知しているかを記述して下さい。

学生に対してはそれぞれの授業を通して周知させるとともに、「学生生活ハンドブック(学生便覧)」、入学時のオリエンテーション等を活用して指導している。また教職員に対しては新任者研修、理事長・学長の講話や教授会、学科会議などを通して周知させている。

添付資料 「学生生活ハンドブック(学生便覧)」(pp.20-27)

3. 定期的な点検等について

(1)建学の精神や教育の理念の解釈の見直し、教育目的や教育目標の点検が、定期的に行われている場合はその概要を記述して下さい。また点検を行う組織、手続き等についても記述して下さい。

平成17年度までは、建学の精神について、それまでの理事長、学長の言葉、または大学案内の冊子で理解はしていたが、確たる言葉での打ち出しはなかった。

そこで企画運営委員会(平成19年2月15日)で見直しが検討され「自立・自活できる

人材の育成」を新しい建学の精神と決定した。

今後は年度毎に企画運営委員会で検討するようにしている。

(2)建学の精神や教育の理念の解釈の見直し、教育目的や教育目標の点検及びそれらを学生や教職員に周知する施策等の実施について、理事会または短期大学教授会がどのように関与しているかを記述して下さい。

建学の精神や教育理念の解釈の見直し・教育目的・教育目標の点検やそれらを周知させる施策は、全学アセンブリでの学長訓話、理事長、名誉学長挨拶、学生部長の説明の中で周知させている。平成20年度学科改組による教育課程の変更については、各学科で検討し、理事会、教授会ともに教育目的・教育目標の点検や周知のために施策をおし進めていく努力をしている。

4. 特記事項について

(1)この「建学の精神・教育理念、教育目的・教育目標」の領域で示した評価項目や評価の観点の他に、建学の精神・教育理念、教育目的・教育目標について努力していることがあれば記述して下さい。また短期大学で独自の使い方や別の語句を使っている場合はその旨記述して下さい。

特になし。

(2)特別の事由や事情があり、評価項目や評価の観点が求めることが実現（達成）できないときはその事由や事情を記述して下さい。

特になし。

教育の内容

1. 教育課程について

(1) 学科等の現在の教育課程を、下の表を例に作成して下さい。なお学科等に複数の履修コースを設定し、学生に別の教育課程表として提示している場合はコースごとに記載して下さい。平成20年度に学科改組等を行った場合は、平成19年度の教育課程表を別途作成し、巻末に綴じて下さい。

平成20年度の各学科・コースの教育課程表を巻末(評価領域 別紙1)に示す。また、平成20年度より改組を行った服飾デザイン学科、食物学科医療情報コース、食物学科留学生コースの平成19年度の教育課程表も巻末(評価領域 別紙2)に示す。尚、前年度履修人員欄において「-」としている部分は、新規の授業もしくは受講者無しを示す。また、平成20年度ライフデザイン総合学科1年の前年度履修人員は、平成19年度の服飾デザイン学科ファッション造形コース、グラフィックデザインコース、留学生コース、食物学科医療情報コース、留学生コースにおける科目履修者を基に作成している。

(2) 教養教育の取組み、専門教育の内容、授業形態のバランス、必修・選択のバランス、専任教員の配置等について特に強調したいことがあれば記述して下さい。

1) 服飾デザイン学科

現代社会は急激なテンポで変動しており、生活の基盤である私たちの衣食住もこの例外ではない。経済優先から、生活優先への物の豊かさ心の豊かさを目指した社会の実現が期待されている。服飾デザイン学科はこのような社会の要請に対応し、専門職としてのニーズに応えられる学生の養成をめざし、センス豊かな色彩感覚と卓越した感性、デザイン力を高める教育に努めている。本学園の合言葉は「あなたはこの資格のほかに何ができますか」である。幅広い教養と専門的な知識を深く学び、優れたバランス感覚としなやかな感性を身につけた時代が求める学生を養成している。

ファッション造形コース

ファッション造形コースは、ファッションアドバイザーの養成を目的に、パターンメイキングに始まり、服作りの基礎技術を通して、素材、色彩、補正法、コーディネート技術、メイクアップ技術、さらには2年次には更に高度の技術を要求されるイブニングドレス、ウェディングドレスに至る造形テクニックを学ぶ。また、産業界が必要とする、クリエイティブな能力を開発するため、アパレル産業論、豊かなイメージネーションを養うために、工業デザイン(染色、アクセサリー作り)、ディスプレイ、プレゼンテーションなど幅広いカリキュラムを組んで、時代のセンスを持つ、プロフェッショナルを目指している。卒業年度には、その成果を発表するために学外でファッションショーを毎年行っている。

グラフィックデザインコース

グラフィックデザインコースでは、基礎デザイン、イラストレーション、コピー、絵画、写真、工芸など、グラフィックデザイナーに求められる知識、技術を様々な授業を通して身につける。専門の知識と技術を身につけたグラフィックデザイナーを育

成するために、専門ソフトの基礎から応用までを学ぶカリキュラムとなっている。

2) 食物学科

健康の維持、増進、望ましい食生活など、時代のニーズに合わせ、栄養管理及び運動による消費エネルギーの計算等を通して食育ができ、即戦力として実践に強い栄養士を養成する。そのために、栄養士必修科目として、社会生活と健康、人体の構造と機能、食品と健康、栄養と健康、栄養の指導、給食の運営などに細分化された教育課程のもと授業が行われている。あわせて、より専門的知識、技術の習得のために、実務教育を実施している。

健康栄養コース

栄養士の課程を主として学び、プラスワンとして健康運動実践指導者、健康アドバイザー等の学習も行う。病院や福祉施設等多くの職場に対応できる栄養士を育成する。

保育栄養コース

食育のできる栄養士として「栄養士」、「栄養教諭」の免許が同時に取得できる。病院や施設はもとより、保育園・幼稚園・小中学校の職場で食育に対応できる人材を養成する。

医療情報コース

情報機器等について徹底的にマスターし、同時にビジネス実務、医療福祉等についても学び、病院・企業・官公庁等の事務分野で活躍できる人材を育てる。

3) 幼児教育学科

幼児教育学科では、普遍的に求められる保育者の資質や能力の育成と、常に時代や社会の変化を見極め、その求めに対応しうる資質能力の育成を目指す教育目標を定めている。この教育目標の実現に向けて、必要な資格を効果的に取得させるように教育課程を編成し実施している。

さらに、現場において現在直面する問題として人間関係がある。そこで互いにサポートし合える初歩的カウンセリング技術を身につけるためのピアヘルプの講座を平成17年度より開講している。

4) 介護福祉学科

福祉を担う専門職としての介護福祉士の養成施設として時代の要請に応えるべく、実習施設での10週間にわたる実習や学内での介護技術教育を通して高度な介護技術を身につけさせるための教育課程を作成している。

さらに、高齢者の生活をトータルで世話をするという意味で、生きていく上で最も大切な栄養、調理などの知識や技術、併せて衣服や住居などの家事援助技術についても教育しており、視・聴覚障害者ともコミュニケーションがとれるよう、「点字」や「手話」の教育も取り入れている。

介護福祉学科では、全員が、介護福祉士資格を取得するための卒業時全国共通試験に一回でパスできるようにその試験対策にも力を入れており、他の資格もできるだけ取得できるように教育課程を組んでいる。

(3) 当該教育課程を履修することによって取得が可能な免許・資格を示して下さい。また教育課程に関係なく免許・資格等を取得する機会を設けている場合は、その免許・

資格名とどのような履修方法であるかを記述して下さい。

ここでは、本学で取得可能な免許・資格について示す。尚、(国)は国家免許・資格、(民)は民間団体の資格、(学)は本学が認定する資格修了証を意味する。

1) 服飾デザイン学科

ファッション造形コース

a. 教育課程を履修することによって取得可能な免許・資格

中学校教諭二種免許〔家庭〕(国)、ファッションアドバイザー(学)、ビジネス実務士(民)

b. 教育課程に関係なく取得可能な免許・資格

ファッション販売能力検定(民)、ファッションビジネス能力検定(民)、色彩検定(民)、Photoshop クリエーター能力認定(民)、日本語ワープロ検定(民)、情報処理技能検定(民)、文書デザイン検定(民)

グラフィックデザインコース

a. 教育課程を履修することによって取得可能な免許・資格

ビジネス実務士(民)、DTP デザイナー(学)、Web クリエーター(学)

b. 教育課程に関係なく取得可能な免許・資格

色彩検定(民)、Illustrator クリエーター能力認定(民)、Photoshop クリエーター能力認定(民)、日本語ワープロ検定(民)、情報処理技能検定(民)、文書デザイン検定(民)

2) 食物学科

a. 教育課程を履修することによって取得可能な免許・資格

栄養士(国) - [全]、訪問介護員(ホームヘルパー)二級(国) - [健]、健康運動実践指導者受験資格(民) - [健]、健康アドバイザー(学) - [健]、医療秘書実務士(民) - [医]、介護保険事務課程(学) - [医]、栄養教諭二種免許(国) - [保]、ビジネス実務士(民) - [医]、情報処理士(民) - [医]、プレゼンテーション実務士(民) - [医]、診療情報管理実務士(民) - [医]、医事コンピュータ実務課程修了証(民) - [医]、ICD コーディング実務課程修了証(民) - [医]、社会福祉主事任用資格(国) - [全]

- [全]は全てのコースで取得できる免許・資格。 - [健]は健康栄養コース、 - [保]は保育栄養コース、 - [医]は医療情報コースが取得できる免許・資格

b. 教育課程に関係なく取得可能な免許・資格

食生活アドバイザー検定(民)、赤十字救急法救急員(民)、認定栄養士免許(民)、日本語ワープロ検定(民)、情報処理技能検定(民)、文書デザイン検定(民)

3) 幼児教育学科

a. 教育課程を履修することによって取得可能な免許・資格

幼稚園教諭 2 種免許(国)、保育士資格(国)、レクリエーションインストラクター(民)ピアヘルパー(民)、社会福祉主事任用資格(国) - [全]

b. 教育課程に関係なく取得可能な免許・資格

上級救命講習修了(民)、日本語ワープロ検定(民)、情報処理技能検定(民)、文書デザイン検定(民)

4) 介護福祉学科

a. 教育課程を履修することによって取得可能な免許・資格

介護福祉士(国)、社会福祉主事任用資格(国)、レクリエーションインストラクター(民)、

福祉レクリエーションワーカー(民)、介護保険実務士(民)

b. 教育課程に関係なく取得可能な免許・資格

赤十字救急法救急員(民)、日本語ワープロ検定(民)、情報処理技能検定(民)、文書デザイン検定(民)、福祉住環境コーディネーター(民)

(4) 選択科目を学生が適切に判断して選択できるように、学生便覧やガイダンス等でどのように指導しているか、また学生が希望する選択科目を履修しやすいように、時間割上どのような工夫を施しているか等について記述して下さい。

1) 服飾デザイン学科

選択科目の履修は原則として自由である。科目ごとの履修条件の指定があるが、これは履修要項に明示してある。また、基礎科目、外国語、体育、専門教育科目の他に実務教育関係科目、教職に関する科目(家庭科)、インターンシップ等の取得があり、意欲のある学生にとっては選択の幅はかなり大きい。

添付資料 2007年学生生活ハンドブック(学生便覧)履修要項 pp.44-47

2) 食物学科

選択科目の履修は原則として自由である。科目ごとの履修条件の指定があるが、これは履修要項に明示してある。また、健康栄養コースでは、基礎科目、外国語、体育、専門教育科目の他にインターンシップ、保育栄養コースでは、基礎科目、外国語、体育、専門教育科目、栄養教諭二種に関する科目、他にインターンシップ、医療情報コースでは、基礎科目、外国語、体育、専門教育科目の他に実務教育関係科目、インターンシップがあり、意欲のある学生にとっては選択の幅はかなり大きい。

添付資料 2007年学生生活ハンドブック(学生便覧)履修要項 pp.50-55

3) 幼児教育学科

選択科目の履修は原則として自由である。これは履修要項に明示してある。また、取得する免許・資格によって教養科目、外国語、体育、総合科目、原理・教育学、心理科目、福祉・医療科目、保健・栄養科目、教科科目、保育内容科目、実習、その他のレクリエーション・ピアヘルピング・インターンシップ等の科目と細分化されている教科の中から学生が選ぶ。意欲のある学生にとっては選択の幅はかなり大きい。

添付資料 2007年学生生活ハンドブック(学生便覧)履修要項 pp.58-59

4) 介護福祉学科

選択科目の履修は原則として自由である。これは履修要項に明示してある。また、取得する免許・資格によって基礎科目、外国語、体育、専門教育科目、福祉関係科目、インターンシップ、ボランティア概論・実習の中から学生が選ぶ。意欲のある学生にとっては選択の幅はかなり大きい。

添付資料 2007年学生生活ハンドブック(学生便覧)履修要項 pp.60-61

(5) 卒業要件単位数及びその他の卒業要件(必修単位の修得、学生納付金の納付等)を示して下さい。また学生にはどのような方法で卒業要件を周知させているかを記述して下さい。

服飾デザイン学科・食物学科・幼児教育学科における卒業要件は、専門科目から 46

単位以上、基礎科目・外国語・体育を含めて62単位以上取得しなければならない。それぞれ資格取得しなくても卒業できるが、原則的に各学科の専門資格を取得するよう指導している。介護福祉学科については、基礎科目・外国語・体育を含めて83単位以上取得しなければならない。また、介護福祉士の資格取得を卒業必須条件としている。

以上については、添付資料「学生生活ハンドブック(学生便覧)」「教育科目の履修方法と手続き」(pp.62-71:2007 入学生、pp.60-63:2006 入学生)に示している。同様に教育課程表(pp.43-61:2007、pp.42-59:2006)にも卒業必須科目、選択科目、コース必修又は選択科目を示しており、随時ガイダンスを行うことによって学生には周知させている。特に新学期ガイダンス及び年度末の成績発表時に卒業要件単位数を確認するよう伝達している。

学生納付金の納付等については、各年度の3月末、9月末を締め切りとしている。詳細は「学費その他の納付金」(pp.75-76:2007、pp.73-74:2006)に掲載している。

(6) 教育課程の見直し、改善について、学科等の現状を記述して下さい。なおこの項はできれば学科等の責任者(学科長、学科主任等。以下、「学科長等」という。)が記述して下さい。

各学科・コースには基本となる資格の取得ができる教育課程を作成しているが、同時に本学の教育目標の一つとして、その資格のほか一人ひとりの学生に対しより多くの資格を取得させることがある。そのため、教育課程を見直し、改善を行うに当たり、全学科に共通する基本姿勢は、時代や社会の要請に従いその資格の必要度を検討し、取捨選択する中から必要度の高いものを選んで取得させる教育課程を提供することにある。

1) 服飾デザイン学科

平成20年度には学科を廃止し、「ライフデザイン総合学科」を新学科として立ちあげるので、服飾デザイン学科としては、見直しは実施しなかった。

2) 食物学科

教育の場において「食育」の必要性が指摘されており、特に乳幼児期からの食生活習慣の指導の大切さが言われている。その要請に応えるため、従来の成人を対象とした栄養士の養成に加え、未成年者を対象とした栄養士資格と栄養教諭免許取得のための教育課程を編成し、所期の目的を達した。今後、点検評価を継続する予定である。

3) 幼児教育学科

幼稚園や保育所の現場において、人間関係の躓きにより保育活動に自信を失う保育者が増加している現状を見据え、教育カウンセリングの考え方や方法を学び、それを使って仲間同士で支え合う活動のできるピアヘルパーの講座を昨年度設けたが好評である。今後現場に出た後の追跡調査を実施し、その結果も含めて評価を行いたい。また、現場で役立つ事務処理活動につながる実務系の講座も継続中である。

4) 介護福祉学科

新設5年目の学科であり大きな見直しは行われていない。しかし、介護の世界の変化は激しいので引き続き検討を行っているところである。

2. 授業内容・教育方法

(1) シラバスあるいは講義要項を作成する際に配慮していること等を記述して下さい。

平成 19 年度の教授要項（シラバス）は各学科・コースの内容が 1 冊にまとまる形で作成されており、全学生に配布するとともに、本学 web ページにおいても公開し、必要なときにいつでも閲覧できるようになっている。年度のはじめに、各学科・コース毎に学生に対し、授業・資格内容、及び選択科目に関する指導を行うとともに、本学はクラス制を取っていることから、年間を通して各クラスの担当が適宜指導できるようになっている。

(2) 学生の履修態度、学業への意欲等について、学科長等はどのように把握し受け止めているか記述して下さい。

各学科長とともに、参考資料 別府溝部学園短期大学紀要(第 28 号 2008 pp.61-78)において、それぞれの認識を示している。

3. 教育改善への努力について

(1) 学生による授業評価を行っている場合はその概要を記述して下さい。行っていない場合にはその事由等を記述して下さい。

自己点検評価委員会の主管のもと、平成 12 年度以降継続して実施している。平成 18 年度には一部評価項目の見直しと、評価方法の改善を実施した。評価方法の改善はそれまでマークシート方式と記述との併用であったが、平成 18 年度以降は web を利用した「デジタルキャンパス」を利用し、記述評価についてもすべてコンピュータでの処理を行っている。対象は実施されたすべての科目であり、評価者は全学生である。

結果については、学科によって多少の違いはあるが、学生の満足度は非常に高く本年度の結果では「とてもそう思う」「大体そう思う」という「肯定的評価」の平均は、前期が 81%、後期が 82%となっており、一方「あまりそう思わない」「全くそう思わない」という「否定的評価」の平均は、前期が 6%、後期が 4%となっていて学生の満足度は非常に高いことがわかる。また、前期の評価を後期に生かした授業が実施されたことも伺える。

参考資料 別府溝部学園短期大学研究紀要 第 28 号 (2008)

(2) 短期大学全体の授業改善(ファカルティ・ディベロップメント(FD)活動等)への組織的な取り組み状況について記述して下さい。また短期大学の責任者(以下「学長等」という。)は授業改善の現状について、どのように受け止めているかを記述して下さい。

1) 組織的な取り組み状況

<FD 活動・SD 活動について>

本学では平成 17 年度より既存の研究委員会の業務に FD 活動、SD 活動の企画・推進に関する事項を定めている。

FD 活動については、初任者研修会、プレゼン講習会等、全教員に共通する内容については全学的に実施し、各専門分野の内容に関わるものについては各学科・コースにおいて実施している。

SD活動については、事務処理業務の最適化を図るために、各課、各学科を中心に実施している。加えて、全学的にも外部から講師を招いてSD研修を実施したり、個々の職員については、学内・学外の事務研修等の研修会に積極的に参加している。

FD活動・SD活動の実施にあたっては、他の教職員とその内容を共有するために、報告書の提出を義務づけるとともに、教職員が集まる機会に報告をするようにしている。しかし現状では報告書の提出に至らないこともあり、今後さらなる徹底と組織的な活動が必要である。

2) 学長等の授業改善に対する認識

食物学科については栄養士、幼児教育学科については保育士及び幼稚園教諭、介護福祉学科については介護福祉士それぞれ認可養成施設であり、資格取得のために定められた必修科目もある。それらの科目や定められた実習等についてはもちろん充実した教育課程のもとで程度の高い授業や実習が行われなければならない。また、服飾デザイン学科においても本学の建学の精神「自立・自活できる人材の育成」で求められているのは、多くの資格を取得しその専門的知識や技術を生かし社会に貢献できる人材であることを考えたとき、当然高いレベルの授業内容が求められる。そのような中で、本学が実施している「学生による授業評価」及び、「教員の自己点検自己評価」は両方向から自らの授業のありかたを点検することができるという観点から非常に有効な評価法と考える。ただ、留意すべきは評価を得るために興味本位の内容に陥る授業となるとすれば本末転倒である。その意味で特に学長としては、客観的な評価者として評価する必要と、同時に教授法や授業改善についての担当者自らの自己の授業への吟味を求めることも大切である。そのために学内のFD組織の充実を図ることを重点事項と考える。

(3) 担当授業について教員間の意思の疎通や協力体制、または兼任教員との意思の疎通について、学科長等は現状をどのように受け止めているかを記述して下さい。

1) 服飾デザイン学科

教育課程と科目の概要を学科会議で決める時点で講師間の意思疎通を図り、決定後は、担当教員の判断に任せている。担当教員の個性・工夫を発揮してもらっている。同じ内容を複数の教員で受け持つ場合は、教育計画を話し合い、授業運営は個々の教員に任せている。

非常勤講師単独の授業の場合、講師を委嘱する時点で学科長・教務課が、内容、到達目標、学生のレベルを伝えて協力をお願いしている。また、専任教員と非常勤講師の共同授業の場合、会議を繰り返し、到達度などを話し合うが、授業の運営方針などの重要事項は専任教員が主導する。

専門性の高い科目が多く、これらの科目の担当者の代行を務められる者を探すことは容易ではない。不慮の事態を想定して担当科目のバックアップ体制を確立することが急務である。演習などには、専任教員を複数割り当てて、技術の継承に努めている。

2) 食物学科

同じ分野の担当教員の意思の疎通や協力体制は十分と思われる。専任、非常勤を問わず担当者の綿密な協議を経て授業が行われている。また、非常勤講師に関しては、

各教科の位置付けと目標を明確にし、授業を運営してもらう形になっている。特に、資格課程の教育については連携が不可欠なので、学科会議や担当者会議などを通して、細部にわたって打ち合わせを行っている。

3) 幼児教育学科

教育課程の作成時に学科会議を通じて教授内容の関連する教員間で内容の確認を行う。非常勤講師に関しては、委嘱の際、文部科学省・厚生労働省より提示された目的等を示し、教授内容の確認を行っている。専任教員が複数で担当する実習関連の授業などは授業計画がよく話し合われた上、分担して指導している。その後学生のレベルに合わせるための情報交換が行われ、教員の連携の下に指導が行われている。また、ピアノ等は習熟度別授業を実施しており、定期的に担当者会議が行われている。授業の運営方針などの重要事項は専任教員が主導する。

4) 介護福祉学科

専任教員が複数で担当する実習関連の授業は、学科会議で教育計画を話し合い、授業計画、内容、各教科の位置付け、目標を共通認識としている。また、年間40回以上の学科会議を開き、授業の事前打ち合わせや事後打ち合わせ、実習の事前指導、事後指導の情報交換の場を持ち、指導の差が大きくないようにディスカッションしている。専任、非常勤ともに意思の疎通や協力体制は良好である。

4. 特記事項について

(1) この《 教育の内容》の領域で示した評価項目や評価の観点の他に、例えば、他の教育機関との単位互換制度、習熟度別授業、情報・メディア教育、国際理解教育、海外研修制度、インターンシップ、女子教育の伝統継承と発展への取組み等、学科等において努力していることがあれば記述して下さい。

1) 各学科習熟度別授業、ボランティア活動等努力していること

服飾デザイン学科<実践的教育>

服飾デザイン学科学生は、毎年恒例の「別府夏の宵祭り」の「スパピーチフェスタ」において、様々なイベントに参加し、地元の人とともに祭りを盛り上げた。グラフィックデザインコースの学生は、「プランニング」の授業で学んだことを実際に活かし、シティ情報おおいた(タウン情報誌)と共同で、高さ3mの湯煙をモチーフにしたデザインフラッグとTシャツアートディスプレイによって、夜の砂浜をプロデュースし、訪れる人々に驚きと感動を与えた。ファッション造形コースの学生は、ネイルアートや生花を髪にセットするなどの「ビューティ屋台」を行い、多くのお客様にご来店頂いた。砂浜を沢山のキャンドルで飾り付ける企画を行った。

2007年10月に別府ビーコンプラザで行われた、第52回九州ブロックPTA研究大会大分大会記念行事「ここは命の星」のミュージカル公演において、服飾デザイン学科ファッション造形コースの学生が衣装の製作を担当した。この公演を通じ、学生達は、実践的な技術を身につけるとともに、協力してイベントを作り上げることの大変さと大切さ、製作することの楽しさを改めて実感することができた。

食物学科<特別授業>

本学では大量調理のできる栄養士の育成を目指しており、栄養士養成カリキュラム

に加えて、「実践給食管理実習」として実習1単位の授業を準備している。この科目では、1班を約16人で構成し、栄養実務・衛生管理においてより細やかな指導ができるよう配慮している。

幼児教育学科<ピアノ習熟度別授業>

「器楽」「音楽」の科目で習熟度別にピアノの個人レッスンを行っており、各学生の個人カルテを作成している。全員が現場に出て指導ができるレベルに達することができるよう努力している。

介護福祉学科<ボランティア事業>

学生の主体性を育むことを目的とし、2年次にボランティア講座を実施している。計画から実施に至るまで学生自身が行うことによって介護実務や社会的マナーを身につけ、自主的に動くことのできる学生の育成ができています。また、外部に出たときにコミュニケーションスキルを身につけておくことができるよう、カリキュラムに「コミュニケーション論」「コミュニケーション演習」を取り入れている。

オーストラリア南クイーンズランド州立大学短期留学<海外研修制度>

日本医療福祉実務教育協会主催の研修旅行で、医療や福祉に興味のある学生、英会話の学習をしたい学生、ホームステイを体験したい学生を対象に、学科・コースに関係なく参加できる制度である。本研修に参加すると南クイーンズランド州立大学より「英語会話」「医療福祉」の各1単位が認定され、本学の卒業単位としても認定される。

(2) 特別の事由や事情があり、この《教育の内容》の評価項目や評価の観点を求めることが実現(達成)できないときはその事由や事情を記述して下さい。

特になし。

教育の実施体制

1. 教員組織について

(1) 現在の専任教員等の人数を下表を例にして作成して下さい。

本学の2008年5月1日現在の専任教員数は下表のとおりである。短期大学設置基準に定める[イ]の各学科・専攻に必要な専任教員数においては、どの学科においても満たしている。また、[ロ]の短期大学全体の入学定員に応じ定める専任教員数においても4名以上を確保できている。さらに、[イ][ロ]とも3割以上を教授とする要件も満たしている。

専任教員等の人数

(平成20年5月1日現在)

学科・専攻名 (専攻科を含む)	専任教員数					設置基準で定める教員数		助手	〔ハ〕	備考
	教授	准教授	講師	助教	計	[イ]	[ロ]			
ライフデザイン総合学科	2	3	4	0	9	4	-	0	2	
服飾デザイン学科										
食物栄養学科	3	3	0	0	6	4	-	4	2	
幼児教育学科	4	1	4	0	9	8	-	0	0	
介護福祉学科	3	1	3	0	7	7	-	0	1	
(小計)	12	8	11	0	31	23	-	4	5	
〔ロ〕						-	4			
(合計)	12	8	11	0	31	23	4	4	5	

- [注意]1. 上表の[イ]とは、短期大学設置基準(以下「設置基準」という。)第22条別表第1のイに定める学科の種類に応じて定める専任教員数をいう。
2. 上表の[ロ]とは、設置基準第22条別表第1のロに定める短期大学全体の入学定員に応じて定める専任教員数をいう。
3. 上表の助手とは、助手として発令されている教職員数をいう。
4. 上表の〔ハ〕とは、助手以外の者で短期大学全体もしくは学科などの教育研究活動に直接従事する教職員(事務職員を除く)をいう(例えば助手、副手、補助職員、技術職員など。)
5. ライフデザイン総合学科は1年次生のみ、服飾デザイン学科は2年次生のみ。
(両学科とも家政分野)
6. 学長を除く。

(2) 短期大学の教員にふさわしい資格と資質の有無については、訪問調査の際に、教員の個人調書(履歴書、研究業績書、担当授業科目名、その他)を提示していただきます。したがって個人調書をこの報告書に添付する必要はありません。

本学専任教員の採用、昇任にあたっては、「学校法人溝部学園教員選考規程」に示すとともに教員資格基準に照らし、審査している。また、教員個人の履歴、研究業績、担当授業、その他については、「専任教員の個人調書」に記載することとしている。ALO委員が主として管理し、定期的な更新を行っている。

(3) 教員の採用、昇任が適切に行われている状況を記述して下さい。その際、選考基準等を示した規程等があれば訪問調査の際にご準備をお願いいたします。

人事に関することは、「学校法人溝部学園短期大学教員選考規程」に基づき、各学科で必要とする教員の欠員枠が生じた場合、その採用枠を申請する。職名、採用予定日、担当分野、採用条件などを明記し教員募集を行う。各学科内に、採用候補者選考委員会を設置し、慎重に選考の上候補者を選定し、理事長及び学長が決定する。昇格の場合も上記の規程に基づき、本学教員の任用・昇格・任用替え候補者について申請する。これに基づき任用・昇格・任用替え申請資格審査委員会議案書を作成し、資格審査委員会これを認定する。審査委員会は5名で構成され、教育実績、学生指導、研究業績などから審査認定する。

(4) 教員の年齢構成について下表を例に現状を記載して下さい。

専任教員の年齢構成表 (平成20年4月1日現在)

	年齢ごとの専任教員数(講師以上)							助手等の 平均年齢
	70以上	60～69	50～59	40～49	30～39	29以下	平均年齢	
合計人数 (33人)	2	7	9	2	7	6	47.9	29.2
割合	6%	21%	27%	6%	21%	18%		

(5) 専任教員は、(a)授業、(b)研究、(c)学生指導、(d)その他教育研究上の業務に対して意欲的に取り組んでいるか、また上記4つの分野の業務取り組み状況にはどのような傾向があるかを学長等が記述して下さい。その際、過去3ヶ年(平成17年度～19年度)程度の教員の担当コマ数(担当コマ基準、平均担当コマ数等を含む)、教員の研究業績、教員が参画する学生指導の業務、教員が参画するその他の教育研究上の業務概要を示して下さい。

- (a) 専任教員は授業に熱心に取り組んでいる。
- (b) 授業や学生指導の中、研究活動に取り組んでいるが、外部からの研究費を受ける専任教員が少ないのが現状。研究に関しては、今以上に力を入れる必要がある。
- (c) 学生課(第一課・第二課)が中心となって学生指導をおこなっている。また、アドバイザー制による専任教員の連携により、科目履修や研究・就職・健康・身辺の諸問題から人生観にわたって適切な助言や指導をおこなっている。このことは、結果として高い就職率の維持と、学生に対する外部からの評価にもつながっている。
- (d) 各学科ともに、学生が主体となって、地域社会等との連携に力を入れている。公開講座・介護福祉学科による「ふくし・ふれ愛ひろば」・服飾デザイン学科の展覧会への作品の出品やファッションショー・幼児教育学科の発表会(ミュージックカーニバ

ル)など意欲的に取り組んでいる。

過去3カ年の各学科専任教員の担当コマ数(教員氏名については平成20年度の所属)

所属	氏名	職名	17年度	18年度	19年度	平均値
ライフデザイン総合学科 服飾デザイン学科	溝部 仁	教授	5	5	3	4.3
	大蔵開平	教授	16	8	11	11.7
	後藤芳子	教授	11	14	14	13
	青柳英俊	准教授	18	7	9	11.3
	工藤明英	准教授	-	-	-	-
	笠置映寛	准教授	20	21	21	20.7
	里中玉佳	講師	12	9	12	11
	高野弓枝	講師	14	18	18	16.7
	久恒 賢太	講師	-	17	19	18
	野田麻里子	講師	-	-	-	-
食物栄養学科	山本玲子	教授	9	13	15	12.3
	牧 昌生	教授	7	7	7	7
	青柳征子	教授	14	10	13	12.3
	大石博嗣	准教授	-	7	9	8
	相良喜久子	准教授	-	-	2	0.7
	松波 勝	准教授	8	12	13	11
幼児教育学科	土井敏行	教授	16	13	12	13.7
	松岡みどり	教授	17	13	12	14
	大塚豊子	教授	19	15	13	15.7
	田邊 勲	教授	14	9	9	10.7
	脇 信明	准教授	16	12	13	13.7
	阿南寿美子	講師	14	12	11	12.3
	伊達洋介	講師	23	20	20	21
	西村 薫	講師	13	8	8	9.7
	寺野里美	講師	-	-	-	-
介護福祉学科	相良範子	教授	2	-	2	1.3
	相良好仁	教授	-	-	-	-
	溝部佳子	教授	18	13	14	15
	赤星琴美	教授	13	11	11	11.7
	竹枝美里	准教授	18	16	12	15.3
	中島純子	講師	19	12	13	14.7
	溝部 倫	講師	10	11	13	11.3
	武田卓也	講師	-	-	11	11

- 印は新任者もしくは担当コマ数無し

(6) 助手、副手、補助職員、技術職員等を十分に、あるいは可能な限り配置しているか、また助手等が教育研究活動等において適切に機能しているかを学長等が現状を記述して下さい。

助手として食物栄養学科に4人配置し、主に資料作成や授業補佐を行っている。また、専任の実習助手として服飾デザイン学科とライフデザイン総合学科に兼任で2人、食物栄養学科に2人、介護福祉学科に1人を配し、演習、実習、実験等の授業補佐を主とし、資料作成等の仕事も行っている。専任の助手、実習助手に関しては、学生との事務連絡や相談相手にもなっており、教員と学生の関係を円滑にする重要な役割を果たしている。研究に関しては主に専任教員の補佐を主としている。

平成20年5月1日現在

2. 教育環境について

(1) 校舎・校地一覧表を下の表を例に作成して下さい。

別府溝部学園短期大学の校地面積は、14,073.84 m²で、短期大学設置基準に定める必要校地面積4,600 m²[基準面積 収容定員×10 m²]を充足している。

校舎・校地一覧表 (平成20年5月1日現在)

	収容定員	校舎			校地		
		基準面積	現有面積	差異	基準面積	現有面積	差異
別府溝部学園 短期大学	460人	6,450 m ²	11,318.32 m ²	11,253.82 m ²	4,600 m ²	14,073.84 m ²	14,027.84 m ²
別府溝部学園 高等学校 (併設体育館)			519.00 m ²			1,385.21 m ²	
合計			11,837.32 m ²			15,459.05 m ²	

校地面積一覧表 (平成20年5月1日現在)

種類	所在地	面積(専用)
校地	別府市大字野田字尾崎田 66-8 外	9008.29 m ²
(校舎敷地)	別府市大字野田字尾崎田 66-8 外	(86,08.29)
(講堂敷地)	別府市大字野田字尾崎田 66-8 外	(400.00)
運動場	別府市大字野田字垣ノ内 62-1	5,065.55
図書館敷地	別府市大字野田字垣ノ内 63-6 外	(174.00)
寄宿舎敷地	別府市大字野田字垣ノ内 63-6	(424.38)
合計		14,073.84

()の数字は、校舎敷地に含まれる。

(2) 校舎について、まず設置基準第31条の規定による短期大学全体の基準面積(基準面積を算出する計算式を含む)を示して下さい。また校舎を法人が設置する他の学校等と共用している場合は、他の学校の校舎の基準面積も記載して下さい。さらに校

舎の配置図、用途(室名)を示した各階の図面を準備しておいて下さい。なお主要校舎については訪問調査の際にご案内いただきます。

別府溝部学園短期大学の校舎面積は、11,318.32 m²で、短期大学設置基準に定める必要校舎面積 6,550 m²を充足している。

基準面積計算表

(平成20年5月1日現在)

校舎の基準面積と現有面積一覧表		
学部	収容定員	基準面積 m ²
ライフデザイン総合・服飾デザイン学科	60名・40名	【服飾デザイン学科・ライフデザイン総合学科・食物栄養学科】
食物栄養学科	160名	家政系：2,850 m ² 第31条関係(別表第2)
幼児教育学科	120名	【幼児教育学科】教育学・保育学関係：2,100 m ² 第31条関係(別表第2)
介護福祉学科	80名	【介護福祉学科】社会学・社会福祉学関係：1,600 m ² 第31条関係(別表第2)
合計	460名	6,550 m ²

別府溝部学園短期大学の校舎及び施設

(平成20年5月1日現在)

建物・名称	施設の概要	面積(m ²)
短大本館 (60年館)	1階 教官室・教務課・健康管理室・会議室・ML教室 短大ホール(短大本館に統合) 2階 121講義室・122講義室・123講義室・124講義室 服飾研究室・食物研究室 3階 就職指導室・カウンセラー室・幼児教育研究室 階段教室・131講義室・132講義室	1,562.64
2号館 (65年館)	1階 給食管理実習室・給食管理実習室試食室 被服構成実習室1 2階 理化学実験室・理化学研究室 被服構成実習室2 3階 美術教室・食物学科研究室	888.48
記念館 (81年館)	1階 理事長室・学長室・名誉学長室 法人本部室・事務室・会議室 2階 図書館・LL教室・準備室 3階 パソコン教室・マルチメディア室 グラフィック演習室 4階 茶室・作品展示室	1,921.62
記念館 (85年館)	1階 調理実習室・試食室・食物研究室 2階 多目的ホール(弓道場) 3階 温水プール	1,528.39

学生寮(橋寮) (69年館)	1階～4階 学生居室	1,500.97
実習工房 (86年館)	1階 実習室・染色室・陶芸実習棟 服飾研究室	265.87
学生ホール (87年館)	1階 学生ホール・購買部・リーブル姫山(書店) 2階 872 講義室・873 講義室	429.47
音楽等 (91年館)	1階 レッスン室(短大本館に統合)	314.36
特別実習棟 (93年館)	1階 健康アドバイザー実習室・ホール 服飾手芸室(特21)・テキスタイル実習室(特22) 2階 服飾デザイン研究室・健康アドバイザー研究室	565.6
福祉介護等 (02年館)	1階 入浴実習室・準備室・介護実習室 2階 介護1教室・介護2教室・会議室・研究室 研究室1,2,3,4	1,096.76
体育館 (62年館)	1階 短大体育館 (短大本館に統合)	309.68
留学生寮	1階 学生居室	213.17
山荘	1階 倉庫	721.31
溝部センター ビル(72年館)	6階建 学生居室 (歯科技専と共用)	(1,170.00)
合 計		11,318.32

(3) 教育研究に使用する情報機器を設置するパソコン室、マルチメディア室、学内LAN、LL教室及び学生自習室の整備状況(機種、台数等を含む)について記述して下さい。またその使用状況(使用頻度等)についても記述して下さい。

各教室・施設に配置しているPC台数 (平成20年5月1日現在)

記念館(81年間)3階	パソコン教室	45台
記念館(81年間)3階	マルチメディア教室	39台
記念館(81年間)2階	LL教室	41台
記念館(81年間)2階	図書館	27台
2号館(65年間)3階	栄養指導実習室	14台

パソコン教室では、Windows XP マシンを設置しており、全学科を対象としてワープロや表計算作成の学習を行っている。また、プレゼンテーションやホームページ作成などの演習授業も行われている。同時に情報処理検定や日本語文書作成検定の試験場としても使用されており、より多くの資格を取得するための活用がなされている。

マルチメディア教室では、MacintoshとWindows XPを設置している。この教室では主に服飾デザイン学科・ライフデザイン総合学科においてコンピュータグラフィックやホームページ作成などの授業を行っている。

LL 教室には英語学習機材と同時に Windows98 マシンを設置している。ここでは教育工学の授業や医療事務に関するソフトの学習の場としても利用している。

図書館には学生が自由に利用できる PC を設置している。ワープロソフトや表計算ソフト、プレゼンテーションソフトなどもインストールされているので、レポートや課題の作成時に学生が利用できるようになっている。また、中国からの留学生専用の PC も設置しており、言語の相違があっても使用できるようにしている。

栄養指導実習室には、Windows XP マシンが設置されている。ここでは、主に食物栄養学科の学生が栄養計算のために使用するパソコンとなっている。

今挙げた全ての PC はイントラネットによる学内ネットワークで構成されており、どのパソコンもインターネットに接続されている。授業用のファイルサーバーを設置する事で、学生の授業成果や作品、そして教員が授業で用いる教材データなども、そこに一括で保管・管理している。インターネットは SINET で接続しており、光ファイバーによる高速通信を確立している。よって一般的なページブラウザにおいてはなんらストレスなく使用する事が出来る環境となっている。また、学生一人ひとりに WEB メールシステムを利用して E メールを利用できるようにしている。短大のネットワーク上のパソコンであれば、どこからでもメールを確認できるようにしており、授業内での課題や提出物などもこのシステムを使用しているものもいる。

(4) 授業用の機器・備品の整備状況及び整備システム(管理の状況、整備計画等を含む)について、その概要を記述して下さい。なお機器・備品の整備状況については訪問調査の際に校合等をご案内いただく際にご説明いただきます。

各学科・コースの特質や授業内容に応じて行っている。これらの機器のメンテナンスおよび整備の拡充に関しては教務課が主に担当。各学科や授業担当者からの要望により、購入や整備・補修を検討しており、その後本部決済を取るといったシステムを採用している。このようにして整備されている機器・備品の登録・管理については、本学園事務局が一括して行っている。(整備状況一覧あり)

平成 19 年度は、一般教室のいくつかの黒板をホワイトボードに変更し、マイク音響設備を改修するなど、より効率的な授業展開ができるための環境整備の充実を図っている。また、近年使用頻度が高くなりつつあるプロジェクターについても、固定式を 1 台、そしてポータブルタイプを 1 台新たに追加購入するなどして、教育効果を高めるよう整備している。

修繕に関しては、故障が発見された時点で即座に対応するようにしている。蛍光灯などの消耗品については、業者委託になると対応に時間がかかり教育効果が落ちるため、教職員がその交換などを行っている。

(5) 校地、校舎の安全性、障害者への対応、運動場、体育館、学生の休息場所等について記述して下さい。訪問調査の際にご案内いただき、ご説明願います。

校舎の安全性については、休暇中に点検・修繕をおこなっている。運動場については付属高等学校・付属幼稚園と共用のため各部門が安全性の配慮をおこない、体育館については付属高等学校が管理を行い、短大ホールについては短期大学が安全の配慮

を行っている。学生の休息場所として学生ホール(87年館)があり、中には購買や書店等を設置している。また、休み時間は講義室や短大ホールを開放、敷地内にはベンチを設置している。障がい者への対応については過去に障がい者の入学者がなく、福祉介護棟1階にのみスロープを設置している。今後入学者があれば設置の方向で検討したい。

3. 図書館・学習資源センター等(以下「図書館等」という。)について

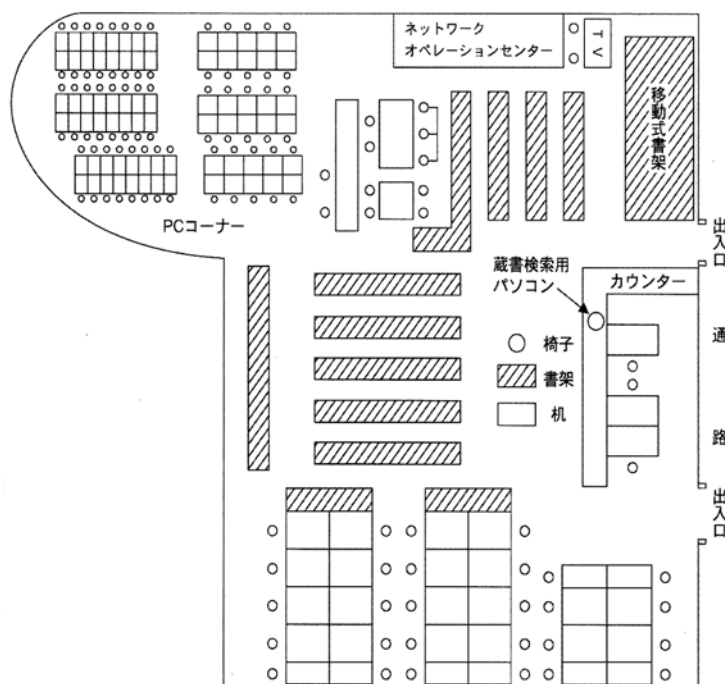
(1) 図書館等の概要について、全体の配置図、座席数、年間図書館予算、購入図書等選定システム、図書等廃棄システム、司書数、情報化の進捗状況等を含めて記述して下さい。なお図書館等には訪問調査の際にご案内いただきます。

本学図書館の司書は1名である。また、2003年度より、蔵書のデータベース化及び貸出・返却等、情報処理化に取り組んでいる。

また、廃棄・購入に関することは「学校図書館図書購入基準・学校図書館図書廃棄基準 別紙資料参照」に基づいて行っている。

また、年間図書館予算については具体性に欠けているため、改善の対象として現在検討しており、すべての書籍の電算化に向けて取り組みも始めているところである。

図書館全体の配置図



- ・座席数...118席
- ・パソコン...Macintosh2台 Windows25台(そのうち6台中国語専用)
- ・視聴覚...2台(TV・VIDEO)

(2) 図書館に備えられている蔵書数(和書、洋書、学術雑誌数、AV資料数等)を下表を例に作成して下さい。年間利用者統計(教職員・学生等)

図書館蔵書数一覧

(平成20年5月1日現在)

利用年度	所蔵冊数 (寄贈冊数)	購入数	寄贈数	入館者数	教職員貸出		学生貸出	
					回数	人数	回数	人数
平成17年度 (2005.4.1～2006.3.31)	34,848 (2,215)	359	619	2,940	158	69	216	158
平成18年度 (2006.4.1～2007.3.31)	35,093 (2,215)	241	-	2,712	139	49	234	162
平成19年度 (2007.4.1～2008.3.31)	36,264 (2,215)	171	-	3,168	168	33	259	196

書数・学術雑誌数・AV資料数

(平成20年5月1日現在)

	和書	洋書	AV資料	計
一般教育図書	15,857	1,086	-	16,943冊
専門図書	17,033	962	-	17,995冊
学術雑誌その他	161	5	-	166種
新聞	8	1	-	9種
計	33,128冊	2,054冊	223点	35,104冊(種)

(3) 図書館等には学生が利用できる授業に関連する参考図書、その他学生用の一般図書等は整備されているか。また学生の図書館等の利用は活発かを、図書館等の責任者(図書館長等)が現状をどのように捉えているかを記述して下さい。

図書館の利用状況については、この3年間、年度を追う毎に利用者数は増加の傾向が見受けられる。ただ、短期大学の一般的傾向として空き時間が少ないことが指摘されるが、特に本学においては、資格取得を勧めている関係で一層その傾向が強い。そのため利用者の数は伸び悩んでいる。現在開館時間等の検討を始めているところである。蔵書については、研究・学習の必要性に応じて受け入れを図っている。学生の利用のある図書に関してはできる限り優先的に購入を図っている。また、卒業研究に係る図書の購入は特別の枠を設けて対応している。

平成19年度は、学内読書感想文コンクールの推薦図書を決め、各3冊を準備し、特別の貸し出しを行っている。

(4) 図書館等からの学内外への情報発信、他の図書館等との連携等、現在の図書館活動について、図書館長等がどのように受け止めているかを記述して下さい。

学園のホームページに図書館のコーナーを設け、学内外の利用者への情報を発信している。その中に「図書館便り」の内容を載せることで活動(新刊図書の受け入れ・感想コンクールの結果等)をリアルタイムで情報を提供するようにしている。

また、「大分県大学図書館協議会」の加盟校として活動し、本年度は当番館として加

盟各館の情報交換を図っている。さらに、平成 20 年度は本館主催で「わが校自慢コンクール」と題し、写真公募展を行う予定である。

今後、地域の学習機関・文化情報発信機関としての役割が求められる中で、図書館の開放は避けられない。社会的要請を考慮しつつ諸条件の整備を進めていきたい。

4．特記事項について

(1)この《教育の実施体制》の領域で示した評価項目や評価の観点の他に、例えば外国人教員の採用、授業の公開、学習評価活動等、努力していることがあれば記述して下さい。

特になし。

(2)特別の事由や事情があり、この《教育の実施体制》の評価項目や評価の観点が求めることが実現(達成)できないときはその事由や事情を記述して下さい。

特になし。

教育の目標の達成度と教育の効果

1. 単位認定について

(1) 次の「単位認定の状況表」を例に、単位認定の方法と評価の実態を記載して下さい。なお、この表は平成19年度卒業生が入学時より卒業までに履修した科目について作成して下さい。

本学の制度

各科目の単位は、原則として授業時間の8割以上出席し、学期末の定期試験に合格したのに対してその単位修得を認定する。ただし科目によっては、レポートその他をもって定期試験にかえることがある。単位の認定と成績評価の基準は下記の通りである。

判定	合格				不合格
	100~90点	89~80点	79~60点	59~50点	
評価	秀	優	良	可	不可

採点方法は、各科目担当者に任されている。出席状況、試験、レポートや提出物、受講態度を加味し、総合的に評価している。

なお、平成19年度卒業生に関する各学科の単位認定状況は以下のとおりである。また、各科目ごとの単位認定状況については別紙(評価領域 別紙-単位認定表)に示す。

服飾デザイン学科

授業形態	単位修得状況			最終の評価				
	本試	再試	計	秀	優	良	可	不可
講義	90.2%	6.0%	96.2%	15.4%	27.5%	37.8%	16.7%	0.5%
演習	93.9%	1.9%	95.8%	22.5%	34.9%	29.7%	8.9%	0.3%
実習	100%	0%	100%	61.5%	23.1%	15.4%	0%	0%

食物学科

授業形態	単位修得状況			最終の評価				
	本試	再試	計	秀	優	良	可	不可
講義	92.9%	6.4%	99.2%	23.8%	25.3%	34.3%	15.4%	0%
演習	96.4%	3.4%	99.9%	29.3%	40.0%	25.4%	4.8%	0.1%
実験及び実習	92.7%	7.3%	100%	15.5%	31.1%	36.9%	15.9%	0%

幼児教育学科

授業形態	単位修得状況			最終の評価				
	本試	再試	計	秀	優	良	可	不可
講義	95.8%	4.0%	99.8%	22.1%	29.8%	34.6%	13.3%	0.2%
演習	96.7%	3.2%	99.9%	15.3%	38.1%	38.2%	8.3%	0.1%
実技及び実習	99.8%	0.2%	100%	12.8%	47.5%	35.0%	4.7%	0%

介護福祉学科

授業形態	単位修得状況			最終の評価				
	本試	再試	計	秀	優	良	可	不可
講義	92.3%	7.7%	100%	16.5%	26.3%	40.7%	16.4%	0%
演習	94.5%	5.5%	100%	18.0%	34.2%	34.8%	12.9%	0%
実習	90.6%	9.4%	100%	12.5%	20.3%	53.6%	13.5%	0%

なお、各学科・コースの授業科目ごとの詳細に関しては参考資料として呈示する。

(2) 学科長等がそれぞれの学科について、単位認定の方法、単位の取得状況及び担当教員による評価の現状についてどのように受け止めているかを記述して下さい。

1) 服飾デザイン学科

単位認定の方法

単位認定については、各教科担当教員により、定期試験、小テスト、出席状況、平常点、作品等の総合評価で行っている。本学科は、作品制作を主とした授業が多く、評価においても実技、作品が重視される科目が多数ある。

単位の取得状況

概ね良好と考えるが、本学科では年度途中で全ての学生と面談を複数回行い、単位の取得状況等、確認を行っている。

担当教員による評価の現状

本学科では、作品制作が中心となる授業が多く、評価方法について苦慮する部分がある。例えば作品による評価において、明確な線引きは困難であるが、受講生に評価方法を明確に示し、理解させる努力を行う必要がある。単位の取得状況から、教員による評価が正しく機能し、それをもとに適切な指導が行われているものと考えられる。

担当教員による評価の現状に対する学科長の認識

「単位認定の方法」については、学科の性格上、実技及び作品に対する評価認定に基づいてされるのは当然であろうと考える。

学生の「単位取得状況」「担当教員による評価の現状」についても適正に管理・運営されていると考えられ妥当である。

2) 食物学科

単位認定の方法

「単位認定規程」に基づき、各教科担当教員は、定期試験・小テスト・授業態度・レポート提出等を総合的に判断して評価している。実習等においては、実技試験や実習ノート等を重視して評価している。

単位の取得状況

学習意欲・態度、理解度等で問題のある学生については多面的に観察して早めの指導を心がけており、再試験制度も活用し、ほぼ全員単位が取得されている。

担当教員による評価の状況

厳しい指導を原則とする教員が少ないが、評価に当たっては教育的見地に基づいて適切に評価されており、評価の公正・公平性は維持されており、学生の受け止めも

良好である。

担当教員による評価の現状に対する学科長の認識

各教科担当教員は、「教え、育てる」を原則にして日々の教育活動に邁進しており、評価も恣意的にはならず適正に管理運営されており妥当なものとする。

3) 幼児教育学科

単位認定の方法

各科目、授業担当者がシラバスに示した方法によって評価を行っている。その評価方法が本学の規定に反しない限り、担当者の判断を尊重する。基本的には絶対評価であるが、その中でのグレードは、評価法や努力等により生じる。理想とすれば、そのグレードも標準偏差に近いものであることが望ましい。

単位の取得状況

良好であり、現状で大きな問題点は感じられない。

担当教員による評価の状況

現状で大きな問題点は感じられない。

担当教員による評価の現状に対する学科長の認識

特に実技をとともう科目では、担当者が学生の力に合わせた指導の上で、評価を行う等の配慮が必要と感じる。

シラバス作成段階での綿密な計画性と到達度の設定が大切であり、その上での評価であって欲しい。

養成校として、単位認定に関しては客観性と厳しい評価が求められることの自覚が必要である。

4) 介護福祉学科

単位認定の方法

単位認定については、原則として授業担当者が決める。主として、定期試験、もしくはレポートによるが、出席状況や受講態度、提出物についても加味し総合的に判断する教員が多い。

単位の取得状況

卒業に必要な単位に、介護福祉の資格を取得するために必要な科目も含まれる。また、施設での介護福祉実習が2年間で10週間あり、実習先での評価の比重が大きいため、特別な配慮を要する。

担当教員による評価の状況

現状で大きな問題は感じられない。

担当教員による評価の現状に対する学科長の認識

評価点の分布について配慮を促している。基本的には各教員の裁量に任せているが、養成校として、介護福祉士の資質の向上を目指すためには評価の一貫性が必要なので出来る限り会議などで評価に対する意識統一を図っている。

(3) 学長等は、単位認定の方法、単位の取得状況及び担当教員による評価の現状についてどのように受け止めているか記述して下さい。

単位取得者の評価については、定期試験に出席状況・提出物等を加味した総合評価

をする教員が殆どである。また、各学科・各科目担当者の裁量に任せているため、学科・科目によって評価規準は全く異なる。学科・科目担当者が個々の学生の力に合わせた指導の上で、単位の取得状況等、確認を行い、評価を行う配慮が必要とされる。

単位取得者の評価については、シラバスに基づいて評価されているようであるが、総合評価をしている教員がほとんどである。これは公平を原則とし、試験の結果だけでなく多面的に行うよう指導した結果であると認識している。

2. 授業に対する学生の満足度について

(1) 各授業について、終了後に「学生の満足度」の調査を実施していればその調査の概要を記述して下さい。また調査票の様式等を訪問調査の際にご準備下さい。

本学では、「学生の満足度」に限定した調査は実施していないが、自己点検・評価委員が作成し実施している授業評価調査の項目に、それがうかがえるものがある。

授業評価調査項目は、授業や教員に関する項目と学生の授業の取り組み方に関する10項目で構成されており(表1参照)「はい」、「まあそう思う」、「どちらともいえない」、「あまりそう思わない」、「いいえ」の5項目で評定される。調査は全学生を対象に学期終了時点で電子媒体にて実施されている。集計結果は、科目別に教員個人にフィードバックされる。したがって、担当教員は授業評価を実施した科目については、学生の満足度を授業評価結果の一部として把握している。

尚、自己点検・評価の結果は、本学紀要に掲載され公表されている(詳細は参考資料 別府溝部学園短期大学紀要第28号 pp.61 78を参照)。

(2) 担当教員が授業終了後の学生の満足度に配慮しているかについて、学科長等が現状をどのように受け止めているかを記述して下さい。

(2007年度前後期に実施された各学科の学生の満足度調査結果については 表2参照)

1) 服飾デザイン学科長見解

授業評価調査では、10項目中9項目において、「はい」または「そう思う」と肯定的に回答した学生が70%以上存在している。肯定的な認識が最も高かった項目は「教員は熱心に教えていた」であり、88%の学生が教員の熱心さを支持していた。また、「この授業はわかりやすかった」、「教員の教え方に工夫が感じられた」という教員の指導に関する項目と「いつも集中して聴けた」、「私語をつつしんだ」、「意欲的に取り組んだ」という学生の心構えに関する項目で、前期よりも後期において肯定的な認識を持つ学生が増加しており、教員の熱心さや指導の努力が学生の自覚を促したものと推察される。これらの結果から、本学科において教員の教育姿勢については学生の理解が得られており、学生の満足度に配慮した取り組みがなされていると思う。

一方、「私語をつつしんだ」という項目において、10%以上の学生が「あまりそう思わない」または「いいえ」と回答しており否定的な認識を持っている。これは、本学科では、自身のイメージを絵や写真、洋服において表現する演習授業が多く、教員が学生との対話を通して学生のイメージを明確にしたり、広げたり、深めたりすることと大きく関連しているものと思われる。また、学生自身も作品のイメージを形作るために友人との会話を利用しており一概に否定的な受講態度であるとは言い難いものと

思われる。教員は対話を通して学生のイメージを広げることに留意する一方で、対話が逸脱しないよう、作業に集中して取り組めるよう導いていく力量が必要であり、各教員がそのような事態を念頭におき、よりよい教育を提供する必要があるといえる。

2) 食物学科長見解

授業評価調査において、「はい」または「そう思う」と回答した学生が最も多かった項目は「教員は熱心に教えていた」であり、前後期にわたり85%以上の学生が肯定的に認識している。次いで「遅刻・欠席がないよう心がけた」という学生の取り組みに関する項目の値が高くなっており、教員の熱心さと学生の取り組みが響きあっている様子が窺える。

しかし、「この授業はわかりやすかった」、「学習内容に興味や関心が持てた」という内容理解に関する項目について10%以上の学生が「あまりそう思わない」または「いいえ」と回答しており、否定的な認識を持っているといえる。また、「いつも集中して聴けた」、「私語をつつしんだ」という学生の受講態度も10%に及ぶ学生が「あまりそう思わない」または「いいえ」と答えており、否定的な認識を持っており、改善すべき問題であると考えられる。これらの結果は、教員は熱心であり、学生も学習内容が重要であると認識し、出席するよう心がけているものの、学生の授業内容の理解度が低いため、授業に対する取り組みが維持できないことを指し示しているといえる。こうした背景には、学生の学力低下が進行していることが考えられる。各教員は、熱意に加え、学生の理解度が高まるよう視聴覚教材を多用したり、使用テキストの再選択や少人数指導を行うなど、授業方法の改善を視野に入れた創意工夫を行うことが必要であるといえる。

3) 幼児教育学科長見解

本学科においては、授業評価調査項目の全てにおいて、「はい」または「まあそう思う」と回答した学生が、前期よりも後期に大幅に増えており、後期においては、全項目が約80%を超える学生に肯定的に支持されている。加えて、「あまりそうおもわない」または「いいえ」と回答した学生は、前期に比べ後期は減少しており、否定的な認識を持つ学生は全項目において一桁台と改善されている。これは各教員が学生の満足度に配慮しており、努力と指導を行っている証であり、学生も概ね満足しているといえるであろう。このような肯定的な支持の多さは、ともすれば、学生に迎合し、人気を得るための安易な授業内容を展開しているようにとられるかもしれない。しかし、前期の値から鑑みても理解できるように、本学科は学生の満足度のみを視点にあわせて教育課程を作っているわけではない。本学科の教員は、学生が卒業後専門能力として求められる必要な内容を厳選して、質の高い授業内容、高い技術習得を目標としつつ、学生の満足度を考慮しながら鋭意努力を続けているといえる。

しかし、近年の学生の学力をはじめとした様々な能力の低下には驚かされることがあることも事実である。各教員は、学生の現状を踏まえながら、学生の動機を高め、基礎能力や専門的知識等の知的能力を高めるといった授業評価調査項目だけにとどまらず、コミュニケーションスキルや公共心、規範意識などの社会・対人関係力をはぐくみ、意欲や忍耐力といった自己調整力を育てる視野が必要であろう。

4) 介護福祉学科長見解

授業評価調査結果では、前後期に差があり、後期では「はい」または「まあそう思う」と回答した肯定的な認識を持つ学生が減少しており、「あまりそう思わない」または「いいえ」と回答した否定的な認識を持つ学生が増加している。特に授業内容や教員の教授法に関する項目で、そのような特徴がみられている。各教員はこの結果を真摯に受け止め、魅力ある授業を展開するために、いかなる努力を行っているのかを常に自己点検し、学生の声に耳を傾ける必要があるだろう。

一方で、「遅刻・欠席がないよう心がけた」や「私語をつつしんだ」、「いつも集中して聴けた」について前後期で比較すると、否定的な認識を持つ学生が多いものの、その数は減少し、肯定的な認識を持つ学生が多くはないものの、増加が見られる。教員の教授法に関しては、否定的な認識が高まっているものの、学生の授業への取り組みは改善されてきているといえる。この結果は、後期において学生が授業や教員へ馴化したため、教授法等の認識が否定的なものへと変化はしているが、学生は授業の意義を十分に理解しており、必要な知識や技能を獲得しようと授業への取り組みについて自己制御しようとしているものと考えられる。そのような意味において、教員は学生に学習目的を的確に伝達しており、学生に意識化させることを達成できているといえる。各教員は、今後は、専門職として必要な知識、技能の必要性を学生に実感させることに加えて、そうした知識・技能を学生にいかに伝えていくか講義技法を思案し、学生自身が発表を行う参加意識を持たせる授業を実践する等、学生とも話し合いながら、満足度に配慮した授業方法を実践することが望まれる。

(3) 学長等は短期大学全体の現状をどのように受け止めているかを記述して下さい。

全学生で比較すると、授業評価調査結果で「あまりそう思わない」または「いいえ」と回答した否定的な認識をもつ学生は前期に比べ後期において減少していることがわかる。加えて、「はい」または「まあそう思う」と回答した肯定的な認識を持つ学生は、前期に低い値を示したものが高くなる傾向が見られる。これらは、各教員が学生の満足度に配慮し、改善しようとした結果であると思われる、一定の評価として認められるものと思われる。

各教員においては、今後も実施されるこの授業評価調査結果を謙虚に受け止め、学生から授業に関する納得や理解を得られるよう不断の努力を行うことが求められる。

加えて、国際化、情報化に直面した流動的社會を生き抜くために、各教員は学生に豊かな知識を教授するのみに終始するのではなく、道徳観や責任感、忍耐力や意思伝達力、決断力や適応力、行動力、協調性など人間力の育成を目指しながら、今以上に授業改善に取り組むことを期待している。

3. 退学、休学、留年等の状況について

(1) 過去3ヶ年(平成17年度~19年度)の退学、休学、留年等の数を、次の表を例にして学科等ごとに記載し、学科等の状況を明らかにして下さい。

以下に各学科の退学・休学・留年数をあげる。なお、留年者数について、平成17年度・18年度については修業年限(2年)を越えて在籍中の学生とした。休学後、復学

した学生については、留年者数に重複している。

服飾デザイン学科の退学者等一覧表

(平成20年3月31日現在)

	17年度入学	18年度入学	19年度入学	備考
入学者数	入学 36	入学 38	入学 25	18年度入学者数は、転移者含む 19年度転籍は、食物学科から転移
うち退学者数	退学 6	退学 5	退学 1	
うち除籍者数	除籍 2	除籍 2	除籍 0	
うち休学者数	休学 1	休学 0	休学 1	
休学者の内の復学者数	復学 1		転籍 1	
留年者数	留年 0	留年 0	留年 0	
卒業生数	28	31		

食物学科の退学者等一覧表

(平成20年3月31日現在)

	17年度入学	18年度入学	19年度入学	備考
入学者数	入学 77	入学 70	入学 81	H17年度復学者は、情報福祉コースから服飾デザイン学科に転移 H17年度転移は介護から転籍 H19年度転籍者は、服飾デザイン学科に転移
うち退学者数	退学 11	退学 5	退学 1	
うち除籍者数	除籍 2	除籍 3	除籍 0	
うち休学者数	休学 1	休学 2	休学 0	
休学者の内の復学者数	復学 1 転籍 1	復学 1	転籍 -1	
留年者数	留年 0	留年 2	留年 0	
卒業生数	64	60		

幼児教育学科の退学者等一覧表

(平成20年3月31日現在)

	17年度入学	18年度入学	19年度入学	備考
入学者数	入学 69	入学 70	入学 49	
うち退学者数	退学 2	退学 4	退学 2	
うち除籍者数	除籍 0	除籍 1	除籍 0	
うち休学者数	休学 0	休学 2	休学 1	
休学者の内の復学者数	復学 0	復学 1	復学 0	
留年者数	留年 0	留年 3	留年 0	
卒業生数	67	62		

介護福祉学科の退学者等一覧表

(平成20年3月31日現在)

	17年度入学	18年度入学	19年度入学	備考
入学者数	入学 41	入学 36	入学 40	医療情報コースへ転籍 (H17年度入学)
うち退学者数	退学 1	退学 3	退学 0	
うち除籍者数	除籍 1	除籍 1	除籍 0	
うち休学者数	休学 0	休学 0	休学 0	
休学者の内の復学者数	転籍 1			
留年者数	留年 0	留年 0	留年 0	
卒業生数	38	32		

(2) 退学者の退学理由割合、退学理由の最近の傾向及び退学者、休学者(復学者を含む)及び留年者に対する指導(ケア)の現状について学科等ごとに記述して下さい。
退学理由とその割合を下表に示す。

a) 退学者理由（過去3年間）

	服飾デザイン学科			食物学科			幼児教育学科			介護福祉学科			計
	H17	H18	H19	H17	H18	H19	H17	H18	H19	H17	H18	H19	
一身上の理由	3			6	5	1	2	2	2		1		22
病気・怪我		1		1				1					3
経済的事情				1						1			2
進路変更	2	2	1	2				1			2		10
成績不良													0
その他	1	2		1									4
計	6	5	1	11	5	1	2	4	2	1	3	0	41

（入学年度ごとの集計である）

b) 退学理由の割合

一身上の理由	22	53.7%
病気・怪我	3	7%
経済的事情	2	4.9%
進路変更	10	24.4%
成績不良	0	0%
その他	4	9.8%
計	41	100%

1) 服飾デザイン学科

本学科では、各コースそれぞれに、クラス担当、事務担当を置き、それをまとめる形でアドバイザー教官を配置し、4月のオリエンテーション期間中に学科の学生に対し紹介を行っている。学生の変化に気づくことがまず重要で、5・6月にクラス担当、事務担当による面談、それ以外にも必要と判断したときに各教員が個別で面談を行う。また、出席の状況を定期的にチェックし、休みが続く学生については早い段階で面談を実施し、ケアを行っている。学科内の会議においても、変化のある学生について、またやむなく休・退学、留年に至った学生に対する指導について協議指導を適宜行っている。

2) 食物学科

クラス担当及び事務担当を中心に全教員で指導を行っている。退学・休学の理由として、経済的理由により申し出る学生と成績不良等の悩みをかかえて申し出る学生がいる。前者には、奨学金制度や授業料の分納などを勧めている。後者は、早い段階で保護者と連絡を取り必要に応じて面談を行い、クラス担当を中心に各授業担当者との連携を取り日常的に指導を行っている。

3) 幼児教育学科

家庭における経済面の悪化や病気療養、進路選択の迷い、友人関係における不適応等の理由で休・退学を希望する学生がいる。

学科方針としては、将来、幼稚園教諭及び保育士として就労することを目指し入学してきた学生であるため、諸条件を整え、卒業や資格取得に向けて継続した指導を学生のみならず保護者にも行うことを原則としている。

具体的には、経済的理由により退学・休学を希望する学生には、奨学金制度の活用や授

業料の分割、アルバイトの斡旋等を行っており、友人関係等・精神的理由により退学・休学を希望する学生には、学内のカウンセリング利用やクラス担当・事務担当による面接指導等を実施している。

4) 介護福祉学科

介護福祉学科は、平成 15 年度に新設された学科であり、1 学年の定員は 40 人。ここまでに 5 年を経過した。進路変更希望者に対しては、学科長・クラス担当・事務担当による面接指導を行いながら、早い段階で保護者と連絡を取り合い必要に応じて対応している。また、経済的な理由のある学生に対しては、奨学金制度や授業料の分納などで個別に対応している。

(3) 退学・休学・留年等の現状を学科長等がどのように受け止めているかを学科等ごとに記述して下さい。

1) 服飾デザイン学科

学生と教員が関わる様々な取組みを経て、学生と教員の間には良好な関係が築けており、卒業時のアンケート結果からも、そのあたりをうかがい知ることができる。これは休・退学、留年する学生を減らすことに寄与しているものと思われる。しかし、毎年数名の休・退学者が出ている状況を考えると、さらなる取組みの必要性を感じざるを得ない。特に、留学生コースの学生に対するケアは急務であると考えます。

2) 食物学科

年度によって異なるが、数名の学生が退学・休学する。退学の理由は一身上の都合がもっとも多く、その中には経済的理由も含まれている。経済的理由で退学せざるを得ない学生に対しては、奨学金制度等の面で配慮しているが半数は退学又は休学するのが現状である。今後も保護者と連携を取りながら指導を行っていく所存である。

3) 幼児教育学科

クラス担当及び事務担当が中心となり、学生の現状を学業面や友人面、生活面を努めて正確に理解し、学生や保護者に適切な指導を行っている。必要に応じ、学科全体で情報を共有し、全教員体制での取組みを行っており、学科長としての的確に把握し、判断することができている。しかし、徴候がなく突発的に欠席する学生についての対応に苦慮する現状があり、今後一層家庭との連携を強めていく必要があるだろう。

4) 介護福祉学科

これまでの経緯を見る限りでは、退学者のほとんどが経済的なものである。学科としては、それだけ教育には力を注いでいるつもりである。

経済的な理由で退学せざるを得ない学生が毎年出ることについては、学科としても奨学金等の面で配慮をしているつもりではあるが、これだけは指導にも限界があり、勉学の意欲がありながら退学せざるを得ない学生がいることは結果として残念なことである。

(4) 学長等は、短期大学全体の現状をどのように受け止めているかを記述して下さい。

本学の教員は、学生に対し学業面や生活面を理解し学生や保護者に、きめ細かく対応をしている。退学の理由には、一身上の理由や進路変更が多いが大半の学生は、経済的理由

である。休学・留年などの一部が、退学をするケースがあるのが現状である。

4. 資格取得の取組みについて

(1) 教育の内容 の【教育課程について】(3)(11 ページ)で報告頂いた取得が可能な免許・資格、また教育課程とは別に取得の機会を設けている免許・資格の取得状況(取得をめざした学生数、取得者数、取得割合等を学科等ごとに示してください)。

ここでは、称号や検定試験もあわせ免許・資格に含めて記述している。教育課程を履修することによって取得が可能な免許・資格については、本年度の卒業生のみで集計し、教育課程とは別に資格取得の機会を設けている資格・免許については本年度行った検定すべての合計である。

1) 服飾デザイン学科

[ファッション造形コース]

教育課程を履修することによって取得が可能な免許・資格

資 格 名	志望学生数	取得者数	資格取得割合
ビジネス実務士(民)	12	12	100
中学校教諭二種免許〔家庭〕(国)	0	0	0
ファッションアドバイザー(学)	12	12	100

教育課程とは別に資格取得の機会を設けているもの

資 格 名	志望学生数	取得者数	資格取得割合
色彩能力検定3級(公)	6	3	50
ファッション販売能力検定2級(民)	3	2	67
ファッション販売能力検定3級(民)	10	6	60
日本語ワープロ検定1級(民)	1	1	100
日本語ワープロ検定2級(民)	1	0	0
日本語ワープロ検定3級(民)	4	4	100
日本語ワープロ検定4級(民)	2	2	100
文書デザイン検定2級(民)	1	1	100
文書デザイン検定3級(民)	1	1	100
情報処理技能検定2級(民)	9	8	89
情報処理技能検定3級(民)	2	0	0

取得の機会は設けているが志望学生がいなかった資格

Photoshop クリエーター能力認定試験(民)/ファッションビジネス能力検定(民)

[グラフィックデザインコース]

教育課程を履修することによって取得が可能な免許・資格

資 格 名	志望学生数	取得者数	資格取得割合
DTPデザイナー(学)	12	11	92
Webクリエイター(学)	12	12	100
ビジネス実務士(民)	5	5	100

教育課程とは別に資格取得の機会を設けているもの

資 格 名	志望学生数	取得者数	資格取得割合
Illustrator クリエーター能力認定1級(民)	1	1	100
Illustrator クリエーター能力認定2級(民)	7	5	71
Illustrator クリエーター能力認定3級(民)	8	6	75
Photoshop クリエーター能力認定2級(民)	4	3	75
Photoshop クリエーター能力認定3級(民)	2	2	100
色彩能力検定2級(公)	2	0	0
色彩能力検定3級(公)	12	7	58
日本語ワープロ検定準2級(民)	5	3	60
日本語ワープロ検定3級(民)	1	1	100
文書デザイン検定3級(公)	3	3	100
情報処理技能検定2級(民)	10	7	70

取得の機会は設けているが志望学生がいなかった資格

なし

[留学生コース]

教育課程を履修することによって取得が可能な免許・資格

なし

教育課程とは別に資格取得の機会を設けているもの

なし

取得の機会は設けているが志望学生がいなかった資格

文書デザイン検定(公) / 日本語ワープロ検定(公) / 情報処理技能検定(民)

2) 食物学科

[健康栄養コース]

教育課程を履修することによって取得が可能な免許・資格

資 格 名	志望学生数	取得者数	資格取得割合
栄養士(国)	32	32	100
訪問介護員(ホームヘルパー)2級(国)	7	7	100
健康運動実践指導者(民) 受験資格	17	15	88
健康アドバイザー(学)	20	18	90
社会福祉主事任用資格(国)	32	32	100

教育課程とは別に資格取得の機会を設けているもの

資 格 名	志望学生数	取得者数	資格取得割合
日本語ワープロ検定1級(民)	2	0	0
日本語ワープロ検定準1級(民)	1	0	0
日本語ワープロ検定2級(民)	7	3	43
日本語ワープロ検定準2級(民)	5	4	80
日本語ワープロ検定3級(民)	12	12	100
文書デザイン検定3級(民)	2	2	100
情報処理技能検定2級(民)	8	4	50
情報処理技能検定3級(民)	20	19	95
食生活アドバイザー検定2級(民)	4	2	50
食生活アドバイザー検定3級(民)	32	11	34
日本赤十字社救急法救急員(民)	20	19	95

取得の機会は設けているが志望学生がいなかった資格
なし

[保育栄養コース]

教育課程を履修することによって取得が可能な免許・資格

資 格 名	志望学生数	取得者数	資格取得割合
栄養士(国)	18	18	100
栄養教諭2種免許	18	10	56
社会福祉主事任用資格(国)	18	18	100

教育課程とは別に資格取得の機会を設けているもの

資 格 名	志望学生数	取得者数	資格取得割合
日本語ワープロ検定 1 級 (民)	1	0	0
日本語ワープロ検定準 1 級 (民)	1	0	0
日本語ワープロ検定準 2 級 (民)	2	1	50
日本語ワープロ検定 3 級 (民)	3	2	67
文書デザイン検定 3 級 (民)	2	2	100
情報処理技能検定 2 級 (民)	3	3	100
情報処理技能検定 3 級 (民)	17	17	100
食生活アドバイザー検定 2 級 (民)	2	0	0
食生活アドバイザー検定 3 級 (民)	19	8	42
食生活アドバイザー検定基礎 (民)	1	1	100
日本赤十字社救急法救急員 (民)	3	3	100

取得の機会には設けているが志望学生がいなかった資格
なし

[医療情報コース]

教育課程を履修することによって取得が可能な免許・資格

資 格 名	志望学生数	取得者数	資格取得割合
ビジネス実務士 (民)	10	10	100
医療秘書実務士 (民)	6	6	100
医事コンピュータ実務課程修了証 (民)	6	6	100
ICDコーディング実務課程修了証 (民)	4	4	100
介護保険実務課程 (学)	6	6	100
情報処理士 (民)	10	10	100
プレゼンテーション実務士 (民)	9	9	100
診療情報管理実務士 (民)	4	4	100
手話奉仕員養成事業入門課程修了証	6	6	100
社会福祉主事任用資格 (国)	10	10	100

教育課程とは別に資格取得の機会を設けているもの

資格名	志望学生数	取得者数	資格取得割合
日本語ワープロ検定1級(民)	2	1	50
日本語ワープロ検定2級(民)	5	5	100
日本語ワープロ検定準2級(民)	4	3	75
日本語ワープロ検定3級(民)	11	9	82
文書デザイン検定1級(民)	2	1	50
文書デザイン検定2級(民)	5	5	100
文書デザイン検定3級(民)	11	9	82
情報処理技能検定1級(民)	4	3	75
情報処理技能検定2級(民)	16	14	88
情報処理技能検定3級(民)	1	1	100
食生活アドバイザー検定3級(民)	3	3	100

取得の機会を設けているが志望学生がいなかった資格なし

3) 幼児教育学科

教育課程を履修することによって取得が可能な免許・資格

資格名	志望学生数	取得者数	資格取得割合
幼稚園教諭二種免許(国)	62	59	95
保育士資格(国)	62	61	98
レクリエーション・インストラクター資格(民)	42	42	100
社会福祉主事任用資格(国)	62	62	100
ピアヘルパー(民)	54	28	52

教育課程とは別に資格取得の機会を設けているもの

資格名	志望学生数	取得者数	資格取得割合
日本語ワープロ検定2級(民)	5	3	60
日本語ワープロ検定準2級(民)	15	6	40
日本語ワープロ検定3級(民)	8	7	88
文書デザイン検定2級(民)	4	4	100
上級救命講習修了証	65	61	94

取得の機会を設けているが志望学生がいなかった資格
情報処理技能検定(民)

4) 介護福祉学科

教育課程を履修することによって取得が可能な免許・資格

資格名	志望学生数	取得者数	資格取得割合
介護保険実務士(民)	32	32	100
介護福祉士(国)	32	32	100
社会福祉主事任用資格(国)	32	32	100
レクリエーション・インストラクター資格(民)	32	27	84
手話奉仕員養成事業入門課程修了証	32	32	100
福祉レクリエーション・ワーカー(民)	6	5	82

教育課程とは別に資格取得の機会を設けているもの

資格名	志望学生数	取得者数	資格取得割合
日本語ワープロ検定2級(民)	2	1	50
日本語ワープロ検定準2級(民)	3	2	67
日本語ワープロ検定3級(民)	4	4	100
文書デザイン検定2級(民)	1	1	100
情報処理技能検定2級(民)	1	1	100
情報処理技能検定3級(民)	23	20	87
福祉住環境コーディネーター2級	9	0	0
福祉住環境コーディネーター3級	18	1	6
日本赤十字社救急法救急員	35	24	69

取得の機会には設けているが志望学生がいなかった資格なし

(2) 今後導入を検討している免許・資格及び導入した免許・資格があれば記述して下さい。

1) 服飾デザイン学科

グラフィックデザインコースにおいて、Web の制作、管理、運営に関する検定試験の検討を行っている。

2) 食物学科

特に無し

3) 幼児教育学科

特に無し

4) 介護福祉学科

特に無し

5. 学生による卒業後の評価、卒業生に対する評価について

(1) 学科等ごとに専門就職(当該学科等で学習した分野に関連する就職)の状況(専門就職数、割合等)について記述して下さい。また学科等ごとに専門就職先からの卒業生に対する評価について何か文書や資料があれば参考資料として準備して下さい。

	服飾デザイン学科	食物学科	幼児教育学科	介護福祉学科
専門就職数 (就職者数)	22 (23)	53 (54)	57 (59)	37 (37)
割合	95.6%	98.1%	96.6%	100%

(H18 年度卒業生)

(2) 卒業生に対する就職先(専門就職に限らない)及びその他の進路先(編入先等)からの評価をどのように受け止めているかについて、短期大学全体については学長等が、学科等については学科長等が記述して下さい。

平成 20 年 1 月に、平成 18 年度に卒業した学生たちの就職先にアンケート調査を依頼した。「貴社の業種」「卒業生の専門職としての一番主な資格」「資格が活かされているか」「本人の能力(資格)の発揮度」「本人に満足している点」「本人の悪い点」「大学への要望」「本学に対する求人の方の今後の意向」の 8 項目について、選択肢より選んでもらい、必要に応じて自由記述の欄も設けた。また、「資格が活かされていない理由」と、アンケートの項目以外で気付いたことも自由記述で書いていただいた。その結果、130 社中 78 社から回答が寄せられた。(回答率 60.0%) これら卒業生の就職先からの評価に対する学長・各学科長の受け止め方は以下のとおりである。

参考資料『平成 18 年度卒業生の就職先に対するアンケート調査結果一覧 No.1・2』

1) 学長

評価領域として気になる点である「本人の専門職としての資格は活かされているか」「能力を發揮しているか」の項目について、それぞれ 83.4%、85.9%という高い肯定的な回答を頂いた。更に、「本人たちの仕事の上での良い面」として、「素直さ」69%、「協調性」49%、「明るさ」43%を挙げてくれ、おおむね好評といえる。

ただし、問題が全くないわけではなく、就職先の 7.6 %で「本人の持つ資格に問題がある」という指摘がされており、また、「能力發揮」についても 5.1 %が不満・どちらかといえば不満と答えている。その理由は、「常識がない」「素直でない」「協調性がない」など多岐に渡っており、どれも厳しい指摘として、真摯に受け止めて今後の職業教育の中で対策を講じる必要があると思われる。

また、「大学への要望」も聞いているが、その結果の一部を次に示す。「仕事とは何かという教育をしてほしい」38.5 %、「専門分野(技術)の教育に力を入れてほしい」32 %、「コミュニケーション能力を身につけさせてほしい」32 %、「礼儀作法を教えてほしい」23 %などは、大学にとっては頭の痛い問題ではあるが、同時にありがたい指

摘だといえる。

ところで、就職先が今後も本短大から卒業生を受け入れるかどうかである。「わからない・受け入れるつもりはない」(5.2%)という回答はいささか気になるところではあるが、87.2%が今後も当短大の学生を「受け入れる」としており、この数字から、就職に関する基礎固めは一応できていると判断し、その上でなお一層の努力が必要であるといわざるを得ない。

2) 服飾デザイン学科

アンケートの結果、「満足している」100%という回答があったように、多くの卒業生が、在学中に身につけた知識・技術を生かして活躍しており、特に検定試験等により得たものが役立っているということをよく耳にする。その反面、1年と続かず退職するケースも時々ある。また、就職先からの要望として、専門的内容だけではなく、社会人としての資質、特に働くことの意味をしっかりと身につけさせてほしいという声も聞く。今後、このようなことも授業内容等に反映させて行く必要があると考える。

3) 食物学科

栄養士に対する求人数は増えているが、選考方法が年々厳しくなり、実力のない学生は専門職としては就職出来なくなっている。このことは、アンケート調査の結果にもあるが、栄養士としての技術をしっかりと身につけることがいかに大事かということであり、学科としては、今後、より一層専門教育に力を入れる必要があると考えている。アンケートにもあるが、72.2%が「専門職としての資格が生かされている」と認めており、また84.3%が「本人が能力(資格)を発揮している」と認めてくれていることは幸いである。

4) 幼児教育学科

学科全体で行う「ミュージックカーニバル」を含め、さまざまな授業を通して見る限り、ほとんどの学生は、将来の保育者に向け資質に問題はないと見ているが、今回のアンケートで卒業生に対していくつかの厳しい指摘があり、これらについては、学科全体の課題として受け止め、学科内で検討し改善を図っていきたい。ただ、アンケートの中で、「専門職としての資格が活かされている」と91%の園が肯定しているように、世間での評価はおおむね良好と考えられる。

5) 介護福祉学科

アンケートの「満足している内容」として、「協調性」「素直さ」「明るさ」等を高く評価してくれているのは評価できる。しかし、「専門職としての資格が活かされている」85.7%、「本人が能力(資格)を発揮している」90.4%という高い評価を得ているものの、「活かされていない」「どちらかと言えば不満である」という回答がそれぞれ9.5%あった。学生の卒業後の事を考慮すれば、底上げと、施設で役に立ついい人材を育成するために、更なる努力が必要であると思われる。

(3) 卒業生に対して「学生時代についてのアンケート(卒業後評価等)」等を実施している場合はその概要とその結果を記述して下さい。また、教育の実績や効果を確認するための卒業生との接触、同窓会等との連携等を行っている場合もその取り組みの概要と結果について記述して下さい。

平成 18 年度に卒業した学生のうちの 133 名に対して、アンケート調査を実施した。平成 20 年 1 月に送付。内容は、「学んでよかったこと」、「就職先で役に立ったこと」、「在学中に勉強しておけばよかったことや取得しておけばよかった資格」、「在学中に最も印象深かったこととその理由」、「どのような 2 年間だったか」、「教育内容への要望等」の 6 項目について全て自由記述の方法で実施し、「別府溝部学園短期大学を卒業して良かったか」という問については 3 択で選んでもらい、74 名から回答を得た。(回答率 55.6%)

以下に、アンケートの結果とその分析、及びその他の取り組みについて記す。

1) 服飾デザイン学科

に関しては、それぞれ 100%の人が「あった」と答えており、この科に於いては、卒業後に直接繋がる専門的な授業が多いことを示しているといえよう。また、「楽しかった」、「充実した 2 年だった」と回答した人も多く、「本学を卒業して良かった」と 100%の人が思っていることは評価できる。

卒業生との接触については、年間、数回行われる「生活情報講座」において、現場からの声として、専門職として働く卒業生を招き在学生との交流を行っている。また、グラフィックコースの作品展では、卒業生にも作品を出品してもらい、これが在学生に対しても良い刺激になっている。H19 年度は初めての試みとして、この作品展に合わせてミニ同窓会を開催した。卒業生と教員との絆を深める場として、また、在学生にとっては、実社会を学ぶ場・縦の繋がりを作る機会として大いに効果があった。

2) 食物学科

アンケート調査の結果を見ると、「資格をたくさん取れたことが良かった」、「とても役に立っている」と答えている人が多い反面、それらに対して、「もう少し深く勉強したかった」と思っている人も少なからずいるのは、社会に出て初めてまだまだ未熟であることが分かったということであろう。また、ほとんどの学生が「充実した楽しい 2 年だった」と答え、については、「どちらとも言えない」(19%)も気にはなるが、「良かった」(81%)は、相対的には好意的に見ていると言っていいただろう。

卒業生との繋がりについては、年間数回行われる「生活情報講座」において、現場からの声として、専門職として働く卒業生を招き在学生との交流を行っている。また、平成 20 年 2 月には初めて食物学科の同窓会を開催した。1 年生が先輩方(卒業生を含む)に料理を作り食べていただくという形式は、1 年生の栄養士としての意識を高めると同時に、しっかりとした縦の繋がりを構築し、また卒業生と教員との絆を深めたという点でも教育効果は予想以上のものがあった。今後も継続したいと思っている。

3) 幼児教育学科

将来の専門性を活かした職業に要求される明るさや活発さ、行動力がさまざまな面で見られる学科である。その集大成であるミュージックカーニバルについて、「2 年間の中で最も印象深かった」を挙げた人が圧倒的に多かった。しかし、については、ピアノレッスン・手遊び指遊び・エプロンシアターやパネルシアター・絵本作り、幼児体育やレクリエーションで習ったものなど、実践的な教科の中で習得したことが目立つ。これは、卒業してまだ 1 年にも満たない新米保育士としての立場も大きいと思われる。また、いくつかの教科については、今後の検討も必要かと思われる。

については、100%の卒業生が「よかった」と答えていることは評価できるし、卒業後、頻繁に訪れる卒業生を見ても納得できる。

卒業生との関わりについては、「実習の事前指導」に来てもらったり、卒業後も学園を慕って訪れる卒業生と在学生在が、接触できるような機会をできるだけ設けたりしている。また、平成20年2月には、初めて幼児教育学科の同窓会を開き、在校生の様子を見ていただいた。遠路遙々参加してくれた卒業生も多く、悩み相談などリカレント的な要素も含んだ内容の濃い会になった。

4) 介護福祉学科

に関しては、専門的な知識・技術もさることながら、「友達や先生と出会えたこと」「先生の実体験を聞いたこと」「みんなで作り上げていく喜び」などを挙げている人、また、において、学園祭や研修旅行、スポーツ大会を挙げた人が多いのは、短期大学特有の行事により、まだまだ歴史の浅い学科ではあるが、先生や同級生たちと一緒に充実した楽しい学生生活を送ることができたということが伺える。一方、「専門性をもっと深く勉強したかった」(65%)とか、履修教科に入っていない分野についても勉強したかったという声が多いのは、介護福祉士に求められる幅の広さをもの語っているといえよう。今後、何らかの形でできるだけ補完したいものである。

卒業生との関わりについては、年間数回行われる「生活情報講座」や「先輩を囲む会」において、現場からの声を聞く機会を設けている。

参考資料 『平成18年度卒業生に対するアンケート結果 No1・2』

(4) 卒業生が社会からどのように評価されているか、学科長、学長等は現状をどのように受け止めているかを記述して下さい。

1) 学長

資格があるというだけでは社会で通用しない時代である。大学全体としても、資格については量ではなく質が厳しく問われているという認識を持っている。

当短大では、「あなたはこの資格のほかに何ができますか」が合い言葉になっている。従って、学生たちは各学科の持つ専門職としての資格以外の関連する資格取得に向け努力している。結果として、他の短大に比較しても各資格の取得率は高い。しかし、資格は取れば良いというものではなく、こうした資格を各人が社会でいかに活かすかが課題となる。

4学科を通して、それぞれが持つ専門職としての資格について、社会ではおおむね好評であるが、アンケートでも見られるように、専門職としての資格を疑われるような指摘も散見される。専門職としての資格について一つでも疑われるような事があると、それが大学全体に拡がって受け取られる事も生じかねない。ひいては、大学の権威に疑問符が付くことにもなりかねない。

専門資格については、それを与えるための充実した教育が必要であり、また指導する立場での厳しい判断が必要であると思われる。社会からの評価については、大学全体として厳しく受け止め各段階で改善策を講じていく必要があると考える。

2) 服飾デザイン学科

卒業後、職業人となった時の専門知識・技術はもちろんであるが、社会人としての

常識・礼儀作法・言葉遣い等も広く指導する必要があると考える。

3) 食物学科

社会からの評価はいろいろであるが、専門的な力をつけて送り出さなければ社会に通用しない時代になりつつある。

4) 幼児教育学科

学生生活の延長上で社会をとらえている甘さを一部に感じる。今後、マナーや常識なども含め、社会人、専門家としての厳しさを身につけさせる指導を学科全体で行いたい。

5) 介護福祉学科

「今後受け入れる予定」について、100%の施設が積極な気持ちを持ってきていることは、評価はおおむね良好であると判断できる。しかし、「人作り」ということに関しては、まだまだ今後の課題である。

6. 特記事項について

(1) この IV 教育目標の達成度と教育の効果 の領域で示した評価項目や評価の観点の他に、教育目標の達成と教育の効果について努力していることがあれば記述して下さい。

1) 服飾デザイン学科

「ファッション造形コース」は、2年間の集大成として「ファッションショー」を毎年開催し、今年で43回になった。自作自演形式による本格的なショーを行い、一般の方々にも公開している。この行事をとおして各人のスキルアップにもなると同時に、アンケートに、「やり遂げる過程の中で学科が一体化できた」と書かれているように、教育効果は大きいと思われる。

「グラフィックデザインコース」においては、メイン会場の大分市で「作品展」を開催するだけでなく、年に1度、県内の他都市でも行っている。また、地元・鉄輪地区の町おこしグループの活動に協賛して、鉄輪をテーマにした作品展も何度か開いた。このような活動をとおして得たものは計り知れないし、地域の方々にも大変喜ばれている。

2) 食物学科

2年前期の「給食管理実習1B」や、2年間の集大成として「料理試食会」は、栄養士を目指す学生に、即戦力に近い力を付けて卒業してもらおうと本学独自に設けた科目である。前者は、全て自分たちで企画し、食券を販売して授業とは関係のない方々にも食べていただき感想を聞くというもので、すでに11年続いている。また、後者は保護者や高校の恩師などを招待して行っているが、どちらも大変高い評価を頂いている。学生の実力をつける意味で大変効果が上がっていると同時に、アンケートにもあるように、学生時代のよい思い出になっているようだ。

3) 幼児教育学科

本文中にもたびたび出てきている「ミュージックカーニバル」は、幼児教育学科全員で取り組む本学独自の行事で、本年は第27回である。近年は別府と大分2会場で2日間4公演を行い、毎年3~4千人の方々に見ていただいている。アンケートにもあ

るように、この行事による教育効果は絶大なものがある。対外的にも、本学受験の動機の一つに挙げるなど、また、年間行事に入れている園があるなど、かなり成果を上げている。

さらに、ハンドベルを使った教育では、平成 17・18 年に補助金対象になり、また、19 年にも新たに採択された。本年も多くの所からオファーを頂き、20 回の演奏会を持った。ハンドベルの経験は、かつて、指導が出来るということで児童養護施設に 3 名就職したこともあり、また、現在その経験を買われて園で指導していると言うことはたびたび聞いている。卒業生を通じてのオファーも多く、卒業生のリカレント教育、在学生の現場体験といろいろな意味で大きな成果を出している。

4) 介護福祉学科

「ふくし・ふれあい広場」は、早い時期に高齢者と触れ合う機会を持つことで、会を企画運営し楽しんでもらうスキルを養いたいという目的で、1 年次生が主体になって行う本学科独自の行事である。地域の方々にもとても喜ばれ、また、学生にとって貴重な場であり、アンケートにもあるように良い思い出になっているこの行事の教育的効果は大きい。

また、本年度から大正琴を「福祉総合演習」という授業のなかに取り入れた。これは、クラス全員で演奏することで、介護の現場に必要な「連携」の大切さを学んで欲しいという強い願いが具現化したものである。この 1 年間、大正琴を学ぶことで、学生たちは高齢者の身近な音楽や暮らしぶりを知ることになり、心に寄り添える介護福祉士となる自信が育ったようである。

(2) 特別の事由や事情があり、評価項目や評価の観点が求められることが実現(達成)できないときはその事由や事情を記述して下さい。

特になし。

学生支援

1. 入学に関する支援について

(1) 入学志願者に対し、短期大学は建学の精神・教育理念や設置学科等の教育目的・教育目標、求める学生像をどのような方法、手段を明示しているのかを記述して下さい。なおそれらが記載されている短期大学案内等の印刷物を添付して下さい。

短期大学案内の巻頭に、建学の精神「自立・自活できる人材の育成」を掲げている。また理事長・名誉学長・学長からのメッセージとして建学の精神や教育理念に関する記述を掲載している。

本学の各学科の教育目標及びシステム、求める学生像、特色、取得可能な資格などの情報提供は、「大学案内」をはじめ、「ホームページ」「eyes (アイズ)」などに記載し、入学志願者によりわかりやすく伝えることができるように配慮している。

(2) 入学志願者に対し、入学者選抜の方針、選抜方法（推薦、一般、AO入試等）をどのような方法、手段で明示しているかその概要を簡潔に記述して下さい。なおそれらが記載されている募集要項等の印刷物を参考資料としてご準備下さい。

入学志願者に対して、「学生募集要項」を配布し、学生の選抜方法や入試日程、受験科目、入学手続き、学費、入学試験などを明示している。また、「ホームページ」にも掲載している。こうした入試情報は受験生が最も知りたい事項であり、オープンキャンパス、進学ガイダンスなどの直接接する場では、できる限り詳細に説明し理解を得る努力をしている。

(3) 広報及び入試事務についての体制（組織等）の概要を記述して下さい。また入学志願者、受験生等からの問い合わせにはどのような体制で応じているかを記述して下さい。

広報については、各学科から広報課委員を選出し、「大学案内」「ホームページ」「eyes」を広報課として制作している。また、入試に関する受験生などからの問い合わせには、主に電話対応、Eメール、資料請求のはがきへの返信、来学者への対応などがあるが、「広報課」と「学生募集・入試業務組織」が協力し、丁寧に問い合わせにしている。

またオープンキャンパス、県内高校訪問、県外高校訪問、高校統一説明会、地区別・学校別入試説明会、進学ガイダンスなど受験生や高校の進路担当者と直接接する機会を多くつくり、入学への意志を促進する努力を行っている。なお、これらについては、全教職員が協力して、オープンキャンパス、県内高校訪問、県外高校訪問、高校統一説明会、地区別・学校別入試説明会、進学ガイダンスなどにあたっている。

(4) 願書受付から合否通知にいたる入学試験の流れについて、選抜方法ごとにその概要を記述して下さい。また多様な選抜を公正かつ正確に実施しているかどうか、入試事務の責任者は現状をどのように受け止めているかを記述して下さい。入学願書等

を参考資料としてご準備下さい。

本学では、「指定校推薦入試」「A0 入試」「一般推薦入試」「一般試験入試」「自己推薦入試」(志願者なし)を複数回(合計9回)実施している。また専門高校、総合学科および社会人、外国人留学生、帰国子女についても入学選考を行っている。多様な入試形態を採用することによって、多様な学生の入学を求めている。可否については、それぞれの学科の可否判定会議後、最終的に全教職員による可否の判定会議を実施し、可否が確定する。これらの入試システムを採用することによって、入試は公正かつ正確に実施されていると言える。

1) 指定校推薦入試

指定基準は、本学への過去の実績であり、それをもとにして決め、該当校に書類を送付した上で校長の推薦により出願する。選考方法は、学力検査を免除し、書類審査及び面接・小論文により総合判定する。入試は本学のほか、沖縄・熊本・宮崎の3県で10月に実施し、可否は本人及び学校長に通知する。

2) A0 入試

A0 入試の出願基準は、以下の通りである。

明確な目的意識を持ち、意欲的な学生生活に取り組む意思のある者

評定平均値は問わない

予備面談を受けた者

選考方法は、自己PR(口頭・演技・作品提出等)面接、自己推薦書等の書類審査により総合判定する。入試は10月と11月に本学で実施し、可否は本人及び学校長に通知する。

3) 一般推薦入試

出願基準は、高等学校長が志願学科について適性があると認め推薦する者で、評定平均値3.0以上で本学を専願する者としている。選考方法は、学力検査を免除し、書類審査及び小論文・面接により総合判定する。推薦入試は10月に本学と沖縄・宮崎・熊本の各会場で実施し、推薦入試は、12月に本学で実施する。可否は本人及び学校長に通知する。

4) 一般入試

選考方法は、学力検査(国語)及び面接等により総合判定する。入試は2・3月に試験A、試験B、試験Cに分けて実施し、試験Aは本学と宮崎・熊本・沖縄の各会場で実施している。試験B、試験Cは本学のみで実施。可否は本人及び学校長に通知する。

5) 自己推薦入試 (本年度は志願者なしで実施せず)

自己推薦入試の出願基準は、以下の通りである。

明確な目的意識を持ち、意欲的な学生生活に取り組む意思のある者。

評定平均値は問わない。

選考方法は、自己PR(口頭・演技・作品提出等)面接、自己推薦書等の書類審査により総合判定する。入試は3月に本学で実施し、可否は本人及び推薦学校長に通知する。

6) 専門高校、総合学科および社会人等の入試

高等学校の専門学科及び総合学科の卒業生あるいは卒業見込者で入学を希望する者

は、調査書・出身高等学校長の推薦書及び面接・小論文により選考する。

また、20歳以上の社会人（職業または家事に従事している者・大学生・専門学校生を含む）で入学を希望する者については、提出書類、小論文及び面接により審査の上選考し、判定する。選考は本学推薦入試ならびに一般試験入試の日にいずれも本学で実施する。可否は直接本人に通知する。

7) 外国人留学生・帰国子女入試

中国にて年2回（11月に大連と瀋陽、12月に武漢にて）、中国人留学生に対する入試を実施している。

（5）合格者もしくは入学手続き者に対し、入学までの間、授業や学生生活についてどのような方法、手段で情報の提供を行っているのかを記述して下さい。なおそのための印刷物等があれば参考資料としてご準備下さい。

合格者もしくは入学手続き者に対する情報は、「大学案内」「学生募集要項」にすべて掲載している。また、合格者に対して学科ごとに課題を与え、入学に備えるようにしている。

（6）入学後（入学直前を含む）入学者に対して行っている学業や学生生活のためのオリエンテーション等の概要を示して下さい。

オリエンテーションについては、入学式の翌日から3日間（今年度は4月5・6・7日）にわたって実施している。全学によるものと各学科によるオリエンテーションがある。全学によるものについては、教員紹介や教務第一課、教務第二課、学生第一課、学生第二課、厚生課、就職指導課、図書館よりそれぞれの説明が行われる。学科によるものについては、シラバスを配布し、履修登録等の学習を進めるうえでの注意事項や取得できる資格等の説明をしている。健康検査や実習服の採寸、テキスト受領、写真撮影もオリエンテーションの期間中に行われる。また、留学生のオリエンテーションについては、日本語のテスト実施を含め、別日程で行っている。

2. 学習支援について

（1）入学時もしくは学期ごとに行っている学習や、科目選択のためのガイダンス等の概要を示して下さい。

オリエンテーションにおいて、教務課より学生に単位の取得方法や科目選択のための具体的な内容を理解させるため、学生便覧や教授要項を全員に配布し、説明を行っている。その後、各学科でクラス担当者がより一層詳しい説明を行い、理解を深めるようにしている。

（2）学習や科目選択のための印刷物（学生便覧を除く）があれば参考資料としてご準備下さい。

特に準備していない。ただし実習事前指導等においては、各教官が独自のプリントを作成し、配布している。

(3) 基礎学力等が不足している学生に対する補習授業等の取組みを行っている場合は、その概要を記述して下さい。

服飾デザイン学科

基礎科目として、「経営学」「コミュニケーション論」「国語概説」「日本国憲法」「情報処理論」「英語」「運動スポーツ」の7科目が行われているが、「情報処理論」「国語概説」「英語」においては学力差があるため、放課後や休み時間に、担当教官がミニテストを行って学力向上を図っている。

食物学科

基礎科目として「経営学」「人間関係論」「日本語表現法」「化学」「情報処理論」「英語」「運動スポーツ」が行われており、服飾デザイン学科と同じ処置をしている。「化学」に関しては、高校時代に選択科目のために選択していなかった学生のため授業中に細かい指導を行い、学力不足の学生のためには放課後質問を受け指導している。

幼児教育学科

基礎科目として「経営学」「日本国憲法」「情報処理論」「生物学」「児童文学」「英語」「運動スポーツ」が行われており、服飾デザイン学科、食物学科と同じような処理を行っている。「生物学」「環境」「健康」に関しては、授業中のみならず質問を受けたことに対して解答し、「児童文学」に関しては、絵本の製作等に対し放課後指導することもある。

介護福祉学科

基礎科目として、「人間関係論」「コミュニケーション概論」「人権教育概論」「情報処理論」「英語」「運動スポーツ」が行われており、他の学科と同じ様に処理を行っている。

上記のように各学科の基礎科目に対して、全学科の教官が定期試験の前後、あるいは授業中や休み時間、放課後等に学力向上のための指導やアドバイスを行い、学生たちの学力向上のための努力をしている。

(4) 学習上の悩みや相談、適切な指導助言を行うための取組みや体制があれば記述して下さい。

本学はクラス制にしており、アドバイザー教官とクラス担当、事務担当があり、各学生の悩み等を聞く体制が整備されている。面接の時間を設け、主としてアドバイザー教官やクラス担当が話を聞き、場合によっては各教科担当の教官に話をして指導・助言を行うことにしている。

(5) 進度の早い学生や優秀学生に対する学習上の配慮や学習支援を行っていれば、記述して下さい。

服飾デザイン学科

本学は基礎科目とともに、専門科目に技術を要するものが多く、服飾デザイン学科では「パターンメイキング」や「服装造形」「被服構成演習」「DTP 演習」「デジタルデザイン演習」などは、各学生の進捗能力に応じて指導している。特に検定試験

前に行うこともある。

食物学科

「調理学実習」「給食管理実習」「栄養指導実習」「食品学」「日本語ワードプロセッサ」等の学科独自の技術を要するものを中心に行っている。

幼児教育学科

「器楽」「音楽」「音楽」に関しては、進度によるクラス分けを行い、技術の向上を目指している。

介護福祉学科

介護福祉に関しては、全ての学生が技術を習得しなければならないので各人の技術向上を目指し、成績優秀者に対してはその技術を一層向上させるための指導を行っている。

3. 学生生活支援体制について

(1) 学生生活を支援するための組織や体制(教員組織、事務組織のいずれも)の現状を示して下さい。

学内では、学生生活支援の為、教員組織、事務組織からなる各課が設置、運営している。

添付資料 「学生生活ハンドブック」(pp.30-31)

(2) クラブ活動の現状、学友会の現状、学園行事(学園祭、短大祭等)の実施の状況を、その指導体制及び学生の活動状況を含めて記述して下さい。

クラブ活動に関しては、現在 10 つのクラブがある。時間帯は決まっていないが、各クラブで放課後(16:00以降)の時間を主な活動時間としている。内訳は、スポーツクラブが 5、文化クラブが 5 である。各クラブには教員が 1 名顧問として付き、指導を行っている。また活動に際し、外部より講師を招いているクラブもあり、充実した活動が成されている。その中で、卓球部・水泳部・弓道部には、学園特別奨学生制度というものがある。(『学生生活ハンドブック 92 頁』参照)事務的な窓口として、学生課がサポートしている。毎年 4 月には、全新入生を対象にクラブ紹介を行っている。

姫山会活動は 2 月に行われる投票により各委員が決定され、毎年 4 月に全学生による姫山会総会が開催される。また、同じく毎年 7 月には、姫山会主催で全学生参加のスポーツ大会が開催される。

学園行事としては、毎年 10 月に開催される学園祭「姫山祭」が代表的な行事である。本学では、52 回を数え、姫山祭実行委員会を中心とした学生主体の運営と全学生参加による行事と位置づけている。学外より招待した芸能人によるステージ、各学科・コース、各クラブによる模擬店、展示等が前夜祭を含め 3 日間行われる。各学科・コースでは、教員がサポートし、協力して様々な発表を行っている。

以上の学生に対する支援については、全教職員でのサポートを行っており、直接の業務窓口は、学生第二課が担当している。

添付資料 「学生生活ハンドブック」(pp.107)

(3) 学生の休息のための施設・空間、保健室、食堂、売店の設置の概要について記述して下さい。なお訪問調査の際にご案内いただきます。

短大本館前には、ロータリーがあり、ベンチを設置し、学生がここでランチを取るなど、くつろぐことが出来る。

一方、校舎内の施設としては、保健室としての、健康管理室を設けており気分の悪くなった学生が休めるように3台のベッドを準備している。保健師が常勤職員として、状況に応じて対応している。またカウンセリングルームも設置しており、常勤カウンセラーも1名配置している。

購買部では、サンドイッチやパン、お弁当やおにぎりなどの軽食と文房具などが購入できる。その空間にはテーブルが置かれ、学生の憩いの場として利用されている。他には自動販売機も設置されている。その横に隣接するリーブル姫山では、雑誌や教科書の購入も出来る。食堂としての機能として、食物学科学生による昼食の提供を行っている。

(4) 短期大学が設置する学生寮の状況、下宿・アパート等の宿舍の斡旋の体制、通学のための便宜(通学バスの運用、駐輪場、駐車場の設置等)の概要を示して下さい。

学園キャンパスまで歩いて5分の所に女子学生寮がある。鉄筋4階建ての橋寮のほかに、学園センタービルの一部が寮として利用されている。橋寮は、食堂等共用施設のほか10畳の和室27室、センタービルは6畳2間の和室10室がある。

寮の運営は、寮母(栄養士)・調理師・警備員が生活指導に当たっている。学園としては、舎務委員会が業務にあたることとなっている。また、寮を希望しない学生には厚生課から下宿・アパートを紹介している。

通学に関してはJR通学、自転車通学、自動車通学が多く届出をさせた上で許可している。自転車・自動車通学の者に関しては、専用駐車場を設置し対応している。

(5) 平成19年度の日本学生支援機構等の外部奨学金の取得状況を記述して下さい。また短期大学独自の奨学金等があればその概要も記述して下さい。

1) 外部奨学金

本学で、現在取り扱っている外部奨学金は、厚生課が窓口として担当している。一般学生向けの外部奨学金としては、「日本学生支援機構奨学金(返還必要)」の受給者がもっとも多い。

日本学生支援機構 平成19年度実績

(平成20年3月31日現在)

種類、採用人数	貸与額(月額)
第一種奨学金(利息なし)39名(併用5名含む)	自宅通学53,000円、自宅外通学者60,000円
第二種奨学金(利息あり)86名(休学4名含む)	3万円、5万円、8万円、10万円より選択

この他に、19年度実績のある外部奨学金は「壽崎育英財団奨学金(返還不要)」(貸与月額:10,000円 19年度実績2名)がある。

その他にも「あしなが育英会奨学金(返還必要)」(一般貸与月額:40,000円、特別貸与月額:50,000円)「宮崎県育英資金(返還必要)」(自宅通学者貸与月額52,000円、自宅外通学者貸与月額:59,000円)「北九州市環境社会貢献活動等(返還不要)」(貸

与月額：100,000 円)「交通遺児育英会(返還必要)」(貸与月額：40,000 円、50,000 円、60,000 円)も取り扱っているが、個人での申し込みになるため受領者の把握はしていない。

留学生向けの外部奨学金としては、「日本学生支援機構私費外国人留学生学習奨励費(返還不要)」(給付月額：50,000 円 19 年度実績 2 名)と「大分県私費外国人留学生奨学金(返還不要)」(給付月額：25,000 円 19 年度実績 1 名)と「別府市私費外国人留学生奨学金(返還不要)」(給付月額：20,000 円 19 年度実績 1 名)がある。

2) 本学独自の奨学金 (学校法人溝部学園特別奨学生規程第一章参照)

学校法人溝部学園創立者の遺志に基づき、学園が設置する別府溝部学園短期大学において経済的に困難な者で学業またはスポーツ等において優秀な者に学費等を免除してこれを育成し、以て、建学の精神の具現化を図り、社会に寄与することを目的とする。

(6) 学生の健康管理、メンタルケアやカウンセリングの体制の概要を示して下さい。

本学では、毎年4月初めのオリエンテーション時に、1、2年生とも全員健康診断を受診することとしている。再検査が必要な場合、クラス事務担当を通じて本人へ伝達し、指導を行っている。事務的窓口は、厚生課が担当している。

日々の学生の健康やメンタルケアについては、各学科ともクラス担当、クラス事務担当、アドバイザー、各学科全員でケアしている。また、軽度の体調不良や気分の悪くなった学生は、健康管理室のベッドにて休ませている。容態や症状によっては、常勤の保健師の指示のもと教職員が保護者と連絡を取り対応を図っている。カウンセリングについては、カウンセリングルームを設置しカウンセラー1名を配置している。

(7) 学生支援のために学生個々の情報等を記録していれば、それらはどのように保管・保護されているかを記述して下さい。

本学は、学生個々の記録として、異動願、学生票、出席簿、そしてPCデータ等により学生の日々の記録を管理している。

異動願には、休学、退学等の学籍上の異動事項が記載される。また学生票は、緊急時の保護者への連絡、学生の自己PRなどを書く欄も設けている。出席簿には出欠席、早退等が記載されている。PC内には、学生のデータとして、入試情報、学籍情報、成績情報、就職情報など多数の分類による学生のデータが保存してある。

上記のデータは教務課が管理しており、それぞれキー付ロッカー内に保管しており、PCデータは学内サーバーとバックアップファイルにより保管されている。

4. 進路支援について

(1) 過去3ヶ年(平成17年度~19年度)の就職状況等を学科ごとに記載して下さい。また進路一覧表等の印刷物があれば参考資料として準備して下さい。

過去3ヶ年の就職状況
(服飾デザイン学科)

(平成20年3月31日現在)

区分	17年度	18年度	19年度
a 卒業者数	40人	27人	32人
b 就職希望者数	33人 82.5%	24人 88.8%	30人 93.7%
c 内、学校で斡旋した就職者数	18人 54.5%	13人 54.1%	9人 30.0%
d 内、自己開拓分の就職者数	13人 39.3%	11人 45.8%	16人 53.3%
e 就職未定者	2人 6.0%	0人 0.0%	5人 16.6%
f 進学・留学希望者数	1人 2.5%	3人 11.1%	1人 3.1%
g その他	6人 15.0%	0人 0.0%	1人 3.1%

(食物学科)

区分	17年度	18年度	19年度
a 卒業者数	82人	63人	61人
b 就職希望者数	76人 92.6%	54人 85.7%	54人 88.5%
c 内、学校で斡旋した就職者数	34人 45.0%	52人 77.8%	32人 59.3%
d 内、自己開拓分の就職者数	34人 45.0%	12人 22.2%	17人 31.5%
e 就職未定者	8人 10.0%	0人 0%	5人 9.3%
f 進学・留学希望者数	0人 0%	3人 4.7%	2人 3.3%
g その他	6人 7.3%	6人 9.5%	6人 9.8%

(幼児教育学科)

区分	17年度	18年度	19年度
a 卒業者数	61人	67人	62人
b 就職希望者数	58人 95.0%	64人 95.5%	61人 98.3%
c 内、学校で斡旋した就職者数	57人 98.3%	59人 92.2%	56人 91.8%
d 内、自己開拓分の就職者数	1人 1.7%	3人 4.7%	5人 8.2%
e 就職未定者	0人 0%	2人 3.1%	0人 0%
f 進学・留学希望者数	1人 1.6%	1人 1.5%	0人 0%
g その他	2人 3.2%	2人 3.0%	1人 1.6%

(介護福祉学科)

区分	17年度	18年度	19年度
a 卒業者数	40人	38人	32人
b 就職希望者数	36人 90.0%	37人 97.3%	32人 100.0%
c 内、学校で斡旋した就職者数	30人 83.3%	34人 91.9%	22人 68.8%
d 内、自己開拓分の就職者数	6人 1.7%	3人 8.1%	10人 31.3%
e 就職未定者	0人 0%	0人 0%	0人 0.0%
f 進学・留学希望者数	4人 10.0%	1人 2.6%	0人 0.0%
g その他	0人 0%	0人 0.0%	0人 0.0%

就職・進学状況表および求人の詳細は、別紙の通り

(2) 学生の就職を支援するための組織や体制（教職組織、事務組織のいずれも）の現状を記述して下さい。

本学は、就職指導課（課長1名、就職指導委員10名）を中心に、学生・教職員が一体となって学生の進路・就職支援を行っており、これらを推進するにあたっては、情報収集、就職関連行事の開催、学生との個別面談等を行っている。

求人や就職活動について適宜指導を行い、大学全体の将来のために就職委員会を設け、委員長を中心に対策を検討している。

就職支援の年間プログラムは、就職ガイダンス、就職適性検査、一般常識テスト、就職エチケット&マナー講座、OG・OBが語る社会・職種説明会、就職活動体験報告会等を実施している。

就職指導年間計画

1997年の就職協定廃止以降、企業の自己責任において自主的に採用が行われるようになった。その結果、採用時期の早期化と、新しい採用手法が定着してきた。それは、「インターネットを利用した情報提供・資料請求の受付」、「応募時に志望動機や自己PRなどを詳しく書かせるエントリーシートの導入」、「選考とは関係のない早期オープンセミナーの開催」などである。これらは、今後の就職活動の主流となることが予想されるため、学生に指導を行っている。

[2月] 就職ガイダンス（1年次生）

[4月] 就職登録カードの作成（2年次生）

先輩・知人からの情報と家族の合意を得て作成する。

就職講座の選択（1・2年次生）

就職対策模擬試験（2年次生）

就職ガイダンス（2年次生）

[5月] 県内・県外求人企業への求人依頼文書と求人票の発送

履歴書の浄書と携帯

面接指導（ビデオ・講師）

[6月] 求人票の公示

必要書類の準備（履歴書・卒業見込証明書・成績証明書・健康診断書）

[7月] 会社説明会への参加・会社訪問の開始

就職先決定・受験申込

学校教諭等教員採用試験・公務員採用試験の実施

[10月] 採用内定通知

受験結果報告書の提出

(3) 就職支援室、就職資料室等の現状を示し、学生にどのように就職情報等を提供しているかを記述して下さい。

就職資料室には、学生用パソコンを配置し、インターネットによる企業情報収集等のための環境を整備している。また、求人票の他、約5,000社のパンフレット等資料、就職活動・試験内容報告書、企業訪問記録、就職活動参考書、就職情報誌等を配備し、

学生が自由に閲覧できるようなスペースを設け、就職情報提供に努めている。

本学に寄せられた求人情報については、学生ポータルサイトを使って、外部のパソコンも閲覧できるようなシステムが構築されている。

(4) 過去3ヶ年(平成17年度～19年度)の就職状況について、就職率及び就職先を学長等、学科長等はどのように受け止めているのかを記述して下さい。

学生は、それぞれ自分の将来について夢を持ち、その夢の実現に沿った就職に有利になるように、多くの資格や免許を取得しようと努力している。就職活動は、夢を実現するために極めて重要なものであり、就職に至る過程には、大学の教育と学生生活の内容が深い関わりを持っているため、就職活動を重要な教育業務の一環をなすものと理解し、細心の指導を行うよう努力している。

本学には4つの学科があり、それぞれの特性を活かして取得した資格・免許が社会的な評価を得て、学生の得意分野を生かすことのできる就職実現、過去高い水準(近年は90%を越える就職率)の就職実現を見てきたが、時代の推移とともに専門職の求人極めて限られている学科もあり、就職環境の変遷はもはや過去の実績に安住することは許されず、極めて厳しい様相を見せている。

これからの就職活動は学校まかせでなく、学生が積極的に取り組むことが要求される。さらに現状をしっかりと認識し、もっと柔軟な判断能力を培って取り組むことが重要である。自分の性格や能力について自己分析を正しく行い、自己理解を深め、自分に合った職業に向かって勇気を持ってチャレンジして欲しいと考える。

(5) 過去3ヶ年(平成17年度～19年度)の進学(四年生、専門学校)及び海外留学の実績について、その支援はどのような方法、体制で行ったかを記述して下さい。
進学及び海外留学支援

進学状況については就職・進学状況表を参照。

進学への情報については、海外留学を含め、就職資料室に募集要項、学校案内等を配備し、学生が自由に閲覧できるようにしてある。また専用掲示板を設置、周知に努めている。受験支援等については各学科で、海外留学については英語担当者が行っている。

5. 多様な学生に対する特別支援について

(1) 過去3ヶ年(平成17年度～19年度)の留学生・社会人・帰国子女・障害者・長期履修学生・科目等履修生の受け入れ状況を示し、その学修支援、生活支援はそれぞれどのような方法、体制で行っているかを記述して下さい。

1) 外国人留学生の受け入れ実績

本学の過去4年間の留学生の受け入れ状況は次の通りである。

年度	2005(H17)	2006(H18)	2007(H19)	2008(H20)
人数	19	11	11	26
国	中国 19	中国 11	中国 11	中国 26

(各年度とも5/1現在)

2) 外国人留学生の支援体勢

国際交流課を中心に次のような支援を行っている。

留学生ガイダンス

入学式後3日間にわたってのオリエンテーションの中で、大学に関すること・外国人登録等に関すること・国民健康保険に関すること・アルバイトに関すること・留学生に対するガイダンス等々を実施し、日本での留学生活がスムーズにスタートできるようサポートしている。

奨学金等制度

()内は平成19年度実績

本学では、次の学習奨励費受給の推薦を行っている。

- ・私費外国人留学生学習奨励費(日本学生支援機)(月50,000円・2名受給)
- ・大分県私費外国人留学生学習奨励費(大分県)(月25,000円・1名受給)
- ・別府市私費外国人留学生学習奨励費(別府市)(月20,000円・1名受給)

寮

学内に男子寮と女子寮を設け、留学生の生活支援を行っている。第1学年次では、光熱費のみ実費負担で、他の寮費等は無料で入寮できる態勢をとっている。第2学年次では、光熱水費の実費負担と、月1万円の寮費を徴収している。

その他

留学生クラス担当(1名)及びクラス事務担当(2名)を置き、指導等の態勢をとっている。

3) 社会人の支援体勢

過去4年間の社会人学生の受け入れ状況は次の通りである。

年度	2005(H17)	2006(H18)	2007(H19)	2008(H20)
人数	7	11	7	6

(各年度とも5/1現在)

上記以外にも「科目履修生」として単位をとりに来る学生がおり、その窓口も開かれている。

4) 障がい者の受け入れ・支援体勢

過去5年以内において、障害を持った学生の入学希望はなく、受け入れるために特に準備された支援体勢はない。

5) 長期履修生の受け入れ態勢

過去5年以内において「長期履修生」という形の希望者はなく、受け入れ実績はない。

6. 特記事項について

(1) この領域で示した評価項目や評価の観点の他に、学生の個人情報保護への取り組み、成績不良への支援、長期欠席者への援助、学生に対する表彰制度等、学生支援について努力していることがあれば記述して下さい。

1) 学生の個人情報保護への取り組み

学生の氏名、住所、電話番号等が流出しないように最大の努力をしているので、外部からの問い合わせ等には一切応じないようにしている。又、学生自身がパスワードを持っているので、オリエンテーションにおいて自分のパスワードの管理をしっかりとするように指導している。コンピュータウイルスの侵入を防ぐため、常に専門の教官が定期的に点検している。

2) 成績不良者への支援

各学科とも教官が、定期試験終了後、成績不良者に対して授業の復習や再試験等を通して、どの例題を理解していないかを探り、その例題を理解できるように指導し、次のステップへ進めるよう努めている。

3) 長期欠席者に対する援助

様々な事情で欠席している学生に対して、アドバイザー教官やクラス担任が電話をかけ、現在どのような状況にあるのかを常に把握し、その状態により学生の出校を促す努力を続け援助出来ることはないか全学で取り組んでいる。

4) 学生に対する表彰制度

毎年度の卒業式で表彰

成績優秀者に対する表彰

- ・全国栄養士養成施設協会 会長賞 食物学科
- ・日本医療福祉実務教育協会（医療秘書実務士） 会長賞 食物学科
- ・日本医療福祉実務教育協会（介護保険実務士） 会長賞 食物学科
- ・全国保育士養成協議会 会長賞 幼児教育学科
- ・日本介護福祉士養成施設協会 会長賞 介護福祉学科

功労賞

学生活動において顕著な活動を収めた学生に対する表彰

- ・部活動に対する特別功労賞 卓球部・弓道部・水泳部・ハンドベル部
- ・社会奉仕活動に対する特別功労賞 シグマクラブ

(2) 特別の事由や事情があり、評価項目や評価の観点が求めることが実現（達成）できないときはその事由や事情を記述して下さい。

特になし。

研究

1. 教員の研究活動全般について

(1) 次の「専任教員の研究実績表」を例にして過去3ヶ年(平成17年度～19年度)の専任教員の研究状況を記載し、その成果について記述してください。

平成17年度～19年度 専任教員の研究業績表(学科の順に記述)

学科	氏名	職名	研究業績				国際的 活動の 有無	社会的 活動の 有無
			著作数	論文数	学会等 発表数	その他		
	溝部 仁	教授	1	1	0	0	無	有
服飾デザイン学科	大蔵開平	教授	0	0	0	4	無	有
	辛島靖子	教授	0	0	0	2	無	有
	後藤芳子	教授	0	0	0	1	無	有
	青柳英俊	准教授	0	0	0	1	無	有
	笠置映寛	准教授	0	6	12	2	有	有
	里中玉佳	講師	0	0	0	0	無	無
	高野弓枝	講師	0	0	0	0	無	無
食物学科	山本玲子	教授	0	0	0	0	無	有
	牧 昌生	教授	0	0	0	5	無	有
	青柳征子	教授	2	0	0	0	無	有
	大石博嗣	准教授	0	0	0	1	無	無
	相良喜久子	准教授	0	0	0	0	無	無
	松波 勝	准教授	0	3	8	5	有	有
	久恒賢太	講師	0	0	0	0	無	無
幼児教育学科	土井敏行	教授	0	0	0	6	無	有
	松岡みどり	教授	0	0	0	3	無	有
	阿部義隆	教授	0	0	0	0	無	無
	大塚豊子	教授	1	0	0	14	無	有
	脇 信明	准教授	1	1	1	0	無	有
	田邊 勲	准教授	0	0	1	0	無	有
	阿南寿美子	講師	0	2	1	0	無	無
	伊達洋介	講師	0	4	0	0	無	有
	西村 薫	講師	2	4	2	0	無	有

学科	氏名	職名	研究業績				国際的 活動の 有無	社会的 活動の 有無
			著作数	論文数	学会等 発表数	その他		
介護福祉学科	相良範子	教授	0	0	0	0	無	無
	相良好仁	教授	0	0	0	0	無	無
	溝部佳子	教授	4	10	7	3	無	有
	赤星琴美	教授	0	7	4	11	無	無
	竹枝美里	准教授	0	0	3	2	無	有
	中島純子	講師	0	0	2	0	無	無
	溝部 倫	講師	0	1	0	0	無	有
	武田卓也	講師	0	0	0	0	無	無

教員の研究実績については、日々の教育活動と並行して各自鋭意取り組んでおり、研究成果を教育活動に取り入れ、学生の自己実現を図っている。本学の特徴でもある一人ひとりの学生にきめ細かいサービスを提供しているためか、業績の著作・発表までに至っていないものが多く、個人間での差も大きいのが現実であり、今後の課題である。

(2) 教員個人の研究活動の状況を公開していれば、その取り組みの概要を記述し、公開している印刷物等を訪問調査の際にご準備下さい。

教員個人の研究活動の状況については、『別府溝部学園短期大学紀要』（別府女子短期大学紀要 1967年9月に創刊）で公開するとともに、卒業式に合わせて発行している『広報 溝部学園 別府溝部学園短期大学』（広報 溝部学園、別府女子短期大学 1951年3月に創刊）にても一部掲載公開している。

(3) 過去3ヶ年（平成17年度～平成19年度）の科学研究費補助金（以下「科研費」という。）の申請・採択等、外部からの研究資金の調達状況を一覧表にしてください。

外部研究資金の申請・採択状況（平成17年度～19年度）

外部資金調達先等	17年度		18年度		19年度	
	申請	採択	申請	採択	申請	採択
科学研究補助金	1 (4,320)	0 [継続1、 (300)]	4 (9,677)	1 (800)	3 (5,812)	1 (1,800) [継続1、 (500)]

（単位；千円）

(4) 学科等ごとのグループ研究や共同研究、短期大学もしくは学科等の教育に係る研究の状況について記述してください。

- ・溝部 仁 大分県の中の朝鮮半島 No.26
- ・吉川 喬 学生の言語感覚に関する一考察 No.26
- ・溝部佳子 精神障害者に対する家族ケアの課題 -先行研究からの一考察- No.26
- ・西村 薫 ケースセンターコンサルテーションに関する機能についての研究
-友達に噛みつくなどの暴力行為を主訴として、学校から相談のあった、
小一女兒のコンサルテーションケースを通して- No.26
- ・正野知基・伊達洋介・赤星琴美
レクリエーション・インストラクター養成課程受講学生の
QOLおよび体力自己評価の現状 No.26
- ・笠置映寛・山下雅文・福田秀孝・藤本直樹・蔦岡孝則・前原俊信
電磁遮断技術を利用した電磁環境教育の検討 No.26
- ・伊達洋介・正野知基・山本浩二
レクリエーション・インストラクター養成課程受講学生の
レクリエーション活動の現状 No.26
- ・溝部佳子・吉川 喬・正野知基・赤星琴美・竹枝美里・小出享一・中島純子・溝部倫
学生の基礎技術向上と高齢者の楽しみとしての“ふくし・ふれ愛ひろば”の意義
- ・溝部 仁 親鸞の和讃についての一考察 No.27
- ・溝部佳子 精神障害者に対する食の課題 -先行研究からの一考察- No.27
- ・西村 薫 登校行動を動機付ける自己イメージの変容過程
-過去に不登校を経験した者の振り返りの語りからその立ち直りを探る- No.27
- ・阿南寿美子・西村 薫・田中 洋
いざこざの発生と解決過程における年代変化 No.27
- ・伊達洋介・赤星琴美・山本浩二
レクリエーション・インストラクター養成課程受講生の
レクリエーション活動の現状～昨年度の追跡調査として～ No.27
- ・山本浩二・伊達洋介・赤星琴美
レクリエーション・インストラクター養成課程受講生の
QOLおよび体力自己評価の現状～昨年度の追跡調査として～ No.27
- ・田邊 勲 新しい時代における教養教育の礎としての「国語」の在り方
-「生きる力」を支える「確かな学力」を保障する国語読解力の育成- No.27
- ・溝部佳子・吉川 喬・竹枝美里
「福祉総合演習」としての「ふくし・ふれ愛ひろば」 No.27
- ・溝部佳子・小出享一・赤星琴美・中島純子・棹 友美
「ボランティア」講座についての取り組み No.27
- ・溝部 仁 大分県の中の朝鮮半島 No.28
- ・溝部佳子・武田卓也・赤星琴美
福祉総合演習における「大正琴」講座の展開と課題 No.28

- ・西村 薫
不登校生徒の将来の自己に対する肯定的な見込みと社会参加活動との関係 No.28
- ・阿南寿美子・田中 洋
いざこざの発生と解決過程の事例による検討～3歳児と4歳児との比較～ No.28
- ・溝部佳子・中島純子・竹枝美里
「ボランティア」講座についての取り組み - 2年目を迎えて - No.28
- ・赤星琴美・日高 裕・三吉奈菜・赤星哲也
携帯電話を利用した「子育て支援携帯ネット」の構築に向けて
- メール配信自動化システムの開発 - No.28
- ・田邊 勲 過去の助動詞についての仮説(第一報)
- 「き」の体系化と、表現論的立場からの考察 - No.28

2. 研究のための条件について

(1) 研究費(研究旅費を含む)についての支給規程等(年間の支出限度額等が記載されているもの)を整備していれば訪問調査時に拝見します。なお規程等を整備していない場合は、過去3ヶ年(平成17年度～平成19年度)の決算書から研究に係る経費を項目(研究費、研究旅費、研究に係る施設、機器・備品等の整備費、研究に係る図書費等)ごとに抽出し一覧表にして参考資料として準備してください。

(2) 教員の研究成果を発表する機会(学内発表、研究紀要・論文集の発行等)の確保について、その概要を説明してください。なお過去3ヶ年(平成17年度～平成19年度)の研究紀要・論文集を訪問調査の際に拝見いたしますのでご準備ください。

教員の研究成果を発表する機会を確保するために、個人研究費等については特に規定されていないが、学会費、学会参加費、出張旅費、実験実習費、消耗品費等については各個人で起案し、経営管理者の許可がおりれば実費支給がなされている。

(3) 教員の研究に係る機器、備品、図書等の整備状況について、平成19年度の決算よりその支出状況を記述して下さい。また、訪問調査の際の校舎等案内時に教員の研究に係る機器、備品、図書等の状況を説明して下さい。

学科	機器	備品	図書
服飾デザイン学科	なし	なし	10冊 20,675円
食物学科	なし	なし	7冊 42,430円
幼児教育学科	なし	なし	22冊 68,027円
介護福祉学科	なし	なし	なし

(4) 教員の教員室、研究室または研修室、実験室等の状況を記述してください。なお訪問調査の際に研究室等をご案内願います。

本学に整備されている教員室は短大本館の第一会議室と福祉介護棟にある研究室が

ある。研究室は服飾デザイン学科 3 研究室、食物学科 5 研究室、幼児教育学科 2 研究室、介護福祉学科 4 研究室がある。実験実習室については、服飾デザイン学科 4 実習室、1 演習室に加え 2 染色室、1 陶芸室があり、食物学科は 1 実験室、4 実習室、幼児教育学科は 13 演習室、介護福祉学科は 2 実習室がある。

(5) 教員の研修日等、研究時間の確保の状況について記述してください。

教職員の研修日等については、教職員服務規程第 6 章に定めがあり、夏休み、春休み等授業を行わない日を原則として研修日に当てている。各教職員は会議や事務処理、講義以外での学生相談・学生支援のための時間が多く、研究時間の確保が極めて難しい状況にある。

3 . 特記事項について

(1) この《 研究》の領域で示した評価項目や評価の観点の他に、教員の研究について努力していることがあれば記述して下さい。

特になし。

(2) 特別の事由や事情があり、評価項目や評価の観点が求めることが実現(達成)できないときはその事由や事情を記述して下さい。

特になし

社会的活動

1. 社会的活動（国際的活動は別項で記述）への取り組みについて

（１）社会的活動への取り組みについて、その理念や方針等、教育・研究における位置づけについて、短期大学ではどのように考え、また今後どのように取り組む予定かを記述して下さい。

社会人に対する教育と地域に根ざした教育を考え、開かれた短期大学を目指し、各種の公開講座を実施している。短期大学独自で開講するものと地元の高齢者福祉施設と連携を取りながら開講しているものがある。今後も継続的な実施を予定している。

（２）社会人受け入れの状況について、生涯学習の観点から短期大学では社会人の受け入れを今後どのように考えているかを記述してください。

本学では、毎年数名の社会人入学生が存在しており、年齢的には20歳代が主流であるが、40歳の入学生も時々いる。明確な学習目的を持って勉学に励む彼らの姿は、高等学校を卒業して間もない学生にとっては良い刺激であり、学科内のリーダー的存在ともなっていて指導・助言したり、時には種々の相談相手にもなり、若い学生たちの生活態度や生活姿勢、考え方などに好影響を与えている。社会人に対する教育と地域に根ざした教育を考え、大学の活性化の為に今後とも受け入れていくメリットは大きいものがある。さらに、急速に高齢化が進行する現代社会において、団塊の世代をはじめ定年退職者にも門戸が広がっていかねばとも思う。

本学では今後も尚一層社会人の受け入れを推進したいと考え、長期履修制度を導入する。

（３）過去3カ年（平成17年度～19年度）に短期大学が行った地域社会に向けた公開講座、生涯学習授業、正規授業の開放等の実施状況を記述して下さい。

本学では、地域社会の向上に資するため毎年公開講座を開設しており、一昨年からは従来の夏季限定を改め通年で実施している。特に昨年度は学科の枠を超えて「学科間連携」による講座の開設等、関係教員の創意工夫が例年以上に重ねられ、結果として一昨年を大幅に上回る440余名の参加者があった。本年度も通年での公開講座を各学科の教員が企画・実施し、336名の参加者があった。年々、参加者の人数も増加傾向にあり“地域に向けた社会的活動”の一環として地域に着々と「公開講座」が根付いてきつつある事が参加者の人数や参加時の状況などをみるとうかがえる。

来年度も今年以上に地域の方々のニーズに沿った「公開講座」を継続して計画・実施していくことはもちろんのこと、その他「生涯学習授業」や「正規授業の開放」なども並行して検討していくことは今後の課題である。

【平成17年度】

	講座名	期日	参加者数
A	私は“魔法のパン屋さん”そして温泉プールで遊ぼうね	2005年8月9日	82名

B	いきいきアクアエクササイズ	2005年8月23日	5名
C	夏の手作り教室	2005年8月19日	4名
D	中国語で遊ぼう	2005年9月10日	7名
E	楽しい歌遊び	2005年8月9日	2名
F	ハンドベル講座(入門編)	2005年8月21日	9名
G	ハンドベル講座(アドバンス)	2005年8月21日	14名
H	心理学入門～実験でとく心の謎～	2005年8月27日	13名
I	母と子の英会話～英語で遊ぼう～	2005年8月24日	18名
J	Let`s enjoy English 挨拶、自己・家族紹介編	2005年8月24日	1名
K	Let`s enjoy English 初めての海外旅行編	10月から10回	3名
L	弓道教室	2005年9月23日	5名
M	WORDで遊ぼう!	2005年9月5日	11名
N	EXCELを使って簡単な家計簿を作成しよう!	2005年9月6日	10名

【平成18年度】

	講座名	期日	参加者数	
A	“魔法のパン屋さん”そして温泉プールで遊ぼうね	2006年8月26日	40名	
		2006年8月27日	46名	
	保護者ふわふわメモリアルリースを作ろう!	2006年9月16日	22名	
			子ども 英語 DE 遊ぼう	22名
	保護者“こころの魔法”!	2006年10月21日	10名	
			子ども 英語 DE 遊ぼう	18名
		わくわく親子ふれあいサッカー教室	2006年11月18日	11名
		続“魔法のパン屋さん”	2006年12月16日	30名
			2006年12月17日	35名
	B	デジカメを活用したグラフィックデザイン講座～撮影編	2006年8月9日	13名
C	デジカメを活用したグラフィックデザイン講座 ～画像処理レイアウト編	2006年8月10日	11名	
D	デジタルアート入門講座～簡単わくわくチャレンジ編	2006年8月28日	6名	
		2006年8月29日	7名	
E	グラフィックデザイン特別講座	2006年11月10日	45名	
F	ハンドベル講座～入門編	2006年8月27日	1名	
G	ハンドベル講座～アドバンス	2006年8月27日	12名	
H	手軽に楽しく調理しましょう	2006年8月5日	4名	
		2006年9月30日	8名	
		2006年12月16日	15名	
I	パソコンで年賀状・ポストカードを作成しよう	2006年9月2日	5名	
		2006年9月3日	7名	

J	パソコンを使って簡単な家計簿を作成しよう	2006年9月5日	6名
K	介護福祉士にならんかえ！！～こげなんしっちゃん？～	2006年8月5日	41名
		2006年8月6日	31名

【平成19年度】

		講座名	期日	参加者数	
A	パソコン活用講座	1	ブログ作成講座	2007年8月20日	7名
		2	デジカメ写真活用講座 - 撮影編 -	2007年8月21日	12名
		3	デジカメ写真活用講座 - 画像処理・レイアウト編	2007年8月22日	14名
		4	デジカメ写真活用講座 - ハガキ(年賀状)作成編	2007年8月23日	13名
		5	デジカメ写真活用講座 - ウェブページ編 -	2007年8月24日	11名
		6	デジタルアート入門講座 - 簡単ワクワクチャレンジ編 -	2007年8月27日	6名
				2007年8月28日	
7	グラフィックソフトウェア基礎講座	2007年10月12日	23名		
		2007年10月16日			
		2007年10月19日			
		2007年11月2日			
		2007年11月9日			
B	“魔法のパン屋さん”カレーパンの登場だよそして温泉プールで遊ぼうね	2007年8月1日	89名		
		2007年8月2日			
C	介護福祉士にならんかえ！！～こげなんしっちゃん？～	2007年8月7日	82名		
		2007年8月8日			
D	心理学入門 - 実験でとくこころの謎 -	2007年8月25日	6名		
E	ハンドベル講座 - アドバンス -	2007年8月26日	14名		
F	手作りギョウザ(中華・水ギョウザ)	2007年9月22日	25名		
G	手軽に楽しく調理しましょう	2007年9月29日	34名		
		2007年12月15日			
H	夢に向かってGO！～音楽基礎講座～(8回)	2007年8月11日～ 2008年1月12日	19名		

(4) 過去3ヵ年(平成17年度～19年度)の短期大学と地域社会(自治体、商工業、教育機関、その他団体等)との交流、連携等の活動について記述してください。

高齢者福祉施設が主催する公開講座・研修講座を、本学教員を講師に地域の高齢者福祉施設にて開催している。

平成17年度地元の有料老人ホームとの共催で隔月1回の「公開講座」を開設。発足して3年目の介護福祉学科の紹介も兼ね3人の教授が講師を担当した。テーマは「“福祉”ってなあに？」、「言葉”ってなあに？」、「いきいき健康教室」、「栄養”ってなあに？」、「敬語”ってなあに？」、「高齢者と“くすり”」など、身近な問題を分かりやすく解説したもの。参加者はホームの利用者を初め地域の住民が中心で、ホームの会場が狭い

ということもあり毎回 30 人から 40 人が限度であった。普段あまり聞くことがないテーマであり参加者からは好評であった。新しい学科の紹介にもつながったと言える。今回のシリーズは平成 17 年度限りであるが、今後も地域からこの種の要請があれば応えていくつもりである。

地域の教育機関とは、大分県内の県立高等学校との教育交流協定による大規模な連携として「出張授業」を行っているほか、近隣中学校、高等学校からの保護者会の催しの一環行事としての受け入れを実施している。

高大連携では高校からの要望により各学科において、出張授業を高校生のためのプログラムとして用意している。今年度は服飾デザイン学科グラフィックデザインコースにおいて、大分県立鶴崎工業高等学校、大分県立芸術緑丘高等学校のデザインを学ぶ生徒を対象に、グラフィックソフトウェアのスキルアップセミナーを実施した。次年度以降も各学科専門性を生かした様々な取組みを予定しており、高校生の進路選択の一助となるべく、さらには別府溝部学園短期大学の活性化を目的としている。

2. 学生の社会的活動について

(1) 過去3ヶ年(平成17年度～19年度)の学生による地域活動、地域貢献あるいはボランティア活動等社会的活動の状況を記述して下さい。

本学では服飾デザイン学科、食物学科、幼児教育学科、介護福祉学科とも学科の特色を生かした行事を企画し、地域活動や地域貢献、あるいはボランティア活動に積極的に参画している。

ボランティア活動は、個々の自発的な行為であるため、その目的も多様であり、単なる労力提供でもなければ滅私奉仕ではない。ボランティア活動とは「何らかの助けを求める人に手をさしのべないではいけない」という共感と受け手側の受容のもとで成立する。本学では学内の学習だけでなく、地域社会での体験活動を重視するためにボランティア活動も積極的に推進している。

服飾デザイン学科

《自作自演のファッションショー》 H17.H18.H19

大分市トキ八会館ローズの間にて、2年間の集大成として毎年1月に服飾デザイン学科2年生による自作自演のファッションショーを開催している。学生各自がデザインしたカジュアルファッションやフォーマルファッション、ウエディングドレス、リメイクファッションなどの作品や大分県の伝統工芸や特産物、エコロジー等に注目して作品が会場を彩っている。県下のアパレル業界の方々、就職先の方々をはじめ中学校、高校生、高等学校の先生方、保護者の方々から喝采を浴びている。

《卒業制作、学生作品展》 H17.H18.H19

中津市の小幡記念図書館、大分市のアートプラザで、グラフィックデザインコースの1、2年生がDTP、写真、デジタルアート、絵画、マルチメディア作品等を展示している。県下の印刷、広告業界をはじめ、高等学校の先生方が来場している。

《別府夏の宵祭り-スパビーチフェスタ-》グラフィックデザインコース2年

平成 19 年 7 月、グラフィックデザインコース 2 年生がシティ情報大分（情報誌）とともに「光の砂浜アートディスプレイ」をプロデュース、制作を行い、期間中、T シャツボンボリと湯煙フラッグで盛り上げた。

《別府夏の宵祭り-スパビーチフェスタ-》ファッション造形コース 2 年

平成 19 年 7 月、生花を使った髪飾りとネイルアートを提供するビューティ屋台において、ファッション造形コースの学生がスタッフとして参加し、お祭りに貢献した。

《ミュージカルの衣裳製作》ファッション造形コース 1、2 年生

第 52 回九州ブロック P T A 研究大会の記念行事として開催された『ここは命の星』のミュージカル衣裳 65 点を製作。平成 19 年 10 月 28 日（日）別府市のビーコンプラザ・コンベンションホールで発表した。

食物学科

《卒業制作料理試食会》H17.H18.H19

栄養士の資格取得を目指す本学科の学生は、講義をはじめ実習等による拘束時間が多く、社会的活動に参画する機会が大変少ない。そのような中、2 年次生が「卒業制作料理試食会」を毎年 2 月に開催して、近隣の学校職員や保護者を招待し、2 年間習得した献立・調理の腕前の披露している。学生個人によるボランティア活動も、少年に対するスポーツの指導や老人ホームでの支援活動等少数ではあるが自主的な活動も散見される。

幼児教育学科

《募金活動》H17.H18.H19

学園祭や子どものためのミュージックカーニバルの収益金の一部を大分合同福祉事業団、児童養護施設、社会福祉施設に毎年寄付している。

《子どものためのミュージックカーニバル》H17.H18.H19

幼児教育学科の 1、2 年生によるミュージックカーニバルを別府市のビーコンプラザと大分市では文化会館または芸術会館で毎年 12 月初旬に、一足早いクリスマスプレゼントとして県下の子ども達を招いて文化的活動を実施している。招待先は大分市内、別府市内周辺の幼稚園、保育園、小学校低学年、養護施設等。会場は多くの観客で一杯。学生達のアイデアと情熱が感動を与えている。

介護福祉学科

《ふくし・ふれ愛ひろば・きちよくれー楽しんで》H17.H18.H19

地域のお年寄りと交流を図ることを目的に、毎年、本学近郊の地域の老人会の皆様をお招きし、ゲームや手話、手作りの人形劇などを披露している。

2 年次生は毎週金曜日に「ボランティア」講座として、県内の特別養護老人ホーム、介護老人保健施設、医療機関、児童福祉関係、グループホーム、デイケアなどで、数人単位でボランティア活動を実施している。また、クラス全体として施設のお祭りや、文化祭などに介助ボランティアとして積極的に参加したり、駅や公共施設などへも出かけ清掃ボランティア活動も行っている。

ハンドベルクラブ過去3ヶ年の活動（H17.H18.H19）

【平成17年度】

H17.4/3	「Heartほっとフェスタ」にて演奏(別府公園)
H17.5/7	ハンドベルコンサート(姫島小学校)
H17.6/10	ハンドベルコンサート(津久見小学校)
H17.10/31	亀川地区芸能文化祭出演(亀川小学校)
H17.11/23	ハンドベルコンサート(豊後高田市田染中学校)
H17.12/12	赤十字ふれあい広場にてコンサート(大分市・血液センター)
H17.12/18	ロビーコンサート(大分東郵便局)
H17.12/21	クリスマスコンサート(別府市内老人福祉施設・山の手保育園, 大分空港)
H17.12/23	第11回べっぶ冬の祭典『クリスマスHANABIファンタジア』
H18.1/29	ハンドベルレクチャーコンサート(日田市出口小学校)

【平成18年度】

H18.6/10	ハンドベルコンサート(津久見小学校)
H18.10/7	ハンドベルコンサート(姫島小学校)
H18.10/31	亀川地区芸能文化祭出演(亀川小学校)
H18.11/1	津久見市地域・学校芸術文化祭出演
H18.11/23	ハンドベルコンサート(豊後高田市田染中学校)
H18.12/12	赤十字ふれあい広場にてコンサート(大分市・血液センター)
H18.12/18	ロビーコンサート(大分東郵便局)
H18.12/21	クリスマスコンサート(別府市内老人福祉施設・山の手保育園・大分空港)
H18.12/23	第12回べっぶ冬の祭典
H19.2/22	ハンドベルコンサート(上中中学校)

【平成19年度】

H19.9/27	盲養護老人施設ハンドベルコンサート(三国寮)
H19.10/11	ハンドベルコンサート(大分県立盲学校)
H19.12/16	別府冬祭出演
H19.12/20	ハンドベルコンサート(佐伯市上野小学校)
H19.12/24	べっぶクリスマスファンタジア(ゆめタウン)
H19.12/25	クリスマスコンサート(湯布院すみれ保育園)

ソサエティ過去3ヶ年の活動（H17.H18.H19）

4月	あしなが街頭募金・赤十字献血
5月	赤十字献血ボランティア・湯の町ウォークラリー
7月	自閉症児託児ボランティア
8月	サマーショートボランティア「おおいた」
9月	大分県サマーボランティア・国立別府重度障害者センターボランティア 別府発達医療センター「秋祭り」
11月	盲導犬ボランティア
12月	自閉症児ボランティア・盲導犬ボランティア
1月	盲導犬ボランティア
2月	知的障害児施設ボランティア・赤十字献血ボランティア

（2）短期大学では学生の地域活動、地域貢献あるいはボランティア活動等についてどのように考え、どのように評価しているか記述して下さい。

服飾デザイン学科

当学科の学生の社会活動は、前述のように大きく五つある。いずれも日頃学校で学習した事の応用そして発表という要素が強い。

広い社会に出ていっての学習は、日頃の狭い学内での学習活動から、たくさんの視線にさらされる場での活動となり、学生たちは楽しみながらも緊張感を持って多くのことを学んでいる。また、それぞれの活動は、日頃の学内での学習の様子を地域の人々に示すことであり、それは本学の教育の成果を見ていただくことでもあり、その意味でも学生の社会的活動は重要性を持っている。

食物学科

「卒業制作料理試食会」は、30有余年の歴史をもった本学科の伝統的な行事であり、教育活動の成果を世に問う最大の機会である。例年、参加者からは高い評価を得ており、栄養士をめざす学生にとっては自信と勇気が与えられ、大きな励みとなっている。今後は、さらなる地域に開かれた大学・学科をめざし、行事の検討・見直しを図っていきたい。また、学生にも社会的活動について機会あるごとに話し、社会貢献、ボランティア活動の意識と実践力を根付かせていきたい。

幼児教育学科

学科の活動の中で特にミュージックカーニバルについては、保育園・幼稚園・養護施設のみならず、地域の多くの方々から高い評価を得ている。その評価に対して学生はもとより、指導に当たる教職員も誇りに感じている。しかし、その評価に驕らず今後もより質の高い活動を目指したい。募金活動についても地道な取り組みを続けていく所存である。

介護福祉学科

ふくし・ふれ愛ひろばについては、地域の高齢者と深く関わることにより高齢者に喜ばれる企画の立案・実施の方法、実態の把握、コミュニケーション技術の習得など多くの学びが得られることから、今後も更なる工夫や必要性があると考えます。また、ボランティア活動に関しても、学生の「主体性」「自主性」を養い、本学の地域社会への貢献を目的として引き続き活動を継続していくことが学生の人間性を育むのに有為になると考えます。

ハンドベルクラブ

音楽的活動は、場を踏むことによって聴衆から成長させてもらうことが多い。それ故社会的活動は学生自身の成長の場になると同時に、社会に貢献できるという両面を持ち合わせた活動であるので、今後もできる限り充実させるべきだと思っている。

この活動をとおしての評価は、次のとおりである。

普段の練習成果を発表することで、成果を確かめることができた。

盲学校や養護学校等で演奏やワークショップをすることで、普段なかなか接することのない障害を持った方々と触れ合うことができ、広い視野を持つことができた。

一緒に音楽をすることで、大きな喜びを感じると同時に、達成感を味わうことができた。

皆さんから喜ばれることで、社会に貢献できた喜びを感じ、自分たちにできることは積極的に遂行しようという意欲が生まれた。(中越沖地震チャリティーコンサート企画等)

3. 国際交流・協力の取り組みについて

(1) 過去3カ年(平成17年～平成19年)の学生の海外教育機関等への派遣(留学《長期・短期》を含む)の状況を記述して下さい。

本学が加盟している日本医療福祉実務教育協会主催の海外研修に参加している医療・福祉・教育の研修を通して、現地の人々との交流を行うことにより、国際的視野の育成を行っている。

期日	平成17年9月4日～15日
場所	(UNIVERSITY of SETHERH QVEENSLAND)
内容	オーストラリア・USQ 医療福祉研修
人数	1名
期日	平成18年9月3日～14日
場所	(UNIVERSITY of SETHERH QVEENSLAND)
内容	オーストラリア・USQ 医療福祉研修
人数	1名
期日	平成19年9月2日～13日
場所	(UNIVERSITY of SETHERH QVEENSLAND)
内容	オーストラリア・USQ 医療福祉研修
人数	4名

(2) 過去3カ年(平成17年度～19年度)の短期大学と海外教育機関等との交流の状況を記述して下さい。

平成17年度	溝部学園創立60周年記念式典の際、中国の友好校から祝辞等をもらい、双方のこれまでの交流を改めて深めることができた。
平成18年度	中国・大連外国語学院を友好交流訪問した。
平成19年度	中国・大連外国語学院及び武漢大学口腔医学院を友好交流訪問した。

(3) 過去3カ年(平成17年度～平成19年度)の教職員の留学、海外派遣、国際会議出席等の状況を記述して下さい。

平成17年度は行われていない。

平成18年度海外派遣、国際会議出席等の状況

笠置 映寛准教授

期日	平成18年8月2日～8月5日
国際会議名	中央大学(東京)
	Progress in Electromagnetics Research Symposium2006
発表テーマ	Complex Permeability Spectra of Ferromagnetic Materials and EMC Applications1件

期日	平成18年8月20日～8月25日
場所	京都・国際会議場
国際会議名	International Conference on Magnetism 2006
発表テーマ	High Frequency Permeability of Ferromagnetic Metal Composite Materials1件

松波 勝准教授

期日	平成18年8月20日～8月25日
国際会議名	The influence of swimming caps on maximal
	intensity swimming 2006
発表テーマ	American College of Sports Medicine 53rd Annual Meeting, Denver1件

平成19年度海外派遣、国際会議出席等の状況

(3)松波 勝准教授

期日	平成19年5月29日～6月4日
場所	アメリカ、ルイジアナ州、ニューオーリンズ
国際会議名	American College of Sports Medicine 54th Annual Meeting
発表テーマ	Influences of swimsuit design on swimming performance in competitive female swimmers

4．特記事項について

(1)この《社会的活動》の領域で示した評価項目や評価の観点の他に、例えば高大連携等の他の教育機関との連携、外国人への日本語教育等、社会的活動について努力していることがあれば記述して下さい。

特になし。

(2)特別の事由や事情があり、評価項目や評価の観点が求めることが実現(達成)できないときはその事由や事情を記述して下さい。

特になし。

管理運営

1. 法人組織の管理運営体制について

(1) 短期大学を設置する法人のトップである理事長は、短期大学の運営に対して適切にリーダーシップを発揮しているか、また短期大学に係る重要事項はどのような流れで決定し、その流れのなかで理事長はどのように関与しているかを、できれば理事長自身が率直に現状を記述して下さい。

寄付行為の定めで、理事 5 名、監事 2 名、評議委員 11 名の体制で学園の業務意思決定機関として寄付行為の定めに基づき運営されている。

執行体制面での人員構成などを見直し、寄付行為の改正を行い、できれば内部教職員からの選任を増やし活力ある体制作りが必要かと思われる。

寄付行為の改正を行う事により、常務理事の新設となっており、学長の就任で、理事長の補佐業務ならびに経営と学務執行体制が更に強化されるであろう。

(2) 過去 3 ケ年(平成 17 年度～19 年度)の理事会の開催状況(主な議案、理事の出席状況等を含む)を下表を例に開催日順に記述して下さい。加えて理事会についての寄附行為上の規定を記述して下さい。平成 20 年 5 月 1 日現在の理事・監事・評議員名簿等を準備し、理事の構成に著しい偏りがないことをお示し下さい。また理事会議録は必要に応じて閲覧いたします。

「理事及び理事会」については、寄付行為第 3 章で定めている。「評議員評議員会」については寄付行為第 4 章で定めている。

理事会開催状況(主な議案、理事の出席状況を含む)[過去 3 年間]

巻末に収録(評価領域、別紙 1)

理事会の開催については、理事及び監事に出来るだけの出席を呼びかけている。議事についても学園の最高議決機関として、慎重かつ有効な審議を重ね決議している。理事等の構成には著しい偏りはない。

本学では、5 年程前から、各部門の代表者(短大学生部長・専門学校学生部長・高校校長・幼稚園主事及び事務局長)が集まり、学長を支え、意見具申する協議会を不定期に開催していた。この会を発展させ、学長の下に企画運営委員会を組織し、各部門の代表者が参加して、学校管理・人事及び経費削減等、あらゆる問題点について協議している。この構成メンバーは、次のとおりである。

- (1) 短期大学・・・学生部長他 4 名
- (2) 専門学校・・・学生部長他 2 名
- (3) 高等学校・・・校長及び教頭
- (4) 幼稚園・・・主事及び主任
- (5) 事務局・・・事務局長及び主任

この組織の根拠規程はないが、この委員会で出た結果は、常務理事の学長を通して、理事長に報告し、改善すべきところは、改善している。また、大きな問題は、理事会に提案するようにしている。

(3)理事会の下に理事会の業務を一部委任する常任理事会、幹部会等を置いている場合は、その名称と根拠規程、理事会との関係、構成メンバー等を記述して下さい。

監事の選任及び職務に関しては、寄付行為第3章第5条、第7条、第16条に定められており、2名の監事が選任されている。

監査状況

(平成19年度の監査状況)

実施時期：平成20年5月22日(木)

- ・阿部怜一幹事によって平成19年度計算書類(貸借対照表、資産収支計算書、消費収支計算書)を含め、業務の執行状況及び財務の状況を監査された。

平成19年度の理事の業務執行状況

(4)監事の業務についての寄附行為上の規定、平成19年度における監事の業務執行状況について、できれば監事自身が率直に現状を記述して下さい。

監事の業務については、寄附行為第16条に規程しているとおりである。本学園の監事は、私(阿部怜一)と江藤博先生である。しかし、江藤博先生が入院され、年度途中から一人になったので、とても不安であった。また、会計が専門でないために、2度にわたって、公認会計士にポイントのレクチャーを受け、大変勉強になった。なお、平成19年10月31日に開催された、文部科学省主催の監事研修会に出席してきた。レクチャーのお陰で、かなり理解することができたように思う。

(5)平成19年度の評議員会の開催状況(主な議案、評議員の出席状況等を含む)を開催日順に記述し、評議員会についての寄附行為上の規定を記述して下さい。

評議員については、寄附行為第21・22条の規程のとおりである。平成19年度に開催された評議員会(定員11名)について列挙する。

評議員会開催状況(平成19年度)

年	月	日	主な議案	出席状況	定数
19	5	28	・平成18年度決算審議承認について	11名	11名
19	6	28	・平成19年運転資金の借り入れについて	10名	11名
19	9	6	・大分県歯科技術専門学校学則の一部変更について	10名	11名
19	9	14	・別府溝部学園短期大学の定員割れ改善計画について	10名	11名
19	12	11	・平成19年運転資金の借り入れについて	11名	11名

20	2	15	・平成 19 年度補正予算（案）について ・大分県歯科技術専門学校歯科衛生科の新規臨床実習 医院の採用について	9 名	11 名
20	3	19	・平成 20 年予算（案）について ・ひめやま幼稚園の増築について	11 名	11 名

（ 6 ）法人の管理運営について今後改善や変更をしたいと考えている事項があれば記述して下さい。また法人が抱えている問題あるいは課題について差し支えない範囲で記述して下さい。

理事会と評議員のメンバーについては、現場の教職員を追加しなければならないと考えている。これが、学園を活性化する方法であると思念している。

今後は、少子化で、学生が飛躍的に増えることは考えられないので、どこかの機関から寄附をしてもらうことを計画しなければならないと思っている。その第一番に同窓会からの寄附が最適であるが、本学の弱点は、同窓会組織が脆弱である。この構築のために、本年度、5 年前の卒業生（比較的住所や氏名が変わっていない。）に学科ごとに同窓会を開催し、かなりの成果が得られたように思服する。これを継続し、同窓会からの寄附を予定することを計画していきたい。

2 . 教授会等の運営体制について

（ 1 ）短期大学の教育・研究上のトップである学長は、短期大学の教育活動全般について適切にリーダーシップを発揮しているか、また短期大学に係る教育・研究上の事項はどのような流れで決定し、その流れのなかで学長はどのように関与しているかを、できれば学長自身が率直に現状を記述して下さい。なお学長選考規程等があれば訪問調査の際に拝見することがありますのでご準備下さい。

平成 10 年の学長就任時に、我が国の将来の方向性を「コンピュータ社会」、「男女協同参画社会」と「高齢社会」の 3 点に収斂されるという予測をたて、平成 7 年から平成 11 年にかけてマルチメディアネットワーク学習システムの構築に尽力した。さらに、平成 14 年には高齢社会に対応して介護福祉学科を設置し、平成 15 年には校名を別府女子短期大学から別府溝部学園短期大学に変更し、男子学生への道を拡大した。

業務・分掌関係でも企画運営委員会の改編、学内 LAN 管理運営委員会や ALO 委員会・介護技術講習会実施委員会の新設など、本学の新しい教育活動に対応した改革にも精力的に取り組んでいる。

週 3 回の職員朝礼では大学運営の立場からの意見や会議報告で意見を述べ教員の向上のために励んでいる。

また、自ら各学期の前後に催される全教員・全学生を対象とした全学アセンブリーの場へ出席し建学の精神・教育目標を確認し、学生に対しての指導・助言を行っている。

(2) 教授会についての学則上の規定(教授会で議すべき事項等を含む)、平成19年度における開催状況(主な議案、構成メンバー、出席状況等を含む)を年月日の順に記述して下さい。なお、学則を添付して下さい。

学則上の規定

教授会

(教授会)

第29条 本学に、重要な事項を審議するため、教授会を置く。

2) 教授会は、学長、副学長、教授、准教授、講師、助教をもって組織する。ただし、学長が必要と認めた場合には、その他の職員を加えることができる。

3) 学長は、特別に指名した教職員をもって組織する常任教授会をおくことができる。常任教授会は、前項の教授会に代えることができる。

(審議事項)

第30条 教授会の審議事項は次のとおりとする。

1) 学則その他重要な規則の制定改廃に関する事項

2) 学科課程に関する事項

3) 学生定員並びに学生の入学、転入学、退学、休学、復学、除籍、卒業及び賞罰に関する事項

4) 学生の試験及び単位修得に関する事項

5) 学生の補導及び厚生に関する事項

6) 教授、准教授、講師、助教及び助手の人事に関する事項

7) 大学の運営に関する重要事項

8) その他法令に定めがある事項

(招集等)

第31条 学長は、教授会を招集し、その議長となる。

2) 学長に事故があるとき、又は、学長が欠けたときは、あらかじめ学長の指名する職員が前項の職務を代行する。

3) 教授会の構成員の3分の1以上の者から請求があるときは、学長は、教授会を招集しなければならない。

(定足数及び表決)

第32条 教授会は、構成員の3分の2以上の出席がなければ成立しない。

2) 教授会の会議の議事は、出席者の過半数でこれを決し、可否同数のときは議長が決するところによる。

(その他)

第33条 本章に定めるもののほか、教授会の運営について必要な事項は、教授会の議を経て学長が定める。

教授会構成メンバー

学長以下全職員

平成 19 年度開催状況

年	月	日	主な議題	出席者数	定数
19	4	3	学生異動について 1. 平成 19 年度業務機構・分掌 2. 平成 19 年度入学式実施要領入学式実施要領 3. オリエンテーション日程 4. 在籍者数 5. 平成 19 年度前期行事予定表 6. 平成 19 年度学年暦 7. 平成 20 年度入学試験日程 8. 平成 19 年度オフ・キャンパス 9. 研修旅行について 10. その他（出張について・職員座席表）	34	36
19	7	30	学生異動について 1. 夏期休業中の諸行事・計画について 2. 後期の行事予定について 3. 各学科・各課より 4. その他（頌徳式実施案・読書感想文コンクール）	29	36
19	9	17	後期の行事予定について 2. 頌徳式について 3. 姫山祭について 4. 各学科・各課より 5. その他（追・再試について 19 年後期について）	34	36
19	10	5	1. A0 入試 A 合否判定会議	35	36
19	10	11	指定校推薦入試合否判定会議	34	36
19	10	15	指定校推薦入試合否判定会議（含地方入試）	31	36
19	10	31	一般推薦入試 合否判定会議	33	36
19	11	15	A0 入試 B 合否判定会議	32	36
19	12	19	一般推薦入試 合否判定 学生異動について 1. 学則変更 2. 1~4 月行事予定表（案）・休業中当番表 3. 各課より・教務課 後期試験 平成 20 年度学年暦（案）・学生課 生活指導 姫山会 役員改選・就職指導課 進路状況・図書館 読書感想文コンクール表彰について 4. その他	31	36
20	2	2	1. 一般入試 A 入試合否判定会議	35	36
20	3	5	一般入試 C 入試合否判定会議	33	36
20	3	5	1. 卒業認定会議 2. 学事報告 3. 第 43 回卒業式について 4. その他	32	36
20	3	14	平成 20 年度業務機構・分掌（案） 2. 平成 20 年度入学式実施要領 オリエンテーション日程 4. 平成 20 年度前期行事予定表（案） 5. 研修旅行	32	36

（3）学長もしくは教授会の下に教育・研究上の各種の委員会等を設置している場合は、その名称と根拠規程、主な業務、構成メンバー、平成 19 年度の開催状況等を記述して下さい。

本学の教学の発展を図るために、各種専門委員会を設置している。それぞれの委員会の目的、任務は、各専門委員会の規程に定める。各委員会の委員は学務分掌として全学科教員並びに事務局から数名ずつ推薦され構成されている。各委員会では定期・不定期に委員会が開催されている。各課・各種委員会での重要事項は教授会に持ち込まれ審議される。各学科より選出された代表者が任務にあっている。

各課（平成 19 年 5 月 1 日現在）

- (a) 教務課
教務に関する企画・運営に関する事項を検討する機関である。課長以下 15 名の教職員で構成されている。
- (b) 学生課
学生指導に関する企画、運営に関する事項を検討する機関である。課長以下 21 名の教職員で構成されている。（開催状況 2 回）
- (c) 厚生課
学生の福祉・厚生の企画、各施設の運営等に関する事項を検討する機関である。課長以下 9 名の教職員で構成されている。（開催状況 1 回）
- (d) 国際交流課
留学生の入国・入学手続き等に関する事項を検討する機関である。課長以下 6 名の教職員で構成されている。（開催状況 1 回）
- (e) 就職指導課
就職・進学に関する企画・運営に関する事項を検討する機関である。就職支援、求人開拓を行う。課長以下 11 名の教職員で構成されている。（開催状況 5 回）
- (f) 広報課
学園広報に関する企画・運営及び募集に関わるパンフレット・ホームページ編集に関する事項を検討する。課長以下 11 名の教職員で構成されている。
- (g) 後援会
後援会の企画・運営に関する事項を検討する機関である。記念事業の実施に関する事項を検討する。課長以下 6 名の教職員で構成されている。
- (h) 同窓会
同窓会の企画・運営に関する事項を検討する機関である。同窓会名簿作成、刊行にあたる。課長以下 4 名で構成されている。
- (i) 図書館
図書を購入、管理及び紀要・学生の研究報告の刊行に関する事項を担当する。館長以下 5 名で構成されている。

評議会・委員会（平成 19 年 5 月 1 日現在）

- (a) 企画委員会
大学運営に関する重要事項に関する基本計画を審議する。学生部長、各学科長、各課長で構成する。学長、事務局長も出席。議題によっては精通しているメンバーが参加することもあり必要に応じて開催する。（開催状況 4 回）
- (b) 図書館評議会
図書館に関する企画・運営に関して図書館長が提案する事項について評議する。図書館長をはじめ司書、教務二課長計 3 名で構成する。
- (c) 研修委員会
学内研修（FD・SD）に関する企画・推進に関する事項を協議する。また公開講座についての運営を図るものとする。各学科より選出して 5 名で構成。必要に応

じて開催される。

(d) 実習委員会

実習規程の運営調整に関する事項を協議する。各学科より選出して5名で構成。学科長が委員長となり必要に応じて開催する。

(e) 舍務委員会

舎の運営・管理に関して付議する。舎生の自治、生活指導に関する付議や入退寮に関する事項を協議する。各学科より選出してカウンセラーや寮母も委員として7名で構成。必要に応じて開催する。

(f) 学生便覧等作成委員会

学生便覧の検討ならびに作成に関して協議する。また便覧の資料収集・整理を行う。教務第一課長をはじめ第二課長、課員3名で構成する。

(g) 研修旅行委員会

1年次に実施する研修旅行に関する基本計画の立案、企画・運営を行う。委員長を含め各科より1名ずつ選出。

(h) 学内LAN管理運営委員会

学内コンピュータネットワークの管理運営に関する事項について検討する。4名で構成する。

(i) 各種ハラスメント防止・対策委員会

各種ハラスメント防止に関するガイドラインの設置、及び防止・対策・相談等具体的事項に関する連絡調整を行う。委員長、カウンセラー、各学科より相談員を1名ずつ選出。6名で構成。

(j) アルバム委員会

卒業アルバムの作成計画立案を担当する。業者との連絡調整等を行う。委員長以下(2年次クラス事務担当)9名で構成。

(k) 介護技術講習会実施委員会

介護技術講習会の全般業務を担当する。介護福祉学科長以下11名で構成。

(l) ALO委員会

第三者評価に関する事項。年次報告書や事業報告書等の作成業務を行う。委員長以下7名で構成。

(m) 教育経費適正化委員会

教育に係る機器備品の購入に関する事項や出張に関する事項で事前に適正か協議する。学生部長、事務局長、各学科長と委員の計8名で構成。

(n) 個人情報保護委員会

個人情報保護に関する組織の点検や運営上の対応を行う。委員長以下4名で構成。

(4) 短期大学の運営全般について抱えている問題あるいは課題について差し支えがない範囲で記述して下さい。

本学の教授会構成メンバーは、全職員で事務的分担をしている者も含めており皆の知恵を出し合い、それが反映されやすい環境で行っている。教授会開催日は学生異動や入試会議など回数的にも少なくない。

また教育研究機関として運営できていないのが現状で、少人数による会議も必要と思われる。

3. 事務組織について

(1) 現在の法人全体の事務組織図を記載し、その中に短期大学の事務部門を記入して下さい。また組織図には短期大学の事務部門の役職名(課長、室長相当者以上。兼職の有無を含む)、各部門の人員(専任・兼任の別を含む)、各部門の主な業務を含めて記入して下さい。また事務組織が使用している部屋等は、機器・備品を含めて訪問調査の際に案内いただきます。

法人全体の事務組織図

巻末に収録(評価項目、別紙2)

(2) 事務職員の任用(役職者の任免を含む)について現状を訪問調査時にご説明下さい。

・事務職員の任用(役職者の任免を含む)について

事務職員の任用は法人による所定の選考手続き後、理事長の決裁を持って行われ、法人事務局、大学教務事務の各それぞれの部課に配置され、退職に伴う欠員補充等は発生都度、行う事としている。

平成17年度事務職員の役職者は、事務局長、総務部長、事務主任(2名)の4名であり、任免は職員昇格規程にもとづき理事長決裁を持って行われている。

(3) 事務組織について整備している諸規程名を列記して下さい。なお諸規程等は訪問調査の際に拝見することがありますのでご準備下さい。

組織運営に関する規程

寄付行為、学(校、園)長候補者選任規程、事務組織規程、文書取扱規程、起案決裁規程、公印取扱規程、業務機構・分掌規程

学校管理運営に関する規程

学則、管理運営規程、教授会規程、教員選考規程、寄宿舍規程、授業料減免に関する規程

就業に関する規程

教職員服務規程、役員及び教職員給与規程、役員及び教職員退職手当支給規程
定年規程、旅費規程

経理に関する規程

経理規程

資産管理に関する規程

固定資産及び物品管理規程、図書館規程、施設等貸出規程、保安に関する規程
防災管理規程

その他

自己点検、評価委員会規程、別府溝部学園短期大学・大分県歯科技術専門学校後援会々則、短期大学日本語ワードプロセッサ技能検定規程、溝部学園慶弔規定

(4) 決裁処理の概要と流れ、また公印や重要書類(学籍簿等)の管理、防災の状況、情報システムの安全対策等の現状を記述して下さい。

決裁処理の流れ

本学の業務処理については、業務の適切かつ正確な遂行を図るため、所管事項又は、受令事項の業務処理については「起案・決済規程」に基づき業務処理し、業務処理に際しては、処理事案を稟議し所属長の承認を求める。

決済については、理事長所管事項については最終決済を理事長が、又、学長所管事項については学長が行う。

稟議内容が理事会、評議会の議を要する事項の場合は付議した後に実行する。又、教授会の決議を要する事項の場合は、教授会で決議し、決議後は主管部署において速やかに執行する。

公印や重要書類(学籍簿等)の管理について

公印については「公印取扱規程」に準じ適切な取扱いを行っている。管理責任者は総務課長とし、公印の使用保管、その他関係事務を行っている。

又、学籍簿等の重要書類の保管については、専用の耐火金庫を設置し厳重な管理を総務課主管で行い、調査、持ち出しについては主管課長の許可を得る事としている。

防災については、「防災管理規程」に準じ、消防法などの法令を遵守し、必要な設備等を備え、消火器等については、指定業者に定期的な保守点検をさせて必要な届け及び申請については遺漏なく管理を行っている。

又、防災訓練を各部門毎に年一回を目標として実行している。なお、防災管理責任者を各部門毎に定め防火の啓発を行っている。

情報システムのセキュリティ対策

- 1) ファイヤーウォールにより学内ネットワークへの外部からの不正アクセスを防止している。
- 2) メールなどのウイルスに対しては、全てのPCにアンチウイルスソフトをインストールし常に最新の状態にしている。
- 3) 外部SEによるネットワーク監視により、外部からの不正アクセスなどネットワークに異常があれば、速やかに対応する事が出来る。
- 4) 学内のネットワーク構成は3つのドメインから成り、教員が使用する“mizobe”ドメインと事務局で使用する“JIM”ドメイン、学生が使用する“MMN”はそれぞれ独立して構成され、相互のアクセスは不可能となっている(管理者は除く)。
- 5) 学内のネットワークへアクセスする際には、個人的にユーザー登録された認証システムによって行われ、ID及びパスワードの管理は個人が行う。
- 6) 個人がネットワークへアクセスした記録はログとして保存され、不正アクセスがあった際には、解析する事が出来るようになっている。
- 7) 事務職員と教員の間では、学内のファイルシステムを活用した情報のやり取りを行っているため、独自にユーザー管理を行い機密性が保たれていながら、

容易な情報共有が可能となっている。

(5) 事務職員は教員や学生から支持され信頼されているか、できれば事務組織の責任者(事務局長等)が現状を率直に記述して下さい。

学生との関連業務は年間を通じて多岐にわたっている。各証明書の発行、学資・学費納入等に関する業務相談、又、郵便物の受渡し等事務職員と学生が接触する機会が多い。平成 18 年度卒業生アンケート結果から、学生中心の視点で全職員は懇切丁寧な姿勢での対応に心がけているが、学生に対する接客技術の向上に努める必要がある。学生から見れば不十分な点も多々あると思われるので、学生あつての学園という事で、より信頼に結びつく事を目指した行動を取るようになっている。

(6) 事務組織のスタッフ・ディベロップメント(SD)活動(業務の見直しや事務処理の改善等、授業改善を支援する職員等の研修等、事務職員の能力開発、内部研修、外部への研修等)の現状を記述して下さい。

業務の見直しや改善については、日々の業務を通じて取り組んでいる。事務職員の研修は外部研修が中心となっていて、職位職務に応じた研修に参加している。主な研修先は、文部科学省、日本私立短期大学協会など私学団体が主催する業務研修に参加している。

(7) 短期大学の事務組織が抱えている問題あるいは課題について差し支えがなければ記述して下さい。

当学園の事務組織体制は、法人事務部門と短大学務事務部門の縦割り組織による 2 分化体制でそれぞれの業務分掌の下に業務遂行を行っている。各部門間は十分なコミュニケーションを図っている。

しかし、法人と短大の事務部門間の“コミュニケーション”とその連携は十分とは言えない面もあるので意思疎通を図り、問題点を見直し、相互理解のもとに縦割り組織を超えて改善に取り組む事が今後の課題の一つである。

また、研修会に参加した者は、その成果を随時報告する必要があると思われる。

4. 人事管理について

(1) 職員の就業について、現在、短期大学が抱えている問題あるいは課題について差し支えない範囲で記述して下さい。なお教職員の就業についての規程(就業規則、給与規程等)を訪問調査の際にご準備下さい。

教職員の就業は、就業規則の上では教育職員・事務職員とも一律で、所定労働時間は 1 年間を平均して一週 40 時間以内としている。1 日の所定労働時間は 7.5 時間とし、始業時間は午前 8 時 30 分、終業時間は午後 5 時、その間に正午から午後 1 時までの 60 分間を休憩時間と定めている。

教育職員は土曜が休日で、週 3 日(月・水・金)は職員朝礼を実施しており、就業開始時刻はよく順守されている。教育職員は授業の他に、事務職員と連携を図りながら、学生の就職指導、学生募集、カリキュラム編成に関する事務的作業、学生の実習指導な

どに忙殺される毎日で、多くの教育職員は業務終了時刻を超過する事が多く、業務内容や業務分担の見直しが必要と思われる。

総務部の業務に当たる9名の事務職員については、隔週土曜休のために職員を2班に分け、交互の勤務体制を組んでいる。しかし、土曜日に行事が組み込まれる事が多く、規則的な休日となっていないため、代休制度をとっている。なお、教育職員、事務職員とも有給休暇の取得が不十分な点が上げられる。

(2)法人(理事長及理事会等)と短期大学教職員の関係について、できれば理事長及び学長がそれぞれ記述して下さい。

18年度は理事長と県行政機関との強い連携と協力により、大分県知事と本学の学生との対話集会が実現した。7月18日(火)に「広瀬勝貞知事と夢を語る会」が本学の多目的ホールで開催された。会では、服飾デザイン、食物、幼児教育、介護福祉4学科の2年生200名の代表11名が将来の夢を語り、県政への要望を述べた。「専門を生かして地域に貢献したい」と語り、県政に対しては、少子化対策や初等教育の充実、奨学金の増額、スポーツのできる職場作りなどの要望が出た。広瀬知事は「十分に検討し、応援したい」と答え、後日には質問者一人ひとりに対して懇切丁寧な励ましの手紙を頂いた。

(3)教員と事務職員との関係について、できれば学科長等及び事務局長がそれぞれ記述して下さい。

本学の常勤教員は40名で、事務職員(兼務を含む)は16名である。総務部の9名の事務職員は記念館の事務局室で、授業料をはじめとする金銭出納関係の業務に当たっている。学生部の7名の事務職員のうち、5名は短大本館の教務室で、2名は職員室で、カリキュラムや時間割編成、シラバスの作成、成績処理等に当たっている。教員と事務職員の関係は、お互いの業務の連携を密にし、学校運営の両輪として責任と使命の違いをよく理解し、尊重することが基本となっている。

次に連携の現状に関する教職員の主な意見を記述する。

- 教員と事務職員の間には、全体として良好な人間関係が維持されている。
- 事務職員の業務場所が3箇所に分かれている為に、職員間の連絡が取りにくい事がある。
- 事務手続きに出向く先が分かりにくいという学生からの声がある。
- 総務部事務職員の学生に対する態度が、厳しすぎると指摘がある。
- 年間を通して、教務事務関係の仕事が膨大な量になり、事務職員間及び教員と事務職員間の調整が必要である。
- 学生指導、学生支援について組織的な連携が取れている。
- 学務分掌によって職員との関わりには差があるが、基本的に各々の仕事の立場を理解し、尊重しよい協力体制ができている。

(4) 教職員の健康管理、就業環境の改善、就業時間の順守等の現状を率直に記述して下さい。

教職員の健康管理は、日常的な健康相談や応急措置、ならびに年1回の定期健康診断とその結果に基づく健康相談を、嘱託医を中心に行っている。

また、平成11年度から、健康増進法施行にあわせ、学内共用部分(研究室、会議室、事務室等)を全面的に禁煙とした。喫煙は、中庭の1箇所の喫煙コーナーに限定した。

就業時間は服務規程では、8:30~17:00(1時間休憩)となっているが、現状は8:30~18:00以上の教職員も多い。

5. 特記事項について

(1)の 管理運営 の領域で示した評価項目や評価の観点の他に、管理運営について努力していることがあれば記述して下さい。

管理運営については、別段の大きな問題点はない。特に、経営と教学の乖離が話題となっているが、本学園では、現在、学長の下に企画運営委員会を組織し、各部門の代表者が参加して、人事・学生募集や各種経費の大幅な削減や有効的な運用などについて協議している。この結果を理事会に提案している。従って、経営と教学が割合、円滑に進展していると考えている。

(2) 特別の事由や事情があり、評価項目や評価の観点が求めることが実現(達成)できないときはその事由や事情を記述して下さい。

特になし。

財務

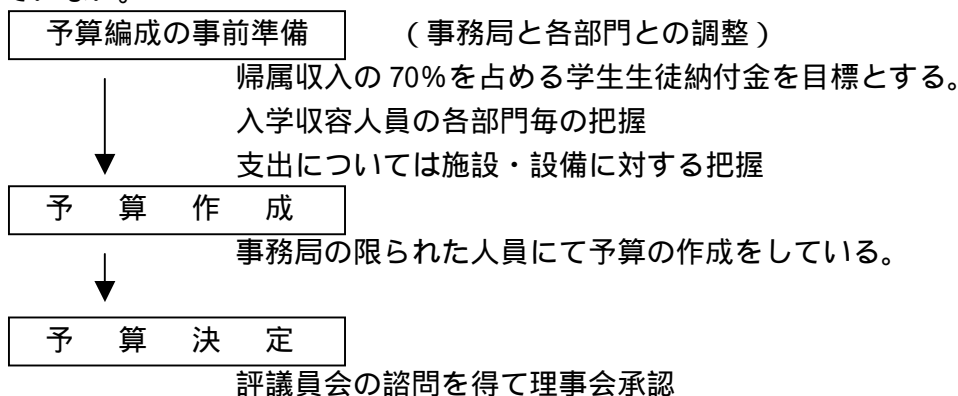
1. 財務運営について

(1) 学校法人もしくは短期大学において「中・長期の財務計画」を策定している場合は、計画の名称、策定した経緯等を簡潔に記述して下さい。なお中・長期の財務計画は訪問調査の際に参考資料として拝見致しますのでご準備下さい。

学校の使命である『永続性』を実現していくためには、策定は重要な課題であり、現状は平成 17 年 9 月 21 日策定「改善計画書」(5 ヶ年計画。平成 17 年度を初年度として、平成 21 年度最終年度とする。)に基づき実施中である。この計画書は大分銀行の借り入れ資料として大分銀行と協同で策定したもので、プログラム等が学園にはなく修正計画等が困難な状況にあり、平成 20 年度を初年度とした(5 ヶ年計画)策定に取り組んでいる。

(2) 学校法人及び短期大学の毎年度の事業計画及び予算決定に至る過程、手続を簡潔に記述して下さい。

現状は、予算編成に対する「システム」が確立されていないため、各部門に内容が徹底されていない。



(3) 決定した予算の短期大学各部門への伝達方法、予算執行に係る経理、出納の業務の流れを必要な承認手続きを含めて簡潔に記述して下さい。なお経理規定等の財務諸規定について、整備している規定名を列記して下さい。財務諸規定は訪問調査の際に参考資料として拝見いたしますのでご準備下さい。

現状は、予算収支の機能が果たされていない。

予算決定による内容が各部門に周知されていないので、各部門は内容が全く分からないのが実情である。

予算執行・支出については、個々の発生について各部門作成の起案文書にて学長・名誉学長・理事長の承認を得て予算の執行を行っているが、手続きの確定と、責任と権利の明確化等のシステムがないため予算執行機能は十分ではない。

(4) 過去 3 ヶ年(平成 17 年度～19 年度)の公認会計士監査状況の概要を開催日順に

記述して下さい。公認会計士の監査と監事がどのように連携しているか、また公認会計士から指摘を受けた事項があれば、その対応について記述して下さい。

監事による監査：17年～19年

年度	年	月	日	監事氏名	
17年度	18	5	22	江藤 博	安部萬榮
18年度	19	5	24	江藤 博	阿部怜一
19年度	20	5	22	江藤 博	阿部怜一

決算の資金収支、資産負債の状況、貸借対照表および関係明細表
理事の執行状況等

監査結果は「監査報告書」を作成し提出して頂いている。しかし、監査機能は十分とはいえない状況にある。

公認会計士による監査：17年～19年

私立学校振興財政法第14条3項の規定に基づく計算書類の監査

- ・資金収支計算書（人件費支出内訳表を含む）
- ・消費収支計算書及び貸借対照表（固定資産明細表、借入金明細表、及び基本金明細表を含む内容）のチェック（公認会計士による監査状況は別紙として巻末に収録）

公認会計士との連携：

監査期間中は、公認会計士の指示に基づき細部に渡って会計責任者、ならびに担当者より聴取した監査を受け、監査法人より監査報告書を受けている。

会計士からの指摘：指摘を受けた事項はない。

（5）財政情報の公開は今までどのように行って来たか、また私立学校法第47条第2項に基づき、財務情報の公開をどのように実施しているか。それぞれの概要を記述して下さい。

1）財務の公開

平成15年3月よりホームページによって下記内容を公開している。

- 資金収支計算書
- 消費収支計算書
- 貸借対照表
- 財産目録
- 監事及び監査法人の監査報告書

なお、上記資料を法人事務局に備付し、保護者・利害関係人に公開している。

2）今後の財務の公開に対する考え方

学校法人会計基準の一部が改正され、注記事項は従来より増加し、詳細な記述を求められている。

改正の主旨に沿って、説明責任を果たすべく開示書類の整備を図っていく方針である。

（6）寄付行為に基づき、どのような基本方針で資金等の保有と運用を考えているか簡潔に記述して下さい。なお資金等の保有と運用に関する規定等が整備されていれば、訪問調査の際に参考資料として拝見いたしますのでご準備下さい。

本法人の資産は「基本財産」及び「運用財産」に分けて管理運用を行っている。

・「基本財産」は、本法人の設置する学校に必要な施設及び設備、又はこれらに要する資金とし、財産目録中「基本財産」に記載する。

・基本財産の管理運用は、元本が確実に回収ができるほか固定資産として運用益が得られ、利用価値を生ずる方法で行う。

・運用財産は、本法人の設置する学校の経営に必要な財産とし、財産目録中運用財産の部に記載する財産及び将来運用財産に編入された財産とする。

・運用財産の管理運用は、元本回収ができる堅実な運用益が得られる方法で行う。

(7) 寄附金・学校債の募集を行っていただければその概要を記述して下さい。なお寄附金・学校債の募集についての印刷物等を訪問調査の際に参考資料としてご準備下さい。

寄附金及び学校債の募集は行っていない。

2. 財務体質の健全性と教育研究経費

(1) 過去3ヶ年(平成17年度～19年度)の資金収支計算書・消費収支計算書の概要を別表様式1にしたがって作成し、添付して下さい。

添付資料8

(2) 平成20年3月31日現在の賃借対照表の概要を、別表様式2にしたがって作成し、添付して下さい。

添付資料9

(3) 財産目録及び計算書類(資金収支計算書、資金収支内訳表・人件費支出内訳表・消費収支計算書・消費収支内内訳表・貸借対照表・固定資産明細表・借入金明細表・基本金明細表)について、過去3ヶ年(平成17年度～19年度)分を訪問調査の際に参考資料としてご準備下さい。

《資金収支計算書、資金収支内訳表、人件費収支内訳表、消費収支計算書、消費収支内訳表、貸借対照表、固定資産明細表、借入金明細表、基本金明細表》

(4) 過去3ヶ年(平成17年度～19年度)の短期大学における教育研究経費比率(消費収支計算書の教育研究経費を帰属収入で除した比率)を、小数点以下2位を四捨五入し1位まで求め記述して下さい。

教育研究経費比率(平成17年度～19年度)

区分	17年度	18年度	19年度
教育研究経費支出 (a)	152,906千円	153,120千円	141,066千円
帰属収入 (b)	586,236千円	541,592千円	534,782千円
教育研究経費比率 (a)/(b)	26.10%	28.30%	26.40%

3. 施設設備の管理

(1) 固定資産管理規定、図書管理規定、消耗品及び貯蔵品管理規定等、施設設備等の管理に関する規定を、財産諸規定を含めて一覧表として示して下さい。なお整備した諸規定を訪問調査の際に参考資料としてご準備下さい。

施設等貸出規程に関する緒規程（財務諸規程を含めて一覧表にして示す）

(2) 火災等の災害対策等、以下の危機管理対策について現状を簡潔に記述して下さい。

1) 災害時の災害対策

- ・火災対策として、法令上の消防設備を設置し、年1回の点検を原則としているが不十分である。
- ・地震対策として、食料・飲料水等の備蓄配慮等の対策はされていない。
- ・建物についての安全対策面も耐震調査の実施計画が費用の点で対策が遅れているのが現状である。平成20年度に耐震調査実施を考えている。

2) 防犯対策

不審者の侵入を防ぐため夜間警備を重点に、短大・歯科寄宿舍、高校寄宿舍にそれぞれ警備員1名あて配置し、午後6時より翌朝8時迄の14時間の常駐体制で防犯、火災対策を実施している。

キャンパス内にきちんとした門が無い場合、外部から自由に侵入が可能な状態で危険なので、門を設置する等検討中である。

3) 学生、教職員の避難訓練等の対策

毎年1回全学総合避難訓練を消防署参加の下、実施計画を原則としているが各部門の行事の都合上、現状は高校・幼稚園それぞれ単独で避難訓練を実行している。避難場所は幼稚園舎前の運動場として、訓練後は点呼・講評を行い、消防器による消火訓練を実施している。

短大および歯科も合同で毎年計画実施しているが、19年度は天候の関係で模擬訓練を行った。

4) 省エネ対策

省エネ推進のため授業終了時の照明・エアコン等の節約をしようお願いする程度で、十分徹底していないのが現状である。今後、各部門と話し合いを通じて具体的な対策を立て改善に取り組む方針である。

4. 特記事項について

(1) この IX 財務 の領域で示した評価項目や評価の観点の他に、財務管理について努力していることがあれば記述して下さい。

特になし。

(2) 特別の事由や事情があり、評価項目や評価の観点が求めることが実現(達成)できないときはその事由や事情を記述して下さい。

特になし。

改革・改善

1. 自己点検・評価について

(1) 短期大学では自己点検・評価を短期大学の運営のなかでどのように位置づけているか。また自己点検・評価を実施するための組織、規定等の整備状況を記述して下さい。

本学では、基本事項検討委員会が結成された平成5年に、自己点検・評価項目が17に設定され、その項目ごとに小委員会を設置し教職員を配置した。その後、平成11年に本学の実態を踏まえて 授業評価 シラバスの作成と相互評価 就職指導 学生募集の4項目について点検・評価を検討することになった。その結果、平成12年度前期に「授業」について、本学における最初の自己点検評価が試行されることとなった。

平成17年からは、8名のALO委員を決定し、さらに10の評価項目ごとに評価委員会を設定し、全教職員がそれぞれのどれかに所属し、点検評価する体制をとって進めていった。

平成18年度、19年度、20年度は、財団法人短期大学基準協会の審査を受けるために、同基準協会のマニュアルに基づいて自己点検・評価報告書を作成した。

19年度も継続して、学生による授業評価を中心とした自己点検・評価を作成した。これに基づいて授業の工夫を行い、またそれぞれの教員が学生の研究活動や学習活動を支援している。平成20年度は、年間活動を通して各分掌による自己点検評価も実施し、より充実した教育・サービスの提供を図る。

(2) 過去3ヶ年(平成17年度～19年度)の自己点検・評価報告書の発行状況を記述して下さい。なお過去3ヶ年(平成17年度～19年度)にまとめられた自己点検・評価報告書を訪問調査の際にご準備下さい。

平成12年前期授業以降、毎年、調査結果および分析を本学の紀要に掲載している。なお、本学の紀要は、県内外の関係大学および短期大学へ配布している。平成14年については、別府溝部学園短期大学への校名変更を伴って、別府女子短期大学という校名では最後の自己点検・評価を総括するものとして自己点検・評価報告書を作成した。

『平成14年度 別府女子短期大学自己点検・評価報告書』平成15年4月発行
配布先：文部科学省、短期大学基準協会、大学評価・学位授与機構、九州各県短期大学

『別府溝部学園短期大学紀要 第26号』平成18年3月発行
配布先：大分県立芸術会館、大分県立図書館、国立国会図書館、全国の大学付属図書館 188館

『別府溝部学園短期大学紀要 第27号』平成19年3月発行
配布先：大分県立芸術会館、大分県立図書館、国立国会図書館、全国の大学付属図書館 185館

『別府溝部学園短期大学紀要 第28号』平成20年3月発行
配布先：大分県立芸術会館、大分県立図書館、国立国会図書館、全国の大学付属図書館

2. 自己点検・評価への教職員の関与とその活用について

(1)平成19年度までに行った自己点検・評価に関わった教職員の範囲を記述して下さい。また今後、どのような教職員の関わり方が望ましいと考えているかを記述して下さい。

委員会構成（別府溝部学園短期大学自己点検・評価委員会）

- ・ALO 委員（各学科から選ばれた教員）
- ・理事長
- ・学 長
- ・全職員

自己点検・評価報告書は、10の委員会のそれぞれの主任と構成員によってデータ収集が行われ、それらをもとに原稿が作成されているため、本学の全教職員が直接的に関与している。自己点検・評価活動の一環である学生および教員による授業評価は全学生および教員（非常勤も含めて）が関わっている。今後とも私たち教員は、改善・目標に向けて努力し、全教員で取り組んでいく必要があると考える。

(2)平成19年度までに行った自己点検・評価結果の活用についてその実績を記述して下さい。また今後、自己点検・評価結果をどのように活用しようと考えているかについても記述して下さい。

調査結果は、各教員へフィードバックされ、各学科・コース毎にまとめられた結果および分析は、本学の紀要に掲載し公表している。

授業内容の改善

各教員が学生の授業評価を謙虚に受け止め、学生にとって分かり易い授業工夫や丁寧に興味を持たせる授業実践に取り組むよう努める。

問題点の明確化及び改善

評価結果をふまえて、各学科毎に問題点を明確化し改善に向けての取組を進めていき、次学期の授業計画に役立てていく。

評価システム導入

学科毎の教育目標、教育目的を設定し年度毎に評価するシステムの導入をし、評価法を継続する。

3. 相互評価について

(1)平成19年度までに行った相互評価及び外部評価の概要を示し、評価結果の活用についてその実績を記述して下さい。

平成12年度以降、長崎県の玉木女子短期大学、奈良県の桜井女子短期大学（現 畿央大学 短期大学部）両大学と毎年相互評価を行ってきた。しかし、桜井女子短期大学が四年制大学になったことを受けて17年度以降は行っていない。

平成19年度は玉木女子短期大学と、平成20年3月27日に相互評価を実施した。

(2) 相互評価や外部評価を実施するための組織、規定等の整備状況を記述して下さい。また、今後、相互評価や外部評価をどのように実施しようと考えているかについても記述して下さい。

相互評価は、学長・学生部長・教務第一課長・教務第二課長が当たっている。実施に際しては、相互評価の目的や実施方法・実施内容・実施時期、また相互評価結果のまとめ方や経費負担等について、互いに理解していなければならないことがあり、相互評価実施要領に則り実施している。

以前の両大学との相互評価では、自己点検・評価に関する視点や確認、学生募集や大学の活性化などに関して意見交換が行われている。

上記以外の外部評価としては、卒業生の就職先へのアンケートを実施し、学生の指導に活かしている。これからも各方面からの本学に対する意見や要望などを聞き、学生の指導に万全を期したい。

4. 第三者評価（認証評価）について

(1) 第三者評価（認証評価）を実施するための学内組織の概要を記述して下さい。

平成 20 年に第三者評価を受けるために、平成 17 年度 4 月に 7 名の ALO 委員が選出され、「ALO 評価基準委員会」を設置した。ALO 評価基準委員会は、評価項目ごとに 10 の委員会に分け、主任、ALO 委員、構成員をそれぞれ配置した。理事長、学長をはじめとし、全教職員が所属している。19 年度の委員会のメンバー構成は次のとおりである。

- ・ 各学科から選ばれた主任 10 名（学生部長、服飾デザイン学科長、食物学科学科長、幼児教育学科学科長、短期大学部事務局長が所属）
- ・ 各学科から選ばれた ALO 委員 8 名
- ・ 各学科から選ばれた構成員 26 名（理事長、学長、副学長が所属）

(2) 第三者評価にあたって短期大学の決意を述べて下さい。理事長、学長、各部門の長及び ALO（第三者評価連絡調整責任者）がそれぞれ記述されても結構です。

理事長の決意

学校法人溝部学園は、創立者の溝部ミツア先生の「郷里別府市に教育の基盤を創って、自立・自活できる学生を育成したい」という考えに基づき、昭和 21 年 4 月に創立した別府高等技藝学校に溯ることができます。10 年後の昭和 31 年に、その別府高等技藝学校は別府女子高等学校として生まれ変わり、さらにその後の昭和 39 年に、高校の専攻科を短期大学に昇格させ、別府女子短期大学として新たに出発しました。その後、幾多の改革変化を行い、校名も別府溝部学園短期大学と変更し、現在に至っています。学園の卒業生は 3 万名を越し、それぞれ県内県外で活躍をしています。

本学は、建学の精神である「自立・自活できる人材の育成」を基に、地域社会に貢献できる人材を輩出してきました。そのため、社会の変化に対応した教育環境の整備に努め、平成 9 年に全国初の学内統合ネットワークシステムを完成し、平成 11 年にはマルチメディアネットワーク学習システムを導入し、また、平成 15 年には介護福祉学

科を設置し、地域に有為な人材を送ってきました。

本学の理念・目標を達成するための、教育内容や研究内容の見直しと充実、また、施設設備等の充実、組織の管理や運営の検討等々、この第三者評価を機に見直し、最大限の教育効果が上がるように、前向きに取り組んでいきます。

学長の決意

別府溝部学園短期大学は、平成 20 年に「第三者評価」を受けることにしました。本短期大学は、平成 12 年度以降、学生の授業評価を主にした自己点検評価を行ってきましたが、平成 17 年からは短期大学基準協会の様式に従った自己点検・評価を行い、報告書を作成するとともに、その反省に立って、授業などの改善に努めてきました。しかし、これはあくまでも内部の点検・評価であって、客観的であるかといえ、多分に主観が混入していると考えております。

幸いにも、今回は、外部の先生方による点検・評価であり、客観的な評価を受けることとなります。これまで、我々が、内部で、点検・評価してきたことの修正を余儀なくされる事項もあるかと存じますが、ご指導、ご指摘を受けるなかで、今後の改善点や修正点が浮きぼりになれば、遅滞なく、改革と改善を続けて、短期大学教育の充実と発展に少しでも貢献できれば幸甚に存ずる次第です。

ALO の決意

平成 17 年 4 月、理事長・学長の意を受け、別府溝部学園短期大学として、短期大学基準協会の「第三者評価」を受けることが決定しました。以後 3 ヶ年にわたって、委員長のもと 10 の委員会が設けられ、それぞれの領域ごとに幾度も会議や協議を行い、自己点検評価を行ってきました。

最初の平成 17 年度は、それぞれが「第三者評価」そのものに対する理解も十分ではなく、各領域とも手探りの状態で進めて行きました。1 年目を過ぎ 2 年目になると、「第三者評価」の意義や内容も理解でき、各評価領域とも初年度に増して、充実した自己点検・評価ができました。

そして、3 年目の平成 19 年度は、1 年目、2 年目、3 年目の総まとめとしての報告書を作成します。

3 年間の、大学を挙げての「第三者評価」のための自己点検では、各領域を中心にした様々な議論、そして実践また検証がなされました。

これまでの「第三者評価」に対する私たちの真摯な取り組みが、本学のこれからの教育の肥やしとなることを祈っています。

5 . 特記事項について

(1) この「改革・改善」の領域で示した評価項目や評価の観点の他に、例えば評価に関する教職員への研修の実施等、当該短期大学が改革・改善について努力していることがあれば記述して下さい。

特になし。

(2) 特別の事由や事情があり、評価項目や評価の観点を求めることが実現(達成)できないときはその事由や事情を記述して下さい。

特になし。